

清流

八十年

兵庫県立加古川東高等学校

# 創立80周年記念誌



兵庫県立加古川東高等学校

加古川東高等学校校歌

富田 碎花 作詞

須藤 五郎 作曲

一、いざ見よ

行く手輝く日の柱

久遠の光に瞳をひらき

自治創造の力一つに

希望の鐘高らかに

うち鳴らせ

光はつねに東より

あゝ我等加古川東高校

二、いざ聞け

加古の水行く瀬々の音

絶えざる流れに思いを潜め

親しみ和する心一つに

希望の鐘高らかに

うち鳴らせ

光はつねに東より

あゝ我等加古川東高校

## 目次

### 記念式典

80周年記念事業紹介	1
記念式典・記念美術展・記念祝賀会	2
校旗披露	4
芸術鑑賞会・校歌新編曲録音風景	5
校歌新編曲楽譜	6
挨拶・祝辞	
校長 田寺和徳	10
兵庫県教育長 武田政義	11
実行委員会会長 荒尾素次	12
P T A会長 田中和幸	13
後援会会長 松尾一久	14
生徒会長 幾原亜季	15
記念講演	16
写真で綴る80年	
学ぶ（校舎・授業）	28
集う（さまざまな行事）	34
培う（修学旅行・一日旅行）	39
競う（体育祭）	43
創る（文化祭・文化部発表会）	49
紡ぐ（自治会・生徒会活動）	53
育む（部活動）	56
沿革	62
部活動この10年	79
育友会・P T A小史	100
清流会略史	104
歴代校長	106
歴代生徒会役員	108
平成16年度本校職員一覧	109
卒業生進路状況	110
校章・校訓・校歌・応援歌について	111
所蔵資料について	114
C D - R O M所収のデータについて	115
あとがきにかえて	116

# 80周年記念

## 事業紹介

### 「光はつねに東より」 四方に輝け、未来に光れ

記念スローガン 板垣法子さん（高校57回生）作

#### 記念式典及び記念講演

期日 平成16年10月23日(土)

会場 加古川市民会館大ホール

#### 記念式典（10：00～11：00）

- 1 開式の詞
- 2 国歌斉唱
- 3 物故者追悼
- 4 校長式辞
- 5 県教育委員会挨拶
- 6 来賓祝辞
- 7 来賓紹介（祝電披露）
- 8 P T A会長よろこびの詞

9 生徒代表よろこびの詞

- 10 記念事業目録贈呈
- 11 校旗披露
- 12 実行委員会会長挨拶
- 13 校歌斉唱
- 14 閉式の詞

#### 記念講演（11：20～12：20）

講師 TBS報道局 杉尾秀哉氏（高校28回生）

演題 私はこうしてニュースキャスターになった  
—我が体験的キャスター論—

#### 高校校旗の新調及び旧制中学校校旗の復元

#### 記念祝賀会

期日 平成16年10月23日(土) 14：00～15：30

会場 加古川プラザホテル 2階「鹿兎の間」

司会・講談 旭堂南海（内海 浩明）氏（高校35回生）

演奏 フルート：赤穂由美子 氏（高校42回生）・一角 香織 氏（高校53回生）

ピアノ：富田万理子 氏（高校41回生）・南川亜寿香 氏（高校42回生）

#### 記念美術展開催

期日 平成16年10月23日(土) 9：00～17：00

24日(日) 9：00～14：00

会場 加古川市民会館小ホール

演奏（式典終了後～13：30）

フルート：一角 香織 氏（高校53回生）

ピアノ：富田万理子 氏（高校41回生）

#### 記念誌（冊子及びCD-ROM）編纂

#### 高校校歌編曲（ピアノ伴奏譜及び吹奏楽伴奏譜）

編曲者 花坂 響 氏

#### 記念芸術鑑賞会開催

シャンソン歌手 広瀬俊郎 氏（高校18回生）によるコンサート

期日 平成16年7月13日(火) 14：00～15：30

会場 加古川市民会館大ホール

#### 普通教室棟内部全面改修

期日 平成16年7月23日～8月31日

# 記念式典



# 記念美術展



# 記念祝賀会



司会 講演の旭堂南海（内海浩明）氏（高35）





新調なった高校校旗



復元された中学校校旗

80年の節目の年にあたり、様々なお力添えのもと、二つの新しい校旗をここにご披露できますことを、皆様と共に喜びたいと思います。旧制加古川中学校と新制加古川東高等学校に連綿として受け継がれてきた精神は、この校旗にも託されているのです。

ご覧の校旗は、現在使われている校旗です。色あせや擦り切れが目立ち、新調する時期にあることが見てとれます。既に半世紀を超えたこの校旗ですが、実はそれ以前にも、この旗は別の形で本校の歴史にかかわっていたのです。当時のことを振り返ってみましょう。

昭和23年、学制改革によって新制加古川東高等学校が生まれ、校旗が新たに必要となりました。社会科教諭であった龍見 譲<sup>ゆずる</sup>先生は、まだ新しかった旧制中学校の校旗を携え、京都の旗屋を訪ねます。中学校旗に劣らぬ立派な旗を、高校校旗として作ってほしいと依頼するためでした。けれども、布もないし金糸もない、材料がないので作ることはできないと言うのです。戦後まもなくのことでした。無理ありません。

しかし、ただ一つ方法がありました。中学校の旗をつぶし、その材料を再利用すれば新しい旗を作ることができるのです。店主の平岡新一郎さんのその言葉に、龍見先生は思い悩んだ末、決断します。「かけがえのない中学校旗がなくなっても、新しくできあがる高校校旗はきっと二つの仲立ちとなるだろう。旧制中学と新制高校の同級生が永遠に結ばれることになれば、それも許されるかもしれぬ。」と。龍見先生の思いに応えた平岡さんは、精魂込めて旗を作り替えられたそうで

す。

校旗をもう一度御覧ください。中学校旗の生まれ変わりが、この東高の校旗だったのです。

昨年、記念事業として校旗を新調していただくことが決まりました。刺繍で織り上げる校旗は伝統工芸品とも言えるものです。そのため、どこにお任せしようかと探していたところ、偶然、京都にある平岡旗製造所の名前に行き当たりました。代替わりこそなさっていましたが、この製造所は紛れもなく、あの平岡新一郎さんのお店だったのです。

不思議な縁<sup>えにし</sup>を感じた私たちは、今度は逆に、この高校校旗を元の中学校旗に戻せないかと考えました。しかし残念ながら、あまりにも痛みが進んでいてそれは無理だということでした。そこで、中学校の校旗も新しい材料を使って復活させようということになり、前回同様、精魂込めてご子息の平岡昌高<sup>ひらおかまさたか</sup>さんに二つの校旗を作っていただくことになったのです。

スクリーンは新調した高校校旗と、復活した中学校校旗とを映し出しています。そしてここに、旧制中学校と新制高校が強く深く結ばれることを願った旗があったことも、心に刻んでおきたいと思います。今は亡き龍見譲先生と平岡新一郎さんのお二人に思いをはせるとともに、80年続いた絆をさらに確かなものにする決意を新たにして、この二つの新しい校旗を大切にしていきたいと考えています。

# 芸術鑑賞会



トークを交えながらの魅力的な歌声に、会場内は大きな感動に包まれた。

## 記念芸術鑑賞会開催

期日 平成16年7月13日(火)14:00~15:30

会場 加古川市民会館大ホール

内容 シャンソン歌手の広瀬俊郎 氏(高校18回生)によるコンサート

### 【広瀬 俊郎 氏のプロフィール】

1947年、加古川市生まれ。

立川清登氏に声楽を師事。石井好子氏と深緑夏代氏にシャンソンを師事。

1972年の第9回シャンソン・コンクール第3位を皮切りに、シャンソン歌手として、さまざまな分野で活躍。2004年にはレギュラー出演の「パリ祭」全国ツアーに参加。現在は歌手活動以外にも、シャンソン教室での後進の指導や、俳優のヴォーカル・レッスンなど、多方面で活躍。

## 高校校歌編曲(ピアノ伴奏譜及び吹奏楽伴奏譜)

期日 平成17年1月29日(土)

会場 姫路市文化センターリハーサル室

編曲者 花坂 響 氏

### 【花坂 響 氏のプロフィール】

1962年、京都生まれ。

代表作は、長野オリンピックの公式イメージソング、杏里の「SHARE～瞳の中のヒーロー～」のプロデュース及び編曲。『週刊ストーリーランド』(日本テレビ系)の初代タイトルソング、Peabo Bryson & Wendy MotenのDuetによる「My Gift Is You」の作曲。また、Peabo Brysonのアルバム「Unconditional Love」にプロデュース及び編曲として参加し、このアルバムが1999年の第42回グラミー賞にノミネートされた。その他、杏里、中西圭三、米倉利紀ほか多数のアーティストのプロデュースと編曲を手がけ、日本だけでなく、アメリカ、中国などで幅広い活動を展開している。



編曲者花坂響氏がわざわざ東京から駆けつけ、自ら指揮をして録音が行われた。

# 校歌新編曲録音風景

# 兵庫県立加古川東高等学校 校歌

高田 碎花 作詞  
須藤 五郎 作曲  
花坂 誓 編曲

The first system of the musical score consists of three staves. The top staff is a treble clef staff with a whole rest. The middle staff is a treble clef staff with a melody starting on a half note G4, followed by quarter notes A4, B4, C5, and a half note B4. The bottom staff is a bass clef staff with a whole rest.

The second system of the musical score consists of three staves. The top staff is a treble clef staff with a whole rest. The middle staff is a treble clef staff with a melody starting on a half note G4, followed by quarter notes A4, B4, C5, and a half note B4. The bottom staff is a bass clef staff with a whole rest.

The third system of the musical score consists of three staves. The top staff is a treble clef staff with a whole rest. The middle staff is a treble clef staff with a melody starting on a half note G4, followed by quarter notes A4, B4, C5, and a half note B4. The bottom staff is a bass clef staff with a whole rest. The lyrics "いぎみよゆ" are written below the middle staff.

The fourth system of the musical score consists of three staves. The top staff is a treble clef staff with a whole rest. The middle staff is a treble clef staff with a melody starting on a half note G4, followed by quarter notes A4, B4, C5, and a half note B4. The bottom staff is a bass clef staff with a whole rest. The lyrics "くてかがやくひのはしらく" are written below the middle staff.

The fifth system of the musical score consists of three staves. The top staff is a treble clef staff with a whole rest. The middle staff is a treble clef staff with a melody starting on a half note G4, followed by quarter notes A4, B4, C5, and a half note B4. The bottom staff is a bass clef staff with a whole rest. The lyrics "おんのひかりにひとみきひらきじ" are written below the middle staff.

22  
ち そ う ぞ う の ち か ら ひ と つ に き ぼ



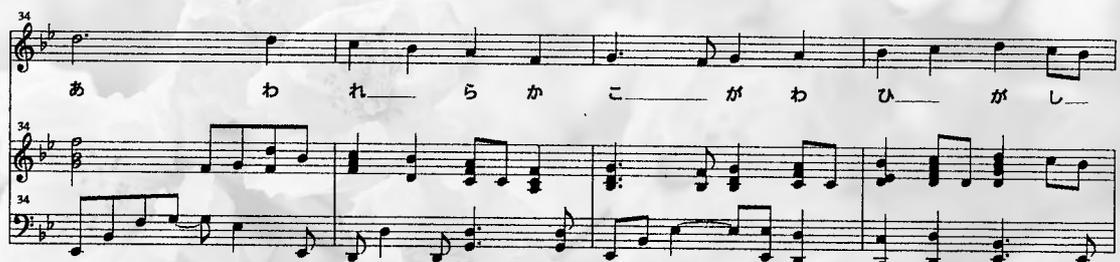
26  
— の か ね た か ら か に う ち な ら せ ひ



30  
か り は つ ね に ひ が し よ り あ



34  
あ わ れ ら か こ が わ ひ が し



38  
こ う こ う



42  
42  
42

46  
いざきけか

50  
このみずゆくせぜのおとた

54  
えざるながれにおもいきひそめし

58  
たしみわするこころひとつにきぼ

62  
 の か ね た か ら か に う ち な ら せ ひ

66  
 か り は つ ね に ひ が し よ り あ

70  
 あ わ れ ら か こ が わ ひ が し

74  
 こ う こ う

79

## 創立80周年を迎えて



校長 田 寺 和 徳

菊の花の薫る今日の佳き日に、多数のご来賓、同窓会、学校関係各位のご臨席のもと、兵庫県立加古川東高等学校創立80周年記念式典を、盛大に挙げてまいりますことは、まことに欣快このうえないところであり、心より厚くお礼申し上げます。

創立80周年記念事業の実施にあたりましては、同窓会やPTA、後援会が中心となり、二年前に記念事業実行委員会が組織され、様々な事業を計画し、着実に準備を進めてこられました。そのご尽力に対しまして、心から感謝申し上げます。

ここで、本校の歴史を少し振り返って見たいと思います。

本校は、大正13年に、地元の方々の強い願いと努力が実り、この加古川の地に、旧制の加古川中学校として創設されました。その後、昭和23年の学制改革による名称が変更され、加古川東高等学校となって現在に至るまで、その年月は我が国の激動の歴史と重なるものであります。この間、本校から飛び立って行かれた卒業生は26,000名を超え、国内外のあらゆる分野で有為な人材として活躍されております。

現在では、創立記念日を6月7日と定めておりますが、これは、昭和3年に、旧制中学校の五つの学年が全部そろった時点で、6月7日に盛大な開校式が挙行されたという歴史によるものであります。

さて、本校では、校訓「自治創造・明朗親和」の精神に則り、生徒諸君は自主性と主体性を発揮し、何ごとに対しても意欲的に取り組んでいます。そして、職員はそれを尊重して支えるという気風が漲っております。例えば、体育祭におきましては、生徒会の役員を中心とするリーダーが自主的、自律的に、企画から運営まで取り仕切り、大いに盛り上げ、成功へと導いていますし、文化部発表会でも、生徒会や各部が主体的に企画・運営をしております。保護者の皆様をはじめ、地元の多くの方々をご招待して行われるこれらの行事に、その本校の姿を感じ取っていただけるのではないのでしょうか。職員と生徒諸君とが信頼関係で結ばれ、お互いが心を通わせ、一体感を持って事に当たる姿勢こそが、まさしく校訓を体現したものであるといえましょう。もちろん、この姿勢が勉学の分野にも発揮されていることは言うまでもありません。文化部や運動部の活躍は言うに及ばず、進学の面でも多いに実績を上げてきています。これも、良き先輩諸賢が残された伝統と、保護者や地域の皆様、そして歴代の校長先生をはじめとします職員の皆様の、ご尽力の賜であると、思いを新たにしております。

校歌に「絶えざる流れに思いを潜め」という一節がございますが、悠久の時を刻む加古川の流れのように、本校がこれからも皆様方に信頼され愛される学校としてさらに発展し続けますよう、生徒・職員一同、精進をしていく所存でございます。今後とも、皆様方の変わらぬご指導とご支援をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本校の発展にご尽力いただきました歴代の校長先生をはじめ、旧職員、同窓会、PTA、後援会、地域の皆様、県教育委員会など関係の皆様、衷心より感謝申し上げ、挨拶いたします。

## 創立80周年に寄せて



兵庫県教育長 武田 政 義

兵庫県立加古川東高等学校が、創立八十周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

本校は、地域の人々の強い要望と熱心な支援のもと、大正13年に兵庫県立加古川中学校として、創立されました。その後、昭和23年に兵庫県立加古川東高等学校と改称し、今日に至っています。

創立以来、「質実剛健・自治創造」の校風のもとに、東播磨地区を代表する学校として、地域の方々の温かいご支援に支えられて着実に発展して来られました。この間、「自治創造・明朗親和」の校訓を掲げて、時代の要請や地域の期待に応えながら有為な人材の育成に力を注いで来られ、地域の方々から厚い信頼を寄せられています。また、創立以来、2万6千名余りの卒業生を送り出し、多くの優秀な人材が県内外を問わず各界で活躍されています。これもひとえに生徒一人一人の努力と歴代校長先生をはじめ教職員、保護者、同窓会、育友会の皆様方のご尽力の賜であると深く感謝いたします。

兵庫県教育委員会では平成15年7月に「兵庫の教育改革プログラム」を策定し、県民の「参画と協働」のもと、学校、家庭、地域社会それぞれが責任を果たしながら、「県民すべてがかかわる兵庫の教育」の推進を目指しています。また、各高等学校では、それぞれの夢を共有し、その進むべき方向を定め、さらにその完成度を高めて、確かな取組としようとしているところです。

このような中であって、本校は、ジェネラル・サイエンスコースを柱にして、生徒一人一人の意欲や興味・関心に応じた進路の実現のために、主体的な学習態度を養う等のキャリア教育の一層の充実を図っておられます。そして、生徒が主体となって、確かな人権意識を身につけ、命と人権に関わる課題に取り組む意欲と態度を育てられています。さらに体育祭や文化部発表会において、地域の人や保護者の参加を得て、地域との連携を強めておられ、生徒も参加しているPTCA活動を通じて地域社会に深く関わり、開かれた学校づくりを推進されていることは、心強い限りです。

本校の校歌に「希望の鐘高らかに」とあるように、八十年の伝統を継承しつつ、大きな希望を持って世界に向かって羽ばたかれることを祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

## 創立80周年を迎えて



創立80周年記念事業実行委員会会長  
清流会会長 荒尾素次

この度、多くのご来賓をお迎えし、厳粛な雰囲気そして本当に気持ちの良い80周年記念式典が挙行されました。記念美術展には多くの方々の素晴らしい作品を出品して頂き、又、楽しい祝賀会にも美しい音楽を奏でて頂きました。又、生徒の皆さんにもお手伝いを頂き、お蔭様で盛会裏に終了しました事を2万6千人の同窓の皆さんと共に喜び申し上げます。

私も当日申し上げましたが、県議会の先生からも皆さんの態度をお褒め頂きましたように、加古川東高校の生徒の皆さん一人一人が素晴らしい。

生徒代表の幾原亜季さんが色々言われた中で、「皆のために面倒くさい事もコツコツとこなす」こんな気風があることは先輩として本当に嬉しい次第です。

多くの先輩方が各地各界で活躍しておられますが、人間優秀なだけでは尊敬されません。学問の素晴らしさの上に人の為に人を愛するという人柄でなければならないと感じています。杉尾秀哉さんの講演でも和やかなお人柄が人々を魅了するお話でした。我々、戦争中に在籍した時は「質実剛健」「文武両道」でお国の為に命を捧げるという事でしたが、戦後「自治創造」「明朗親和」に変わりました、それらの校訓がよく生かされている様に思っています。この伝統は次の生徒の皆さんに受け継いでもらいたいと思っています。

記念行事では高校校旗と中学校旗の復活が出来、中学卒の我々は感激の至りでした。

「光は常に東より 四方に輝け、未来に光れ」これからの日本をリードしていくのが加古川東高校の卒業生であり、国会議員の先生が言われた様にノーベル賞学者が出る事も期待しております。

最後に実行委員会の皆さん、2年に余る綿密な企画運営を有難う御座いました。

## 創立80周年を迎えて 清流(青龍)のごとく



PTA会長 田 中 和 幸

兵庫県立加古川東高等学校が大正13年に兵庫県立加古川中学校として創立以来、80周年の節目を迎えられること、誠にめでたうございます。

この歴史の中で、加古川東高等学校は県下有数の進学校として発展を遂げてこられました。これも偏に、歴代の校長先生をはじめ諸先生方、関係者の皆さまのご尽力の賜物であります。

本校の輝かしい校史につきましては、その時代時代の関係者の皆さまが記念誌を飾ってくださると思いますので、記念すべきこのときにあたり、私は次代を担う在校生の皆さんに希望を述べたいと思います。

皆さんは四神をご存知でしょうか。そう、高松塚古墳やキトラ古墳で有名になった四方位を守護する霊獣のことです。その中で『東』を守護するのが青龍であり、古来、中国大陸の東方には海があり、青い水を司る龍が配されたといえます。この方位は陽が最初に昇るので、季節にすると春。春は若葉のシーズン。この青龍がかもしだす若い勢いの気配、それが“青春”ということばです。まさに皆さんの『東高』での今がこの青春なのです。

若さには夢と希望があり、なにより力が満ち溢れています。それだけで一つの才能といえます。その才能を使って自己実現をめざし、皆さんの先輩方のように美しく年を重ねていくのが人生です。

「歳月人を待たず」とか、「光陰矢の如し」とか申します。

在校生の皆さん、若さを浪費しないように、今この瞬間瞬間の自分自身の人生を、自分の力で精一杯生きて欲しい。未来に向かって羽ばたくために。

最後になりましたが、この80周年記念事業を行うにあたりご尽力いただきました皆さまに謹んでお礼申し上げます。

加古川東高等学校が、これから100周年、さらに200周年に向け、ますます発展されますことを祈念いたしますとともに、微力ではございますがPTAもそのために精一杯協力いたしますことをお誓いしまして、お祝いのことばとさせていただきます。

## 祝 創立80周年に想う



後援会会長 松尾 一久

「兵庫県立加古川東高等学校 創立八十周年」おめでとう御座います。心からお慶び申し上げます。さて、80年前と言うと1924年頃。日本では大正の末期。軍部が台頭しつつあったかな？当時の様子は教科書的にしか想像できないでいます。

私的なことで恐縮ですが、私の学生時代は一学年500名という大世帯。普通の生徒？であった私は、第20回の卒業でありながらこの周年事業には、全くの縁が無かったように思います。30数年ぶりに自分の子供らが本校に入学してから、母校を意識するようになり、PTAのお手伝いをさせて頂き、「周年事業」というものを知ることになりました。そして、この事業に立ち会うことが出来てうれしく思います。

この「80年」の1ページに、先の「中野直行校長先生」との出会いがあります。そして、先生は志半ばで他界されました。まさに「一期一会」。そのとき先生は、金子みすゞの詩に「みんなちがって、みんないい」と云う詞に代表されるように、お互いの「「ちがいがい」を「認めあう心」」を校訓の中に見つけ出す事も必要では、とおっしゃった言葉が印象的でした。私は、この地域における本校に対する異常なまでの期待に少し面食らっていました。本校の出身者のみが、成功者であるかのような考え方に対し嫌悪感を持ったのも事実です。この地域の俊英たちが、集い、競い合うことにより、ともに大きくなっていく事が、本校の目指す方向のように思います。

世の中は、日々変化しています。この80年の歴史にあぐらをかくことなく、時代や社会の「ニーズやシーズ」に合わせて変わり、発展していけるよう期待したいと思います。

あらためて、「創立八十周年」おめでとう御座います。

## 創立80周年あいさつ



生徒会長 幾原 亜季

80年もの長い間、加古川東高校がさまざまな歴史を重ね、この記念すべき日を迎えたこと、そしてその大切な節目の日に、在校生の代表としてここに立っていることを、本当に喜ばしく、そして誇りに思っています。

私は入学以来、数多くの発見をしてきました。中でも、一番大きな発見は、この東高の生徒の姿です。普段とは打って変わって行事に燃える真剣な姿、途中で投げ出さずに大切だと思うことをし続ける姿、みんなのために面倒くさいこともこつこつ頑張る姿、一つの問題に納得するまで執着する姿、そして、夢や目標に向かって突き進む姿。私はこの学校の一人一人のいろんな姿を尊敬しています。

ところで、東高生で一番多いタイプとは、内に秘めたおもしろさを持つ人です。普段は冷静であったり、落ち着いている人が、打ち解けた時に見せるあの爆発的なおもしろさ。どこにそんなの隠しとったん!?!とその度に驚かされます。そして何より、いざという時の実行力、判断力、そして強い意志。私はさまざまな行事を通して、まるで万華鏡のようなその思いがけないすばらしさに感動してきました。

体育祭の頃、連日の運営のため疲れ果てていた私の目に入ってきたのは、みんなのキラキラした姿でした。普段一緒に生活している友達や先輩、後輩が、必死に踊って、共に一つのことを成功させようとする姿。真剣で、いきいきして、なんとも楽しそうな顔。私はそれが素直にうれしく思えて、どんなにつらくても、みんなのために頑張ろうと決心しました。そうさせたのはこの東高生なのです。

新しい時代が来て、私たち高校生の見た目や考え方、そして学校の校風も制度も変わっていきます。それは当然のことです。ただ忘れてはいけないのは、本校生の心の奥底にある隠れた強い意志は、何年たっても変わらないということです。普段の私たちは伝統や歴史といった言葉を強く意識することはありません。しかしこの東高では、創立以来、今日この場におられる諸先輩方をはじめ、一万数千人という数多くの人たちが、その足跡を残してきました。私たち東高生の強い意志はその先輩方が残し続けてきたものでもあるのです。私たちのこれからの課題は、一人一人が持つ強い意志、能力をいかに発揮するかということなのです。この点こそ加古川東高校の見せどころです！それぞれの個性でお互いを刺激し、この80歳を迎えた東高をさらにきらきらと輝く学校にして、その足跡をしっかりと次の時代へ残していきたいと思います！

# 記念講演



## 私はこうしてニュースキャスターになった

—— わが体験的キャスター論 ——

講師：杉尾秀哉

(元TBS「ニュースの森」キャスター)

[出身] 兵庫県  
[生年月日] 1957年9月30日  
[所属] 東京放送(TBS)報道局勤務(ニュースの森担当部長)  
JNN・MBS系「ニュースの森」元キャスター  
2004年10月1日より報道局社会部長  
[家族] 妻と子供2人  
[略歴] 1973年 神戸大学附属明石中学校卒業  
1976年 兵庫県立加古川東高等学校卒業  
1981年 東京大学文学部社会学科卒業  
株式会社東京放送入社、報道局社会部配属  
警視庁記者クラブ、裁判所クラブキャップ、社会部サブデスク  
政治部平河クラブキャップ(自民党・旧竹下派担当)  
1993年 「ニュースの森」キャスター  
1998年 ワシントン支局・支局長  
2001年10月～ 「ニュースの森」キャスター  
2004年10月～ 報道局社会部長

皆さんお早うございます、と言うにはちょっと時間が遅いのでしょうか。先ほどの記念式典の方をちょっと聞いておりましたけれども、申し訳ありませんが、あと一時間ぐらいお耳を拝借したいと思います。

改めましてTBSの杉尾でございます。まず本日は創立80周年、本当におめでとうございます。一世紀近くの歴史ということで、私も卒業生の一人として、その伝統の重み、歴史の重みというのを感じる次第です。今日いらっしゃっております元校長の磯先生に担任をしてもらったこともあります。ちょうど私が在校の時に創立50周年を迎えまして50年の式典がございました。多分あの時は学校の体育館だったと思います。こんな大がかりな式ではなかったかも知れませんが、その時に関西学院大学の卒業生で教授をされている方の記念講演があったような記憶があります。多分心理学か何かの先生でしたけ

れども、何をお話になったかはほとんど覚えておりません。

今年80周年ということで、こうしてお招きいただいて本当に光栄なのですが、少しでも皆様の記憶に残るようなお話ができればと思っております。先ほど教頭先生より紹介がありましたけれども、私は1973年にこの加古川東高校に入学しまして1976年に卒業しました。卒業してもう既に28年ということになります。本日、加古川駅からここまで歩いて加古川東高の横を通って来たのですけれども、まず駅が高架になっておりました。前はボロボロの駅舎だった記憶があるのですが、ずいぶん立派になったなと思いました。それから駅前もロータリーになっていて百貨店があって、商店街もきれいになっていてよくなむろした喫茶店なんかきれいになっていたりしました。ところが、加古川東高の横を通りますと、学校自体は当時とほとんど変わってなくて非常に



懐かしい気がしました。卒業してから28年になるのですが、歳月の流れを感じると同時に、何となくすごく懐かしい気持ちになったということです。

大学を卒業しまして1981年にTBSに入社しました。こちらではMBS毎日放送と同じ系列ということになりますが、私はアナウンサーの採用ではなくて一般採用ということでしたので、どういう職場に行かされるかわからなかったのですが、とにかく報道の仕事をしてみたいというように希望しまして、その希望が通って報道局社会部というところで仕事をするようになったわけです。今また社会部の部長ということで、社会部に戻ってきたということなのですが、新米の記者時代はニュースの原稿を書いたり自分で取材に行ってインタビューを取ってきたり、記者レポートをしたりといったことをずっと続けておりましたが、入社して12年ぐらい経った頃に、「お前の方のニュース番組、『ニュースの森』でニュースキャスターをやらないか」ということで、会社の上司から半ば業務命令のような形で言われまして、私は「いやだ」と言ったのですけれども、とにかく「やれ」ということで、ここに書いてありますように、1993年に「ニュースの森」キャスターになったということです。

四年半でそのキャスターを一度やめましてアメリカのワシントンに特派員として行っていたのですが、戻って別の仕事を始めようと思っていましたら、また「やれ」ということになりまして、また三年、「ニュースの森」キャスターを続けました。そして今年の10月1日に異動がありまして、ちょうど三年間で二回目のニュースキャスターを卒業したということです。

どうして卒業したのかといいますと、やはり毎日の生放送といいますのは非常に緊張を強いられる作業でして、こちらでは「ニュースの森」は30分で、あとはMBSの「Voice」という番組になりますけれども、東京ではそのまま一時間通して番組をやっているのですが、一時間の間、人前といいますか、カメラの前で話すということは、わりとしんどい仕事でして、ちょっとくたびれてきたのでこの辺でやめさせてもらえないかということになったわけです。

そもそも私がなぜ放送局に入ろうと思ったかというきっかけなのですが、今日、放送部の生徒さんがこの会の進行をされていますけれども、実は私も放送部に入っておりまして、今は放送部には男子はいないらしいのですが、当時も、男で放送部というのは珍しくて、私も最初放送部ではなかったのです。

ところがクラスメイトが先に放送部に入りまして、どうも男の裏方が必要だということで、「入らないか」というように誘ってきたわけです。放送部の主な仕事というのはお昼の校内放送なのですが、お昼の校内放送で可愛い女の声のアナウンスを聞いていて、さぞかし可愛い女の子がたくさんいるのではないかと思って入りまして、ちょっと声のイメージと実際が違ってまして、ちょっと騙されたかなという気もしたのですけれども、そんなことを言ったら今の放送部の方に怒られますのであまり言いませんが、それは冗談にしましても、それで男四人ぐらいで入ったわけです。

私たちはアナウンスはできないので、アナウンスは女子部員の仕事で、私たちは音楽をミキシングしたり構成したりという裏方の仕事をしていました。放送部の当初の大きなイベントといますのは、今でもやっているのかもしれませんが、文化祭で放送劇をやっておりました。それともう一つ、NHKの全国高校放送コンクールというのがありまして、これに作品を出す、もしくは朗読をするというのが大きな活動の一つでした。高校3年生の時にNHKの全国高校放送コンクールがありまして、友達と一緒にラジオのドキュメンタリーのような番組を作りました。その内容を今から考えれば稚拙だったのですが、行いがあまりよくない、いわゆる不良少年のような子が立ち直っていくまでという話でした。それをラジオの録音構成でドキュメンタリーのようなものを作りまして、それを出品しまして兵庫県で入賞しまして、渋谷のNHKホールで開かれる全国大会に出場しました。その時の最終成績は覚えていませんが、そんなにいい成績ではなかったような気がしますけれども、その時の放送部での活動が忘れられなくて、いずれ仕事をするときにはこういう放送の



仕事をしてみたいと思ったのです。高校時代の放送部の仕事というのが、この放送の世界に足を踏み入れるきっかけになったということです。

実際に放送局に入ってみたわけですが、放送局というところはタレントさんとかいろいろな人がいて華やかそうでいいですね、などと言われますが、確かにそういうところもあります。例えば、僕がやっていた「ニュースの森」という番組では、特に関東版のところですが、結構ゲストが来まして、毎年春と秋の番組改変期になりますと目玉の番組のタレントさんがゲストでやってきます。私がいた時もNEWSの山下君が来たり、上戸彩ちゃんが来たり、それから藤原紀香さんが来たり、江角マキコさんが来たり、高橋克典さんが来たりというようにいろいろな人が来ました。

これは余談なのですが、実際ああいうタレントさんはテレビで見るのと実物はかなり違っておりました、わりと小柄な人が多いように思います。特にV6の森田剛君などは非常に小さくてすれ違ったりしたらこれくらいしか背がないような感じで、顔はこんな感じで、「エッ森田君はこんなに小さかったの?」といった感じです。テレビのカメラを通して見るとかなり大きく顔は丸く太って見えますので、私も痩せている方ではないのですが、非常に太っているように見られておりましたが、実際に見ると意外とやせているのですねというようなことを言われたりします。それから結構裏表のある人もありまして、これは誰とは言いませんけれども、もう解散しましたから、これは言っても大丈夫と思いますが、女の子の四人組でSPEEDというグループがいましたが、そのSPEEDの子達が年配のマネージャーらしき人とエレベーターに乗ってきて、結構年配の人を顎で使っているのを見たことがあります。この子達の実際はこんなものなのかといった感じがしたこともありました。

ドラマとかバラエティーの現場は華やかですが、私が勤務しておりました報道の仕事というのは、そういうこととは全く無縁な非常に地味な世界でありまして、朝早くから夜遅くまで一日中仕事をしなければいけないというところなんです。私はいま部長ということで皆の勤務管理をして見ておりますが、一か月で150時間くらい残業している人がいます。一日平均しますと毎日働いても5時間も残業しなければならないわけで、8時間労働ですから8プラス5で13時間くらい仕事をしていることになりますから、

下手をすると寝る時間が全くないということもあります。実際、私も記者時代はそうでした。事件とか事故とかが起きますと、ほとんど寝る時間がありません。毎日徹夜で働かなければいけません。

特に新人時代は私もこき使われて何もできなくて、へぼだバカだといろいろなことを言われてブツたかれました、この世界が向いていないのではないかと思ったりしながら必死になってやってきました。今でこそニュースキャスターのようなことをやっていたのですが、入社した当時はレポートなども滅茶苦茶で、初めて生中継でレポートした時でしたが、これはあまりよい話ではありませんが、千葉のある高校の校長先生が学校で自殺をしたというショッキングな事件が起こった時に、デスクが新人の私に「行け」と言うわけです。現場に行って普通に取材をしてインタビューするということだったのですが、「これは大きな事件だから生中継でレポートをしろ」と言われまして、生中継でレポートをし始めたのですが、なにぶんにも初めてなので上がりまくって、何を喋っているか分からないという状態でした。ところがその日は風が非常に強かったため、そのうち持っていた原稿が風で飛んでいってしまいまして、読もうと思っても原稿がないわけです。何を喋ったらいいか分からなくてしばらく絶句していたという記憶があります。新人時代はそういう思いをしながら一つ一つ仕事をしていくうちに一人前とはいえませんが、何とかマスコミの仕事をしてテレビの報道の仕事で生きていけるかなと思ったのが、本当に十年ぐらい経ってからのことでした。

そうやってニュースキャスターになったわけですが、ニュースキャスターの仕事はどういうものかということを簡単にご紹介しますと、普段は他人の書いた原稿、もしくは自分の書いた原稿を読むというのがほとんどです。実際のニュースの進行は決まっております、その進行と原稿どおりにその番組を進めていくこととなります。オンエアーの一時間前くらいから準備を始めて、とにかくぶっつけ本番でリハーサルはもちろんありません。ニュースですからいつ何時<sup>なんどき</sup>ということが起きるか分からない。例えば、番組をやっている最中に地震が起きるということもあります。実際に私がこの間やっていたときも結構大きな地震があって、途中から地震の話に全く切り替えたということもありました。そういったハプニングもありますが、普段は普通どおり淡々と進行と原稿どおりにやっていくということになりま



す。

よく、NHKのアナウンサーもそうですが、民放のアナウンサーとかキャスターの人もジューッと前を見て喋っていて、どうも原稿を覚えているのではないかということで、私もよく「あんなにいろいろなことが覚えられますね」と言われるのですが、あれは実は覚えているのではなくて原稿を見ているのです。例えば、私がこうやってテレビカメラの前に向かうとしますと、私の目の前にテレビカメラがありまして、そのテレビカメラの前に鏡がついております。鏡といいましてもこちらから見ると鏡になっているのですが、皆さん方から見たらガラスで透視されていてハーフミラーのようになっているというものです。その鏡のところに原稿を映し出して、その映し出された原稿を読んでいるわけです。ですからよくテレビなどのニュースをご覧になって、特にNHKのアナウンサーなどがそうですが、手だけが動いてズーッと前を見ているのですが、手が動いているのは原稿を流しているのです。ここに置かれた原稿をテレビカメラで撮って、そのカメラで撮った原稿が自分の前に映っているわけです。よく見ているとアナウンサーの人の目が右から左へ行ったり上から下に流れているのですが、あれは要するに読んでいるので、あのような目の動きになるのです。これはアメリカで開発されたプロンプターという装置なのですが、テレビではそういうことをよく使っております。バラエティー番組ではやりませんが、その代わりバラエティー番組では「カンペ」といって画用紙など紙に書いて、フロアーの人がここにいて、何回かそれをめくりながらこうやって見せているのです。ですから、ときどきバラエティー番組でも司会の人が見て喋っていますが、あれは要するに下に書いてあることを読んでいるのです。みんな結構覚えていないのです。間違えてしまって「そ

ろそろ引き取って」というのが書いてあったら「ではそろそろ引き取って」とそのまま読んだ司会者の人がいたりするのですが、意外とそういうものなのです。

そういうようなハプニングのない時の放送というのは、へまさえしなければいいのですが、ときどきさっき言いましたように思いがけないことが起きるわけです。その思いがけないことが起きたときには、自分の能力の全てを使ってあらゆることに反応しなければいけません。そういう時は原稿もありませんし、メモ程度のことしか来ませんので、その一枚のメモだけで一時間、二時間番組しなければならないことがあります。私がやった一番長いのは、多分、麻原彰晃、あのオウムの麻原、松本智津夫被告ですが、この麻原彰晃逮捕の特番です。これは午前4時半ぐらいから始めて12時ぐらいまで8時間ズットと田丸美寿々さんと二人で喋りっぱなしでした。いつ逮捕されるかも分からないし、ある程度の進行はあって、何か所かの中継先に記者はいるのですが、とにかく台本がない状態で7時間、8時間ズットと喋りっぱなしということで、とてもあれは疲れました。そういったこともあります。

最近私が司会をした特番で印象に残っているのは、小泉総理大臣が北朝鮮に最初に行って拉致被害者の件について金正日総書記が答えた、皆さんもご記憶だと思いますが、あの一件を報道特別番組として伝えた時のことですが、何らかの情報が出てくるだろうとは思っていましたが、まさか5人生存10人死亡または不明という情報が出てくるとは思いませんでした。事前にいくつか情報が流されておりまして何人か生存しているだろうと思っていましたし、少なくとも横田めぐみさんは生きていたろう、そして



当時の文化祭（卒業アルバムより）

横田さんについては言及があるのではないかとという予測やいろいろな予測は立てておりました。新聞とか通信社のなかにはそういう記事を配信したところもありました。そのうち平壤から衛星中継で、小泉総理に同行した記者がその会談の内容をレポートしてきますと、横田めぐみさんは死亡、他の10人についても不明または死亡と伝えられます。これを全然筋書きのない生放送をしていて、何かあると思っていただけ、まさか10人死亡・不明というそんなことはあり得ないだろうと思うわけです。その死因を聞いていると、例えば溺れ死んだとか、練炭の中毒死ですか、オンドルで暖める朝鮮の伝統的な家で暖めるので中毒死したとか、そういう情報がバンバン出てくるわけです。それを衛星中継で平壤からTBSの記者が伝えてきますので、それを生放送で処理しなければならないわけです。あり得ないと思う反面、冷静な日朝関係、外交の冷徹な現実が一方であるということなど、いろいろとバランスをとりながら放送を進めていくことは非常に疲れる、今でも何を喋ったか覚えていないぐらいの、そういうことがあったわけです。そういう大きな出来事的时候にも伝えなければいけない。ニュースキャスターというのは、そういう意味では結構しんどい仕事かなと思っていました。生放送は非常に怖いので、一回喋ったことは二度と取り消せませんから、私もたくさんしくじりましたし、だいたい標準語にはなっているのですがときどき関西弁が出て、お前のイントネーションが違うとかお叱りを受けたりしました。

それから思わず口走った言葉というのは非常に表現が不適切だったとか、例えばこれは私じゃないのですけれども、「ニュース23」をやっている筑紫哲也さんが、阪神大震災のときに神戸の街にあちこち火災が起きて煙が立っているのを上空からレポートしているときに、温泉場の湯煙という表現をして大変な抗議を受けたことがありました。それからうちの系列で北海道の奥尻というところで地震があったときに、青苗地区という、壊滅状態になった地区があったのですが、その地区の前で喋っているあるリポーターが、後ろの壊滅状態になった町を指して、「ご覧下さい。家屋がこのように見事にぺしゃんこになっています」と、「見事」と言ってしまって、これも相当な抗議を受けましたし、思わず出た言葉なんでしょうけれども、それが思わぬ波紋を巻き起こしたり、猛烈な抗議を受けることがあります。時には「死ね」とか「バカ」とか、そういうメールと

かファックスとか電話とかが殺到したりします。ある意味、報道の仕事というのは非常に怖い仕事です。

怖いのですが、逆にやり甲斐のあることもあります。例えば歴史的な現場に立ち合えたり、誰もが行けない場所に行けたり、誰もが見えないような人に会えるということがあります。例えば、歴史的な現場と言いますか、大きな事件で言いますと、社会部の記者時代、皆さんが生まれる前ですが、日本航空のジャンボ機が御巢鷹山に墜落した事故がありました。あの時、私も墜落した夜から御巢鷹山に登りました。夜明けを待って、とにかくどこに飛行機が墜落しているか分からないので、沢沿いに歩いて登るのですが、道がありませんから崖のようなところを登っていくわけです。その時、皆そういうことが起きるとは思わないので普通に社に出社していますので、スーツと革靴で山を登っていくわけです。各社がいろいろな所から競って登っていくのですが、私は一番乗りはできなかったのですが、一番乗りした記者がようやく夕方にたどり着いて、でも下りられないので、そのまま現場で野宿をした人も何人かいました。その中の一人に私の知り合いがいて、彼が後に語ってくれたのですけれども、現場で野宿をしていて、明け方寝返りを打ってゴロンとなったところ、手に触るものがあるというので「何だろう」と思ってみたら人間の手だったという、非常にショッキングな話をしてくれまして、山が焼け焦げてしまっていて「見るも無残な」というのはこういうことかという感じで、とにかくどれが人間の体でどれが機体なのか全く分からないという悲惨な状況もありました。

そういう現場にも行きましたし、同じ日本航空が、その二年前の1983年だと思いますが、羽田沖で墜落して、これも三十何人亡くなったのですが、その前の晩にホテルニュージャパンというところで火事があった、これも三十何人亡くなって、その翌日に飛行機が落ちて、その時は現場に一番最初に着きました。羽田の滑走路の一番端に先に着きますと、ちょうどまだ沖合いのところに落ちた飛行機がありまして、消防庁の人たちがゴムボートで乗客を機体からどんどん運び出して救出しているところでした。インタビューをしようと思うのですが、とにかく生死が分からないのでマイクが出せなくて、目の前を人が担架でどんどん運ばれていくという、そういう現場にも立ち合いました。それから皆さんもご記憶の阪神大震災の時も、ヘリコプターに乗って神戸の街



創立50周年記念式典の様子（卒業アルバムより）

へ行きましたけれども、そのような大きな事件や事故の取材現場をいくつか経験しました。

それから、普段会えない人に会えるという話をしましたけれども、例えば、私は政治部の取材をしていましたので、小沢一郎さんとか、亡くなりましたけれども竹下元総理とか、自民党の金丸さんとか、そういう人と毎日接していました。小泉総理も今年インタビューしました。そういう政治家達に会ったり、それから逆に、例えば、暴力団の組長に話を聞いたこともありましたし、その組長が後日神戸のオリエンタルホテルで射殺されましたけれども、そういう暴力団の組長に会うこともあります。それから、ワシントンにいる時はホワイトハウスを担当しておりましたので、クリントン大統領の記者会見や行事にはよく行きました。クリントン大統領がTBSに来てタウンミーティングというのをやったのですが、その時も私は日本に戻って、クリントン大統領に挨拶をして番組に出てもらって、最後に握手をしてクリントン大統領も喜んで帰っていったということもあります。そういう総理大臣や大統領に会う機会もあれば、暴力団の人に会う機会もあるし、体に障害を持つ人に話を聞く機会もあるし、実に様々な社会の中で生きている人たちと出会い取材をするという経験をしたわけです。

それからこの仕事をしておりますと、普段なかなか行けない場所に行ける機会というものもありまして、今年海外に二回行ったのですが、一つはイラクに今年の2月に行きました。自衛隊の本隊がイラクに入るときに、その自衛隊の後にくっついて行ってイラクのサマーワにクウェートから行きました。今ほど

は危なくないのですが、途中何が起るかわからない、実際その時も何人が襲撃されて海外のメディアの人間も殺されていきましたから、CNNというアメリカのテレビ局がありましたけれども、CNNの記者がサマーワのちょっと北の方で、バクダッドとサマーワの間の辺りで殺された直後でしたので、何が起きるか分からないということで、とにかく前後に警備の車を現地雇って、マシンガンを持った警備会社の警備員に前後に護衛についてもらって、私たちはヘルメットを被って防弾チョッキをしながら、しかも電話の回線を使って映像を送って生中継をしながらイラクに入っていったということがありました。

それから、今年の6月は小泉総理大臣が2回目の訪朝をしましたけれども、この小泉訪朝について初めて北朝鮮の平壤に参りました。私にとっては平壤は初めてだったのですが、実際に映像で見ているのと同じ部分もあるし、実際に体験するのはもっと生々しい北朝鮮の姿というのがありまして、街にほとんど車が走っておりませんし、歩いている人の顔は何か死んだような顔をして歩いておりますし、交通機関といえばトロリーバスしかなくて、そのトロリーバスは全部ギューギュー詰めでした。とにかく建設資材とか産業用の機械が極端に不足しているので、何でも要するに人海戦術をやっております。ダムを作る現場の記録映画をホテルで上映してはいたのですが、そのダムを造るのも、みんな手で石を運んだり、土をバケツリレーのような形で運んでいる。私が実際に目にしたのは、塀を壊す現場なのですが、塀のところにたくさん人がたむろして、何をしているのかと思ったら、塀の上に縄のようなものを引っ掛けて、みんなで引っばってその塀を倒そうとしていました。日本では機械でガシャッとつぶしてしまえばいいだけなので、そんなことをする人はいませんが、その壊す機械もないので、そういうようなことをしながらやっていたかなければならない北朝鮮の現状でした。それでホテルに泊りますと、高麗ホテルというところなのですが、そのホテルには部屋の入口に必ず大きな鏡がありまして、この鏡はさっき言いましたが、ハーフミラーになっていて、本当かどうか分かりませんが、向こうから見ているという話になっていたり、どうも監視されているらしいという話がありましたし、それから盗聴器が仕掛けられているという話もありました。誰かがそのホテルで「カレーライスが食べたいな」と言った

ら、翌日通訳の人が来て「カレーライスを食べに行きませんか」と聞かれてぎょっとしたと言っていました。多分盗聴されているのだらうと思われま。そういった、言ってみればすごい国です。私は世界でこれまで四十数か国行っているのですが、その中でも北朝鮮という国は非常に特異な国で、それが直行便で行けば2時間ぐらいで行ける距離にあるということで、本当に近くて遠い国だということを実感しました。

そういった、なかなか普段行けないところに行ったり、普段会えない人に会ったり、歴史的な現場を目撃したりというようなことがありまして、そうやって20年になるわけですが、今年でちょうど入社23年ぐらいになりますが、まさか私がこういう仕事をしているとは、皆さんぐらいの高校の時は全く思っていなくて、確かに放送局は憧れてはいたのですが、その放送局に実際に入ってニュースキャスターをするなどということは全く想像だにしておりませんでした。私はもともと子供の頃に吃音でなかなか人前で喋ることができなくて、人前に出ると真っ赤になって言葉がなかなか出なくなってしまうので、ものすごく引っ込み思案になっていて、とても人前で話ができるような状態ではありませんでした。それが、吃音については学校のようなところに通って治っていったのですが、どうもその時の記憶が頭の中に残ってしまっていて、今でも本当は人前で喋るのは得意ではないのですが、そういう、自分でもニュースキャスターという仕事をしていたという、ある意味で非常に不思議なものを感じます。

人生では何が起るかわからない、何があるかわからないわけですから、今は、皆さん、ちょうど高校で楽しい時期だと思いますが、これからどんなことがあるかわからないし、自分の思わぬ方向に行ったりするかもしれません。ただ私は、加古川東という高校に入って放送部で活動したということが一つの大きな転機になったということで、多分皆さんの今の高校時代というのが、将来を左右するような大きな出来事が起きるかもしれないし、そういった人間関係が作れるかも知れないという非常に重要な時期であるということ、少しだけ頭に入れておいていただければと思います。

時間が半分ぐらいきましたので、後半分、なるべくとんとんと話を続けて参りたいと思います。

話は変わりますが、私がアメリカのワシントンに

三年間特派員として勤務していた時に、非常に印象に残る出来事がありましたのでご紹介したいと思います。それは自分の仕事ではなくて子供の教育上でのことだったのですが、私には二人娘がおりまして、上の娘は今年二十歳になりました。下の子供は今度高校1年生、今、中学3年生なのですが、上の娘が、ちょうど私がワシントンに赴任したときにミドルスクールという中学校の現地校に入っていたものですから、その時の体験なのですが、子供も行ったばかりで英語が分からないので、親の方が少しはまじだろうということで、宿題をいろいろ持って帰って一緒にその宿題を解くというようなことがありました。ある時に、ワールド・スタディーという地理の授業の宿題に非常に面白いものがありました。鮮明に記憶に残っているのですが、そのストーリーの概略を紹介すると、旧ソビエトの中央アジアの方にアラル海という塩湖、塩の湖がある。このアラル海にはアムダリア川、シムダリア川という大きな二つの川が流れている。このアラル海の周辺というのは綿花の一大生産地でありまして、その綿花というのは、旧ソビエトにとって非常に貴重な外貨の獲得手段でありました。旧ソビエトは外貨を増やすために綿花の作付面積を増やして綿花の生産を増やそうということで、このアムダリア川、シムダリア川からその流域にいっぱい運河で灌漑用水を引いて、川の水を半ば乾燥地帯のその周辺に流して綿花の作付面積を増やしていったのですが、アムダリア川、シムダリア川から水を引いてしまったものですから、川の水がアラル海に流れこまなくなって、アラル海がどんどん縮小して行って、かつては琵琶湖の百倍ぐらいあって世界で四番目に大きな塩湖だったのですけれども、それがどんどん縮小して行ってしまって、かつて湖畔にあった町はもう数十キロ、三十キロぐらいと言っていました。数十キロも水際から離れてしまった。それで縮小していったところはどうなったかといいますと、砂漠化して行って、しかも塩湖ですから塩を含んでいるので、塩分を含んだ砂がそのあたり周辺に風で舞い散ることでひどい塩害になる。なおかつ、このアラル海自体は縮小しましたので、塩分の濃度がどんどん上がって行って、イスラエルとヨルダンの国境に水泳をしようとする、ぶかぶか人間が浮いてしまうという有名な死海というのがありますが、その死海よりも塩分が濃くなってしまったというストーリーが延々と英語で書いてあるわけですが、それを読んだ上でその宿題のテーマ



当時の文化祭での放送劇（卒業アルバムより）

というのは、「ではどうすればそのアラル海とその流域を救うことができるか。ソ連の環境大臣に宛ててあなたが提案の手紙を書きなさい」ということでした。結構、中学校としてはレベルが高い。それを例えば、英語で読んで日本語に訳して理解して、日本語で考える提案自体も非常に難しいのですが、今度はそれを英語にして出さなければなりません、これは相当苦労した記憶があります。この宿題は非常に印象に残っておりまして、多分日本でこういう教育をする時は、例えば「旧ソビエトにある世界で四番目に大きい塩湖は何という名前ですか。その注いでいる二つの川の名前は何かといいますか。旧ソビエトの綿花はそのとき世界で何番目の輸出量だったんでしょうか」というように、どんどん知識を深めていくのですけれども、どんどん暗記させていく。今は違うと思いますが、かつては結構そういうところがあつたりして、そういう教育の仕方のようなものが私の記憶の中にあるのですが、アメリカの教育のアプローチは全く違って、要するに長いストーリーをまず理解させよう、理解した上で「あなたは何をしますか」ということを考えさせよう、そして考えるだけでなく「提案しましょう」、提案する相手というのが先生とか仲間ではなくて、それがソ連の環境大臣であろうがアメリカの大統領であろうが、「しかるべき立場の人にもあなたは対等に主張できるのですよ」ということを体で覚えさせよ

うという、そういう教育の仕方に結構感銘を受けたことがあります。

よくアメリカで取材しておりますと気づくことがあります。日本での取材で、例えばインタビューしますと、話がダラダラして要するに何を言っているのか分からなくて、インタビューを長く使えないのでそれを後で編集する作業をするのですが、編集しようするときどこを取っていいか分からないし、話が切れなかったりします。そうして、そうして、そうして、といった話がダラダラ続いて非常に使いにくかったりするのですが、アメリカで取材しておりますと、英語の分からない私でも非常に理解できるし、そういう話し方をします。それから主張ははっきりしています。しかもセンテンスが非常に切れていますから、どこを取り出しても番組にするときにその人の主張が分かるのです。そういうことを常々感じていましたが、なるほどこういう教育の仕方をする、例えば自分の考えのプレゼンの仕方というのがだんだん身についていくのかなと思いました。実際に授業参観のようなのがありまして、下の子供の授業参観に行ったりして、その後、先生の面接を聞きますと、下の子供はとってもシャイで自分の考えを話すときに下を向いて話しているし、人の話も下を向いて聞いている。けれども一番大切なのはアイコンタクトですから、話すときは人の目を見て話しなさい。そういうことを娘さんに言って上げて下さいということを、先生から何回も何回も口を酸っぱくして言われました。通信簿にもアイコンタクトが重要だということがいつも書いてありました。人の目を見て話すこと、自分の主張をはっきり伝えること、しかもなおかつ、自分の考え方を簡潔明瞭に喋ること、そういうことが結構アメリカでは行われているのかなあと、それがすごく印象に



左から5番目が杉尾氏（卒業アルバムより）

残っています。

こういう話をしたのは、何もアメリカの教育のレベルが高いからとかということではありません。私は日本の教育のレベルが高いと思いました。実際に下の子が行って算数の授業なんかをすると、アメリカの子供は全然計算ができないからいつも真っ先に手を上げて、英語は分からないけれども数字くらいは言えますから、そういう意味では非常に優越感を感じていました。そういうところもありますが、ただやっぱり私は人に物事を伝えるという職業についていますので、どうしたら人に物事が伝えられるのだろうかということを考える機会が多いものですから、そういうアメリカの教育の仕方というのは、わりと重要なのかなと思います。日本人はどうしても主張が弱いとか、下手なのかなと思うことがあります。もし今の教育の現場でもそういうことが若干あるとすれば、これは先生方にもお願いしたいのですけれども、そういう教育の仕方もあるのではないかなというように思います。ただ、何分にも私が学校を卒業したのがずいぶん前なので今は違うかもしれないですが、そんな気がしました。

時間が後15分ぐらいです。いろいろな話をし、参りましたけれども、ここで皆さんに私が報道の仕事でニュースキャスターという仕事をしていて、何が重要かと思われることを、自分の経験の上で二つお話ししたいと思います。

一つは、まず重要なのは、人間というのはいかに引き出しを持っているかということだと思います。その引き出しにはいろいろな引き出しがありますが、例えばこういうことがありまして、私は学生時代は決して優秀な生徒ではありませんで、大学に行くにも浪人しなければ行けなかったし、現役の時代はどこにも通りませんでしたし、実際に主要三教科、英数国はととても弱くて、磯先生は国語の先生でいらっしやいましたが、国語がととてもできなくて、それでこのような職業をしているのは非常に皮肉なのですが、大学受験で非常に苦労した経験があります。ところが、わりと理科と社会が好きで、意外とその理科と社会が好きだったということが生きていたりします。高校時代に理科の地学で気象とかを学びますが、例えばお天気の本田さんという人がいますけれども、お天気コーナーで本田さんと掛け合いをする時に、学校時代に学んだ気象のことが基礎知識となって生きてくるのです。こういう基礎知識があるかないかで全然違ってきます。気象のこともそうで

すが、地理のこともそうで、さっき私が四十数か国に行ったと言いましたが、ある程度地理のことが頭に入っていると、ここはどのような国で、ここは何がポイントになっていて、しかも歴史的にこういう背景があるから、伝えるときにはそれをベースにして伝えようとか、ある国のことを理解しようとするとか、そういうことが生きてきます。例えば社会科でもそうです。それから理科に戻りますと、例えば遺伝子のことなどがありますが、私たちはヒトゲノム、ヒューマンジェノームとありますが、ヒトゲノムというのをニュースで扱うことがあります。そうした場合には遺伝子のことが分かっているわけじゃないわけじゃない。そういう、学生時代にはなぜこんなことを覚えなければいけないのか、何でこの勉強をやっているのかと思うようなことが、実は知識として後で生きてくることが多々あるということです。私も不真面目だった生徒のわりには意外とそういうことを覚えたりして、それがとっても役立つということがあります。私たちの仕事というのは、そういった人の生き死にを伝えることもあれば、スポーツを伝えたり、この間のアテネオリンピックのような感動を伝えることもありますし、お天気もやらなければなりませんし、いろいろなことをやらなければならないわけなんです。言ってみれば、森羅万象あらゆるジャンルのことを扱っているわけなんですけれども、しかもそれが常に同じテーマではなくて新しいテーマがどんどん舞い込んでくるわけなんです。そういうときに自分が学生時代に入れた知識、それからその後人間関係の中で人から聞いた話、それから実際に仕事を始めて取材で出会った人、それから取材したジャンル、そういったものが全部私の引き出しの中に入っていて、何か大きなことが起きるとか何か新しいことが起きるときにその引き出しを引っ張り出して、過去はこうだったから今度はこうなるだろうとか、ある予測を立てたりするときにとっても役立ちますし、物事を理解するときにとっても役に立ちます。こういう引き出しが多ければ多いほど私たちの仕事はやりやすいのです。これはマスコミの仕事だけに限らないと思います。この知識だけではなくて、例えば高校時代に培った友人関係をそのままずっと保っておくということも大切でしょうし、人間関係、友人関係、学校で学んだ知識経験、そういったいろいろなものが全て自分の引き出しの中に入っていますので、そういう引き出しをこれからもどんどん作ってほしいと思います。学生時代が一

引き出しが増える時期ですから、その引き出しを、皆さん、今の時期に増やしてほしいと思います。

それからもう一つ、この仕事をしていて大切だと思われるのが、好奇心と持続力だと思っています。日本に著名なジャーナリストがいっぱいいますけれども、例えばよく取材させてもらいました立花隆さんとか、同じキャスターという職業についている方で言えば、例えばうちの系列では、夜の番組の筑紫さん、それからフジテレビのアナウンサーから出発しましたけれども、今、TBS・MBS系列の「報道特集」という番組でキャスターをしている田丸さん、そういう人達というのは話を聞いたり、いろいろな機会に接触してみますと、とにかく好奇心の塊です。筑紫さんなどは七十数歳になっているのですが、あの歳にして未だに徹夜でマージャンをやっていますし、ありとあらゆることに興味があって、コンサートには必ず出かけますし、いろいろな人に会っているし、しかもその会う人のジャンルが非常に広いし、文化人に会うし、芸術家に会うしというようにニュースの仕事に限りません。あの人は本当に好奇心の塊のような人です。田丸さんもそういうところがあります。それから立花さんという人も本当に好奇心の塊で、あの人が書いた著作を見ますと、田中角栄の研究から始まって、宇宙から人体から脳死から、いろいろなテーマについていろいろな本を出しています。あの人も好奇心の塊です。ですから立花さんと話をしていると、いろいろな知識があるものですから話し始めると止まりません。やっぱりすごいなと思います。

何事においても好奇心を持つということが、まず物事を知るときの出発点になるのではないかと思います。ただ、いくら好奇心があってもその時だけの一過性のものに終わってしまって、次から次へと行ってしまえば後に残らないわけなんです。好奇心を持続させる作業というのが次に必要になってきます。例えば私たちの仕事で言いますと、ニュースの仕事というのはいろいろな事実がありますが、その事実の中から真実というものになるべく近づいていかなければならないわけなんです。みんな、立場が違う人は言うことも違いますから、いろいろな人から話を聞いてその一つ一つが事実だとしたら、その事実の中から真実を見極めていかなければいけないという作業をしていくのですが、そういう時に必ずしも相手の人が取材に好意的に応じてくれるとは限りません

し、逆に触れられたくないことに触れているかもしれませぬし、例えば表に出ないこと、要するに裏に隠れていることを取材しなければいけないこともありますし、そういう真実を見つける作業の中には、結構気の遠くなる作業が必要だったりするのですけれども、そこで必要なのが持続力だということです。

ですから、まず好奇心をもって物事を見つめて、ではこれをとことん突き詰めていってみようというときに持続力が必要になってくるわけです。そういう好奇心と持続力というのが私たちの仕事には非常に大切です、多分どんな職業についても非常に重要なことだと私は思います。これは皆さんがこれからどういう職業につくにしても、そのことを頭の片隅に入れておいていただくといいのではないかと思います。

長々と話をして参りましたが最後まで最後になりますが、さっき私が申しましたように、私の高校時代にはまさかこんな仕事をするとは思わなかったのですが、頭の片隅でチラッと有名になってみたいとか名前を世の中に残したいとか、ある野心のようなものはあったと思いますけれども、実際にそうなるとは思いませんでしたし、ニュースキャスターという仕事は、実は先ほども言いましたように、そんなに大した仕事ではないのですが、ただニュースキャスターという一定の社会的立場がある職業についてのことです。これも偶然が重なったことなのですが。

皆さんもこれからどういう職業につくか分からないし、またどういう人生を歩むか分かりませんが、いずれにしても無限の可能性があるというように思います。吃音で人前で話せなかった私が実際に人前で話す仕事についているわけですから、それはあながちウソではないと私は思っております。皆さんはこれからどういう人にもなれるのです。例えば、最近話題になっていますけれども、ライブドアの堀江さんとか、楽天の三木谷さんとか、三木谷さんは明石の出身で実家が近いらしいのですが、最近あいった青年実業家も増えています。みんなどんどん物事を発信していっていますし、主張していっています。そういう青年実業家になることもできますし、お金儲けもできます。だけれども、私は職業というものはお金儲けのためにやっているのではないと思っています。

私がどうしてマスコミを志望したかといいますと、やっぱり世のため人のために役に立ちたいというこ

とだったわけです。それは高校の時に作った録音構成、ある少年の更生の物語というものを作っていたときに、世の中には日の当たらない人もいるし、努力している人もいます。そういった表に見えないものの、陰にかくれたものに光を当てたい、ある意味で言えば、社会正義を実現したいということでもあるのですが、そういう世のため人のためということで自分の職業はそれが一番適しているのが放送局だと思って、放送局を志望したということもあります。

私も皆さんの若い姿を見ていて、どういう進路を選ぶにせよ、そういう世のため人のためなのでしょう、何か青臭い言い方かもしれませんが、そういうことを考えながらこれから大学に進むにせよ、就職するにせよ、その後どこかの会社に入るにせよ、自営の仕事をするにせよ、公務員になるにしても、そういうことを頭の片隅におきながら、これからの進路を進んでいっていただきたいと思います。

皆さん、今日はちょっと押しているようなので、最後ちょっと私らの世界で「巻く」と言いまして早くするのですが、少し巻き気味に話したので分かりにくいこともあったかも知れません。これが「我が体験的キャスター論」ということからだいぶ離れてしまいましたが、私が経験していくつか感じたこと、学生の皆さんに今言いたいこととこのことを、羅列的ではありましたが、お話したということです。

一時間近くはわたってお話を聞いていただいて本当にありがとうございます。寝ている人が少ないのでびっくりしておりますが、大体こういうときは寝ているものだろうと思っておりまして、私も学生時代こういう話を聞くとほとんど寝ていたので、ある意味本当にスゴイと思うのですが、別に寝ていても構わないのですけれども、これから大きな目的をもって学生生活、改めて人生を過ごしていただきたいと思います。それから先輩の皆さんも前にたくさんいらっしゃいます。このような壇上で、特に、恩師の磯先生の前でこんな偉そうなことを言うようになるとは思いませんでしたが、本当に壇上でお話したことにつきまして、皆様に本当に僭越でございましたというように申し上げて、それから学生の皆さん、頑張ってください。改めて加古川東高等学校80周年、本当におめでとうございませぬ。長くりましたが、私の話はこのへんで切り上げさせていただきます。どうもご拝聴ありがとうございます。(拍手)

# 写真で綴る80年



大正から昭和、そして平成へ。本校の歴史は日本の近現代史とともにある。

軍靴の響きが人々に暗い影を及ぼしつつあった80年前、本校はその呱呱<sup>こゝろ</sup>の声をあげた。世の中が戦時色に染まっていく中で、本校として例外ではなかった。幾多の尊い命が失われていったのである。

ようやく戦争という軛<sup>くびき</sup>から解き放たれた後、新制高校となった本校は、加古川西高校と折半交流をし、男女共学の加古川東高校として新しく出発することになった。

この加古川の地で、数多くの人材を送り出してきた本校。時代に翻弄されながらも、そこには脈々と流れる若者たちの命の輝きがあった。

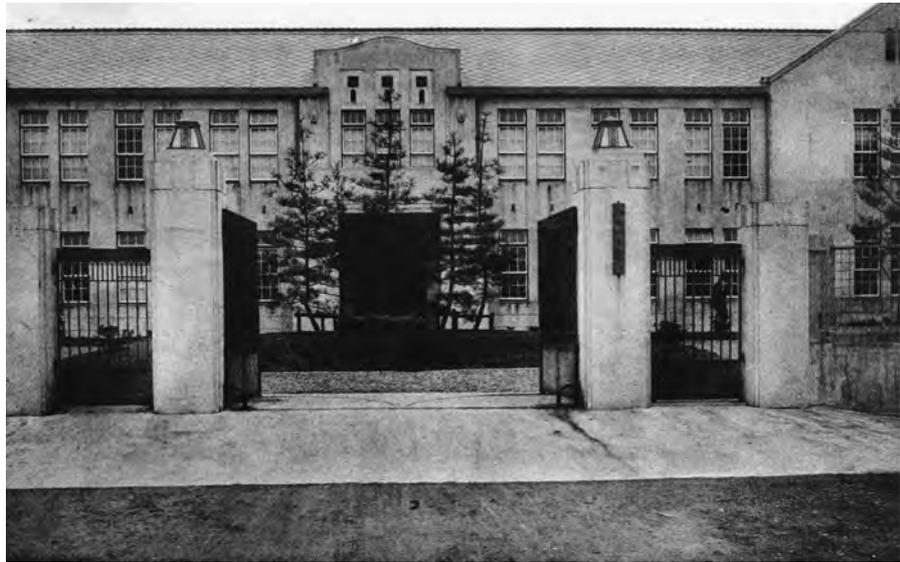
ここでは、卒業アルバムを中心に、以下の七つの柱を設定して、本校に学んだ多くの若者たちの姿を追ってきたい。

- 学ぶ（校舎・授業）
- 集う（さまざまな行事）
- 培う（修学旅行・一日旅行）
- 競う（体育祭）
- 創る（文化祭・文化部発表会）
- 紡ぐ（自治会・生徒会活動）
- 育む（部活動）

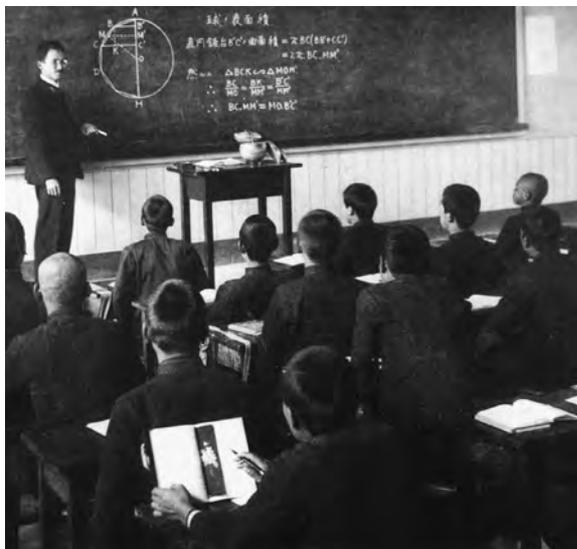
なお、今回の記念誌編纂に際して、多くの方から貴重な写真を提供していただきました。お寄せいただいたものはすべて資料として大切に保存しておりますが、誠に残念ながら、ここでは、編集の都合でほんのわずかしかが掲載できませんでしたことを、申し訳なく存じております。

# 学ぶ

校舎・授業



(中1) 正門。堂々とした外観に周囲から寄せられた期待がうかがえる



(中1) 数学の授業。背筋をまっすぐ伸ばして聞き入る生徒たち



(中1) 理科の実験。器具は十分ではないものの、各人の創意工夫がそれを補った



(中4) 職員室



(中4) 帽子と鞆。この学生帽をかぶるのが夢であった



(中4) 講堂



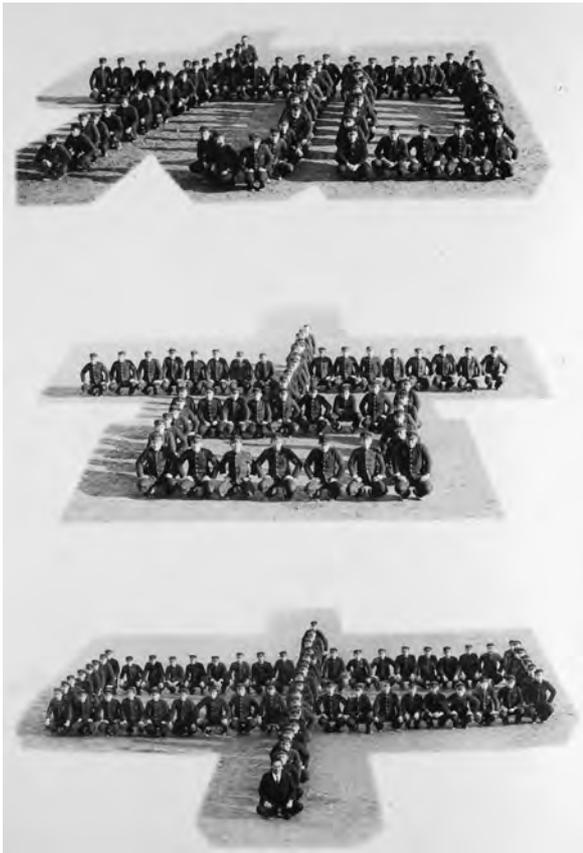
(中4) 図書館



(中10) 美術の写生



(中13) 器械体操。垂れ幕の文字に時代が偲ばれる



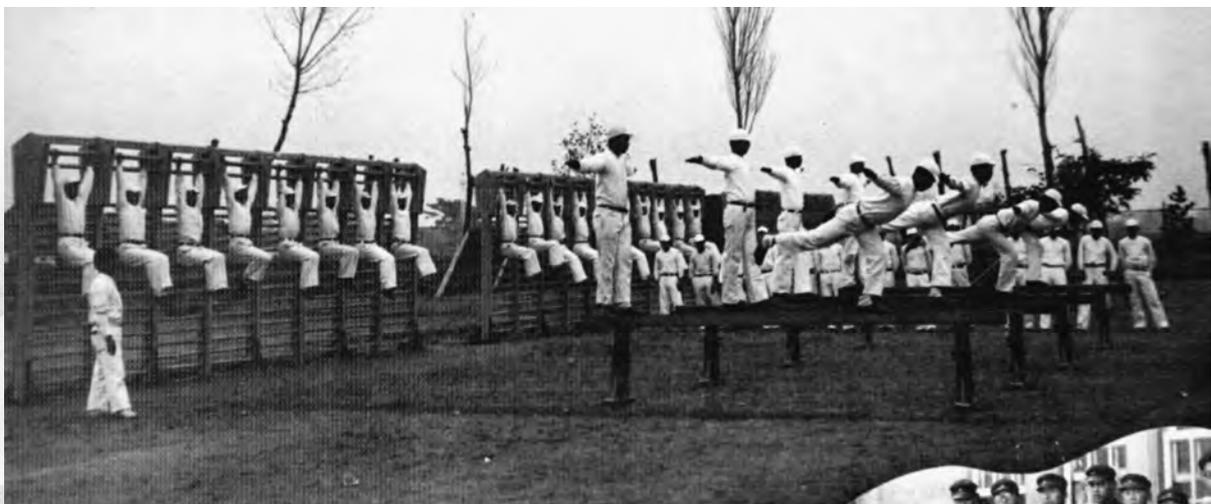
(中11) 人文字



(中13) 英語の授業



(中8) 水泳の授業か



(中8) 体育の授業。整然とした動きが印象的だ

# KAKOGAWA HIGASHI High School 80th Anniversary



(高3) 校門。上のプレートの英語が戦後を象徴している



(高4) 家庭科での調理実習。当時、家庭科は女子だけが履修していた



(高8) 本館南側



(高21) 正門。現在の北門のある場所より西の方にあった



(高31) 体育の授業



(高30) 右手に見えるのが体育館



(高31) 体育の授業



(高35) 「共通一次試験」は現在のセンター試験の前身

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	C	世	政・倫	地	生	R
2	世	英	漢	倫・日	G	教I
3	古	現	特現	英	政・倫	日
4	ゼミ	地	G	古	体	体
5	教I	R	教I	LHR	現	
6	体保	体	生	(M)	世	

(高35) 3年生文系の時間割

# KAKOGAWA HIGASHI High School 80th Anniversary



(高34) 加古川駅前。現在は大きく様変わりしている



(高53) 数学の授業



(高47) 食堂



(高51) 食堂。昼休みの憩いの場である

# 集う

さまざまな行事



(中1) 開校祝賀の提灯行列。提灯をもって加古川の街を練り歩く生徒たち。誇らしい表情が見てとれる



(中3) 朝香宮殿下の御訪問



(中4) 中学校前の道路上での閲兵



(中4) 軍事教練

戦時色が濃くなっていく中、学校生活にもその影響が現れてきた



(中4)



(中8)



(中13) 紀元2600年旗行列



(中13)



(中13) 泊神社 (木村神社) 参拜

# KAKOGAWA HIGASHI High School 80th Anniversary



(高17) 東京オリンピックのときの聖  
火リレー。本校から三名の生徒が正走  
者として選ばれた  
(1964年9月24日)



(高26) 高校野球の応援



(高30) 寒稽古



(高46) 寒稽古



(高39) 日岡山でのマラソン大会。寒稽古の仕上げとして全員が参加した



(1995年) 創立70周年記念式典



式典の朝



モニュメント除幕式

培う

修学旅行  
一日旅行



(中9) 安芸の宮島への修学旅行



(中13) 三重県二見浦にて



(中13) 奈良公園にて



(高9) 宿舎でのレクリエーション



(高14) 九州への修学旅行



(高22) 日岡山への歓迎遠足。上級生が新入生をリードし、本校生としての自覚を促していく。生徒の自主的な活動が光った行事であった

# KAKOGAWA HIGASHI High School 80th Anniversary



(高43) エクスポランドを散策。20年前の右の写真と比べると興味深い



(高23) 全校あげて万博を見学



(高30) 新入生オリエンテーション。明石のあさぎり寮での研修



(高44) 東北への修学旅行



(高46) 秋の一日バス旅行



(高51) 信州でのスキー



(高53) 国立民族学博物館での一日校外学習



(高53) 倉敷への秋の遠足



(中8) 当時は運動会と言っていた。今も昔も地域の人々とともに楽しむ大きなイベントである



(中8) 組み体操



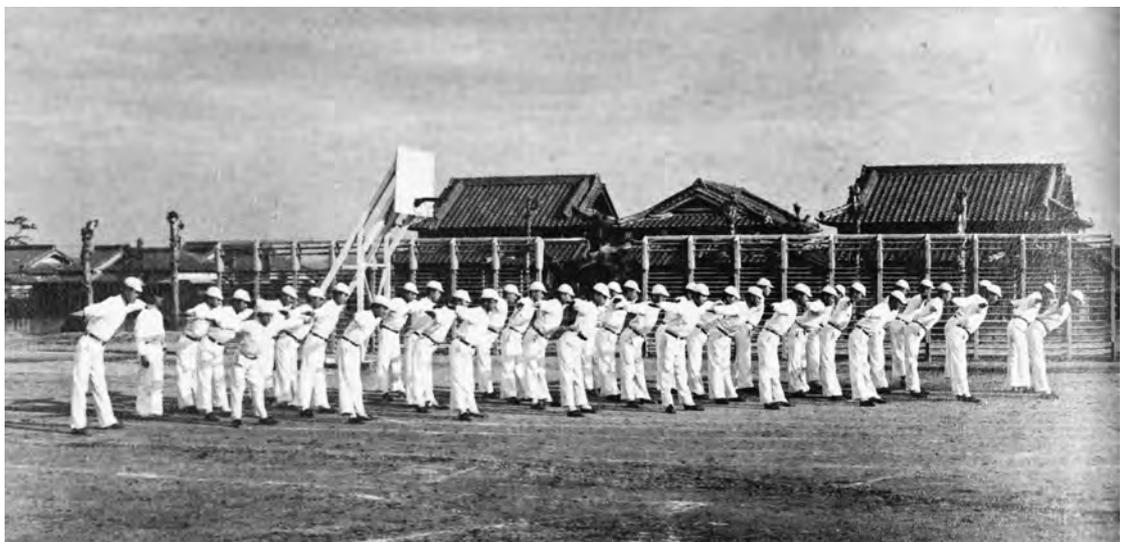
(中8) 竹刀を持って剣道の披露か



(中9) 音楽隊



(中10) 運動会最初の全校体操



(中11) 徒手体操



(中13) 俵かつぎ。力自慢を競う

# KAKOGAWA HIGASHI High School 80th Anniversary



(高5) 仮装行列



(高5) パン食い競争



(高5) 来賓・職員による徒競走か



(昭和35年頃) 吹奏楽部によるマーチング  
〈本校吹奏楽部所蔵アルバムより〉



(高6) デコレーションとともに行進



(1956年頃) 体育祭当日の校門のデコレーション。松本病院より眺めた光景  
 (奥州牧子氏 (高9回) 提供)



(高19) 全校生によるフォークダンス。心ときめいたひとときであった



(高29) 騎馬戦



(高30) 学年別ではなく縦割りによる団編成が行われ、現在も続いている

# KAKOGAWA HIGASHI High School 80th Anniversary



(高36) ピラミッド。練習の賜



(高38) 仮装行列



(高43) 組み体操



(高49) 応援合戦の一コマ



(高50) 東高の名物競技「蛇の皮むき」



(高52) 東高リレーのアンカーは団長を乗せた騎馬



(高55) 応援合戦



(高54) 団長たちの様子がイラストに



(中13) 吹奏楽の演奏。両袖の垂れ幕の文字が時代を感じさせる



(中1) 生徒が製作した本校の全景模型



(1948年) 第一回文化祭  
〈松本良信氏(高2回)提供〉



(高12)



(高26) 放送劇



(高15) 男声合唱



(高51) 地理歴史考古学研究部による見事な模型



(高34) ギターフォーク同好会によるライブ



開会式	8:55
1 吹奏楽	9:00~9:15
2 音楽(合唱)	9:24~9:35
4 上 5 5	9:37~10:07
5 フォーク(1-4)	10:18~10:24
6 * (2-2)	10:25~10:35
7 演劇(3-6)	10:37~11:14
8 音楽	11:19~11:31
— 合計 —	
9 演劇	12:01~12:07
10 音楽(合唱)	12:10~12:25
11 演劇	12:27~12:32
12 フォーク(1-7)	12:30~12:52
13 * (1-7)	12:51~12:51
14 * (1-10)	12:52~12:55
15 吹奏楽	12:52~12:55

(高38) 体育館のプログラム



(高46) 生徒の手による校門のデコレーション



(高46) クラスで企画したクイズ



(高51) ロータリーを利用したデコレーション



(高47) 巨大なデコレーション



(高53) 校舎の壁面を使っでのデコレーション



(高56)  
Human Rights Club による  
チャンゴの演奏



(中4) 農業科による実習



(中4) 手旗練習。軍国主義の時代がうかがえる



(中10) 勤労奉仕



(中8) 勤労奉仕



(中12) 勤労奉仕



(高34) バレーボールを楽しむ昼休み



(高41) 全校委員会。生徒による熱心な討論が行われた



(高46) 新入生歓迎会。上級生が自主的に運営をし、下級生との絆が作られていく

# KAKOGAWA HIGASHI High School 80th Anniversary



(2004年) 本校の東側の道路に面した水路は、実は聖徳太子の時代からあった用水路だということがわかり、そこをビオトープとして整備している



(2004年) 秋のイベント。週五日制に伴う行事縮小の流れの中で、生徒の自主的な活動を守っていききたいという思いで始まった行事。生徒会のメンバーの苦勞が報われた一日であった



# 育む 部活動



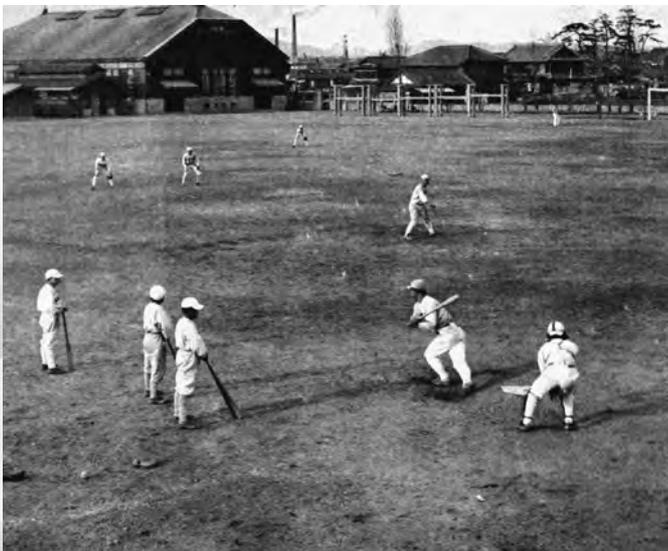
(中1) 剣道部



(中4) 剣道部



(中4) 水泳部



(中4) 野球部

# KAKOGAWA HIGASHI High School 80th Anniversary



(中8) 卓球部



(中8) 音楽部



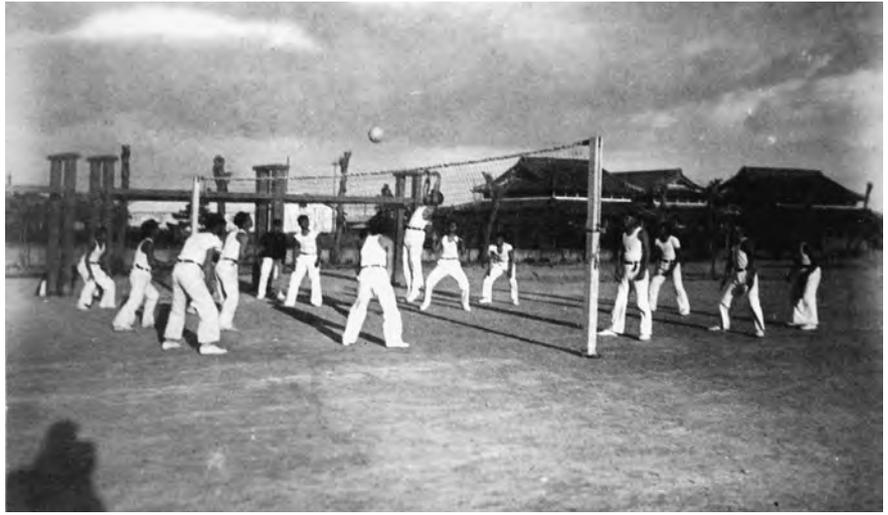
(中8) 音楽部



(中8) 農業部



(中10) 蹴球部



(中10) 排球部



(中11) 射撃部



(中13) 美術部



(中12) グライダー部

KAKOGAWA HIGASHI  
High School  
80th Anniversary



(高4) バスケットボール部



(高10) 相撲部



(高9) ダンス部



(高10) 華道部



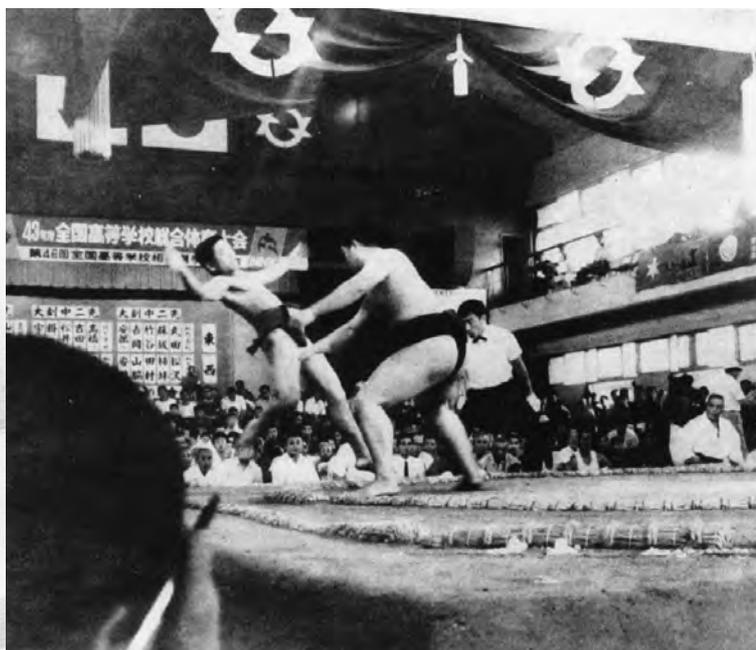
(高11) ダンス部



(1961年頃) 器楽部  
〈本校吹奏楽部所蔵アルバムより〉



(高19) ダンス部



(高21) 相撲部。県下でも有数の実力を誇った



(高27) 数学研究同好会



(高27) アマチュア無線部



(高29) 落語研究同好会



(高45) ソフトボール部



(高53) 野球部

# 沿革

## 開校までの経緯

本校の設置は、加古・印南両郡の多年の要望であり、明治38年の通常県会で「加古印南ノ地ニ中学校増設ニ関スル意見書」が議決され、時の県知事の服部一三氏に提出された。

翌39年にも重ねて同趣旨の意見書が議決された。当時、中学校は県立で神戸、姫路、豊岡、龍野、柏原、洲本、伊丹、小野。私立で鳳鳴があった。

さらに明治44年の県会で同様の議決があり、服部知事に提出されたが、いずれも県財政の都合で見おくられた。神戸二中が明治41年設置されている。

大正11年、本校建設に要する土地8,000坪及び建築費の30万円は各町村負担とし、本校設立の実現を期することとなった。各町村長中10名の委員を作り、このうち加古川町長小山十次、鳩里村長藤田太郎治、米田村長松本増吉、伊保村長中谷与吉郎の4氏を特別委員とし、この4氏の奔走久しい努力の結果、目的は達せられた。

両郡町村負担金の中に伊藤長次郎、多木久米次郎、大西甚一平の諸氏が巨額の寄附をされ、これらと土地8,000坪の目録を添えて「寄附採納額」を大正11年12月18日付で折原巳一郎県知事に提出した。県会をはじめ大正12年より3年間の継続事業として設立、建築起工を決定した。費用は337,213円であった。(内30万は上記地元負担であったと思われる)

ところが不時の火災で一部を焼失したために、復旧の必要が生じ継続事業の期間を一年延長し、支出金額は、483,873円と更正したのが大正13年であった。

当時、大正9年鳳鳴が県立に移管されたのをはじめとして、神戸三中、市立尼崎中、市立明石中が本校と相前後して誕生している。

## 加古川中学校時代

### 大正13年(1924)

- 2月9日 文部省兵普第8号を以て本校設置の件認可せられる。生徒定員750名。兵庫県視学官学務課長古川静夫、本校校長事務取扱を命ぜられる。
- 2月25日 兵庫県立加古川高等女学校内に本校仮事務所を置く。
- 3月14日 兵庫県社会教育主事兼視学委員瓜生兵吉氏、本校初代校長に補せられる。
- 3月23日 兵庫県立加古川高等女学校で、この日より3日間入学試験施行。
- 3月28日 合格者150名の氏名を発表。
- 3月30日 教室1棟並に小使室及附属建物が竣工。

- 4月7日 兵庫県立加古川高等女学校の講堂で、第1回入学式を挙げる。同14日新築校舎普通教室1棟が完成し、授業開始。
- 5月10日 印南郡曾根町(曾根の松)に第1回遠足。
- 6月2日 東宮殿下(昭和天皇)御成婚記念奉祝式を挙げる。
- 6月19日 校友会誕生、各部の委員が任命される。
- 7月11日 本日より19日まで希望者140名高砂浦で水泳練習。(最初)
- 9月30日 本館及び講堂、生徒控所(後の体育館)教室1棟並に武道場銃器室の建築が竣工。
- 10月18日 父兄会(第1回)出席者135名。
- 10月22日 御真影並教育勅語謄本下賜。瓜生校長、大河原教諭が兵庫県庁に出頭、伝達式をうけ午後1時3分加古川駅着列車で捧持し、本校職員生徒地方官民沿道に奉迎、続いて奉戴式を挙げる。
- 11月30日 午後8時45分南棟普通教室より出火、本館教室2棟小使室を全焼し、武道場生徒控所の一部を焼失した。御真影は加古川警察署に奉遷、職員生徒が跡始末に協力、わずか3日間の休業で講堂を4部に仕切り授業開始。
- 12月1日 御真影を加古郡役所にうつす。
- 12月8日 習学班の組織を作る。通学区域を27に区画し各団に団長、副団長を置き、担当教諭を定める。風紀衛生の指導、社会奉仕作業、非常の際の召集伝達の訓練をするものである。
- 12月27日 御真影を加古郡役所より本校にうつす。

### 大正14年(1925)

- 3月31日 教室1棟、小使室及附属建物竣工。準耐火構造である。
- 5月3日 職員生徒一同、神戸方面旅行、絹業博見学。
- 5月5日 講堂の仮教室より教室に移転。
- 6月13日 1年生は曾根、2年生は二見に遠足。
- 6月24日 挙手の敬礼を採用。
- 10月3日 職員生徒一同、書写山に遠足。
- 10月11日 第1回学芸大会。
- 11月30日 災厄満1年にあたり追憶の会。職員生徒の追憶談、橋本加古郡長、小山加古川町長、松井警察署長等の講話。また校友会誌第1号火災追憶号を発刊。
- 12月7日 皇孫殿下御降誕奉祝式挙行。旗行列で加古川町を一周する。同12日にこの記念樹を中

庭に植える。  
12月18日 理化学実験室新築。並に本館竣工。

## 大正15年 (1926)

2月2日 姫路第39連隊留守隊長瀬中佐による本校最初の教練査閲。  
2月15日 全校遠足、城山に行く。  
4月19日 瓜生兵吉校長は県立豊岡中学校長に転任。藤井慶乗県立山崎高等女学校長が第2代校長として着任。  
5月25日 伊豆少将講演。武道場の額「養移体」の3字の揮毫を請う。(少将は日露戦役に乃木將軍幕下として出征した人)  
6月19日 教室1棟竣工。  
9月18日 庭球部コート開き。武道場の東と西に新設。  
10月7日 本日より4日間、3年生が初めて姫路39連隊の兵営に宿泊。  
10月18日 全校遠足、明石太山寺より鷹取駅をまわり帰校。  
11月1日 氷丘村方面で姫路39連隊と県立農学校及び本校による初めての連合演習。  
11月3日 本校全員、初めての長距離競争。午前10時学校発。国道を東へ走り、平岡村新在家より南下、別府に至り海岸を西へ、尾上を経て帰校。約3里5丁。1着3年1組佐伯、53分50秒。  
12月25日 午前1時25分天皇陛下崩御。午前10時30分校庭集合、遙拝式を挙行、哀悼の意を表する。

## 昭和2年 (1927)

2月7日 大正天皇の御大喪、運動場に祭壇を設け、午後5時より講堂で御真影を拝し、学校長は玉串を捧げ遙拝式を行う。  
5月17日 職員生徒90名軍艦扶桑に便乗、高砂浦より神戸に向かう。  
上記以外の職員生徒は高砂浦より、淡路の西岸を船行、観潮台(亀の浦)に登り鳴門の渦を見る。帰途は洲本を経由して明石海峡を通り高砂浦に着く。  
9月20日 明治節制定される。趣旨を話し、明治天皇に関する訓話。  
10月26日 第1回修学旅行出発。9時加古川駅発、翌27日呉着。海浜団海軍工廠を見学、江田島の海軍兵学校見学。次に宮島参拝、宿泊。28日広島浅野泉邸に遊び大本営跡見学、

岡山より宇野高松を経て金比羅宮に参拝、宿泊。29日高松栗林公園に遊び、午後8時加古川到着。

## 昭和3年 (1928)

4月 昭和初頭大不況、緊縮財政の政策に沿って卒業アルバム製作中止。  
5月23日 校旗制定、5年松浦巖を旗手として奉戴式を挙行。意匠は紫地の中央に徽章を金モールで縫いとしたもの。旗竿の先端に載をつける。  
6月7日 開校式、正門前に祝開校の緑門を造り、国旗を翻す。  
10時より挙式、県知事式辞、県会議長以下来賓祝辞、祝電、11時終わる。町公会堂前の会場で協賛会主催の祝賀会に来賓を、本校控室で父兄を招待、生徒には各記念品を配布。来賓273名、父兄349名。  
夜は楽隊を先頭に全校700名の生徒の提灯行列を全町にくりだす。9時終了。  
第2日 運動会。  
第3日 講演会、高部乃木堂の軍事講談、旭大象の琵琶。  
この3日間、教室で生徒の書画参考品を展示、特別教室で設備と実験を公開。各組毎に催し物、作り物、或は模擬店を設け種々の食品を販売。  
10月2日 4年生、広島より四国方面に修学旅行。  
10月9日 御真影下賜、校長藤井慶乗、書記村上喜代治が県庁に出頭、伝達式をうけ午後10時28分加古川到着の列車で捧持、職員生徒奉迎し奉戴式を挙行。  
11月10日 御大典奉祝式を挙行、全校職員生徒旗行列を行う。  
11月23日 5年生高岡射撃場にて実包射撃を行う。  
12月8日 天皇即位式が11月10日に挙行され、本校も記念事業として①植樹、②温室の建築をする。  
①は生徒各自に樹木1本ずつ持参させ中庭に植える。更に吉野桜100本を購入して校庭の周囲に植える。②は11月初旬に起工、本日竣工、建坪20坪、総工費1,210円、費用は生徒1人当たり2円を出す。

## 昭和4年 (1929)

1月12日 全校職員生徒、京都御大典式場拝観の為上

- 洛。
- 3月4日 第1回卒業式、卒業生117名、卒業記念にテント2張を母校に寄贈。
- 4月27日 藤井校長、山口県立下関高等女学校長に転任。
- 4月30日 三浦教諭、校長事務取扱を命ぜられる。
- 5月11日 加古川町は鳩里村と合併、町の依頼により全校生徒の旗行列を行う。
- 6月5日 天皇陛下、大阪の城東練兵場で近畿2府5県の諸団体約12万人の御親閲。本校4年5年生徒177名、職員6名参加。
- 6月7日 天皇陛下本県に行幸、本校職員生徒一同は早朝より上神、ご通過の沿道にならび奉迎。
- 6月26日 村上書記逝去。(同書記は鳥根県美濃郡高城村の人、日露戦争に従軍して後、本県巡查部長となり、大正13年3月本校に奉職)。
- 7月25日 岩村寅之助県立小野中学校長が第3代校長として着任。
- 8月5日 第1回同窓会。出席者約80名。
- 昭和5年(1930)**
- 1月25日 第1回の武道大会を開く。武道場に大神宮を奉祀。
- 5月22日 本年度より音楽科を新設、校友会基金より、600円を援助して1,200円のピアノを購入。
- 5月29日 ロシア人の音楽家を招き、弾き初めをする。午後公開授業。
- 6月2日 5年生、広島より九州方面へ修学旅行に出発。
- 6月4日 4年生、広島方面へ修学旅行に出発。
- 6月13日 本校弁論部誕生。「正しき思想」「真の言論」をモットーとする。
- 7月3日 校友会基金より200円を支出してサイレンを設置する。講堂で山本正男氏の単独オーケストラの演奏。
- 9月6日 ラッパ手教育開始、今月中、毎土曜日。
- 10月1日 本日より4日間、青野原で宿営野外演習。
- 10月26日 全校職員生徒は神戸灘の実業女学校に赴き、露台より観艦式を拝観。午後は海港博覧会見学。
- 10月30日 講堂の左右に教育綱領である「質実剛健」「自治創造」の額をあげる。(費用128円は5年生の寄贈、書は曾紫山先生の揮毫。教育勅語の煥發40周年記念事業であった。)
- 11月9日 朝香宮鳩彦殿下御台臨、校庭に記念樹を植える。この頃4日間陸軍大学生の演習の
- 為、校舎の一部を使用。
- 11月26日 県下中等学校49校の上級生、5,000人が東西に分かれ連合演習、本校は西軍に属し宝殿より加古川堤防に至る。その後、知事と師団長の閲団式、加古川小学校での分列式、次いで本校校庭で講評。(連合演習参加の最初)
- 昭和6年(1931)**
- 1月15日 御真影を校長と書記が捧持、県庁に奉還。武道大会。寒稽古のおさめ会を兼ねる。
- 1月24日 校長岩村寅之助、書記龍見良吉は姫路師範学校に出頭、今上陛下の御真影を拝受。午後0時30分帰校、奉戴式を挙る。
- 4月8日 管理衛生部を新設。
- 6月1日 夏服着用。今後夏冬ともカラーを使用することに定める。
- 6月2日 4年生、広島九州四国方面へ修学旅行に出発。
- 9月12日 本年8月、同窓会の総会で議決があり、同窓会基金より275円を出しラッパ鼓隊の用具を購入、本校ラッパ鼓隊を設置。楽長以下17名で編成。
- 9月35日 支那水害拠金に関し校長の話あり、支那水害義捐金を集める。
- 昭和7年(1932)**
- 3月4日 第4回卒業式、記念に放鳥籠を寄贈。
- 9月18日 満州事変1周年を記念し、ラッパ鼓隊を先頭に陸軍歌を唱いつつ町内を行進。前日(17日)満州事変記念行軍及び秋元大尉の上海における実戦談を聞く。
- 10月26日 帝国發明協会兵庫県支部展覧会に4年生西寺君特等賞を受く。4年生中村君は佳良。
- 11月16日 天皇陛下、大阪城東練兵場で近畿2府5県の各種団体約8万人の御親閲あり、本校は岩村校長以下生徒5年生75名参加。
- 11月28日 第1時限初め、控所で徴兵60周年記念日に関する訓話。
- 昭和8年(1933)**
- 3月4日 第5回卒業式、記念の為、庭園及び控所に時計を寄贈。
- 4月27日 靖国神社大祭につき初めて高砂神社に参拝。
- 9月23日 御影師範学校主催全国中等学校柔道優勝大会にて、優勝。(主将は花川)

- 10月8日 第1回兵庫体育協会主催県下中等学校剣道優勝大会が甲陽中学校で開かれ、本校が優勝。(主将は北村)
- 11月10日 国民精神作興に関する勅語奉読式、引きつづき職業指導に関する注意。
- 12月23日 皇太子殿下ご降誕、校庭に姫子松を記念に植える。
- 12月29日 生徒非常召集、皇太子殿下御命名式奉祝旗行列。

昭和9年(1934)

- 3月4日 第6回卒業式、記念に庭園2か所寄贈。
- 3月13日 建武中興600年記念式、講話と遙拝。
- 4月10日 昨年8月同窓会の協賛を得、同窓会基金より2,000円、校友会基金より1,000円、計3,000円の予算で県営繕課に設計等万事を依頼、中庭に奉安殿を建設する。当日神官を招き御真影の奉遷式。
- 4月29日 天長節。式後、第1回卒業生の花井秀次氏寄贈の校旗掲揚台竣工、当日掲揚式を行う。
- 4月30日 岩村校長退職、尼崎市学務課長に就任。
- 5月4日 中井修一小野中学校長が、第4代校長として着任。
- 5月11日 昼食後、控所で忠霊塔の献金の話あり。
- 5月31日 昼食後、控所で6月4日より更衣、及び6月1日より校内でのパン販売につき注意あり。
- 6月4日 4年生九州方面へ修学旅行に出発。
- 6月5日 東郷元帥国葬につき訓話遙拝。
- 6月7日 本校国漢科で起草した校歌が本校音楽科で作曲、本日の創立記念日に発表。10月8日頃に東京市芝区松本町44、共益社書店で楽譜印刷して配布。
- 9月21日 大暴風雨の為、雨にぬれた者、多数につき授業中の服装を適宜とする。
- 9月23日 兵庫県体育協会主催西部中等学校剣道優勝大会を本校で挙行、第1部は本校が優勝。(第2部は姫路師範が優勝)
- 9月29日 昼食後、控所にて風水害義捐金10銭、大楠公銅像寄附金10銭を提出するよう話あり。
- 10月3日 5年生、青野原で野外演習。
- 10月20日 5年生、高岡で射撃訓練。
- 11月1日 創立10周年記念式挙行。  
展覧会開催(3日まで)生徒作品219、卒業生作品30、職員作品41、器械標本192。
- 11月2日 仏式により講堂で物故会員(客員2名、会

員27名)慰霊祭挙行。

- 11月3日 明治節拝賀式、ついで午前9時より午後4時まで記念運動会(演技56)。この記念事業の一つとして1,200円の基金で奨学資金を創設。  
更に校長室前の広場に純日本庭園を築く。運動場の四方に西は4間間隔、北南東は3間間隔に松を植える。母里村の井沢豊松氏が特に57本を分与せられたもの。
- 11月15日 5年生が軽機関銃二つ寄贈、献納式と試射。

昭和10年(1935)

- 1月8日 始業式、剣道資格試験合格証伝達式。(二段2名初段7名)
- 1月16日 武道寒稽古、剣道は講堂、柔道は道場。26日武道大会。
- 2月4日 全校生徒吃音近視調査、吃音28名、近視222名。
- 2月25日 東久邇第4師団長宮殿下御台臨。
- 4月26日 生徒控所で長尾鶏見学。  
4・5年生の一部が多木製肥所見学。
- 5月8日 5年生、加古川第一小学校における徴兵検査見学。
- 6月2日 4年生、九州中国方面へ修学旅行に出発。
- 6月16日 本校で西部中等学校剣道大会。
- 6月20日 連合演習参加。
- 10月9日 5年生、青野原に野営。
- 11月1日 熱田神宮遷座祭につき臨時休業、訓話遙拝式。
- 11月15日 5年生、高岡で実包射撃。
- 11月28日 4年生、姫路39連隊の兵営に宿泊。

昭和11年(1936)

- 1月16日 寒稽古。25日武道大会、田畑範士来校。
- 2月10日 5年生、寄贈の軽機関銃献納式。
- 5月9日 午後道場にて下司書店出張して映写会、全校生観覧。(9月にもあり)
- 5月17日 5年生、騎兵10連隊軍旗祭に参列。
- 5月18日 加古川第一小学校における戸山学校軍楽隊の演奏見学。
- 6月1日 4年生、九州・中国方面へ修学旅行に出発。
- 6月3日 5年生、徴兵検査見学。
- 6月19日 賀陽宮恒憲王殿下御台臨、師団長、県学務部長等が先着、運動場で御閲団式、生徒の成績を御台覧、次に授業を御視察。なお、この月の29日と30日にこの折の成績を一般

公開。  
 10月2日 5年生、高岡で実包射撃。  
 10月4日 県下軟式庭球大会で本校が優勝、優勝盃を受く。  
 10月5日 5年生、軽機関銃寄贈。  
 10月6日 5年生、青野原に野営。  
 10月18日 姫路高等学校主催、県下中等学校射撃大会で優勝。  
 10月25日 神戸みなと祭軟式庭球大会で準優勝。賀陽宮殿下チーム対姫路赤十字病院チームの軟式野球試合が本校校庭で行われる。殿下妃殿下御台臨。この後、宮殿下のご来校度々。  
 10月29日 5年生54名、4年生21名、観艦式拝観の為神戸に旅行。残留の5年生は荒井醤油工場を経て曾根神社へ、4年生は神野村城山に行軍。  
 11月3日 5年生、連合演習参加。  
 11月14日 校内庭球大会、4年生、校内にて狭搾射撃。午後1時より会議室で公民講座を開く。以後21日まで奇数日実施。  
 12月5日 4年生、軍隊に宿泊。  
 12月12日 大島鎌吉氏のオリムピックの講演。

#### 昭和12年 (1937)

1月23日 13日より武道寒稽古、本日校内武道大会。  
 3月13日 五ヶ条御誓文換発70周年記念日につき訓話。  
 4月19日 梁在寛君の苦心体験談を講堂で聞く。  
 5月17日 細田教諭心得新任式。  
 6月6日 4年生中国九州方面へ修学旅行に出発。  
 6月20日 小野中における西部中等学校剣道優勝大会に優勝、優勝刀を受く。  
 6月23日 5年生加古川公会堂における徴兵検査見学。  
 6月27日 西部中等学校柔道大会において本校優勝、優勝旗を受く。  
 8月1日 本日より20日までラジオ体操実施。この年より毎年、加古川・尾上・野口・米田の学友団は校庭で、その他の団員は出身小学校庭で。午前8時召集、中井校長の事変に関する訓話。武運長久祈願（毎月1日に行う例となる）。  
 9月1日 加古川町出身の長永伍長戦死、遺骨出迎えに加古川学友団が駅頭に行く。以下これに類するもの頻り。  
 9月9日 満州国駐日大使秘書官鮎沼氏来校、4年生と5年生に対し満州国立建国大学学生募集に関する講話。

9月18日 第1時限初め、全員運動場集合、中井校長より満州事変記念訓話並に遙拝。  
 9月28日 中井校長より全国中学校職員生徒一同より陸海軍飛行機献納の件につき訓話。  
 10月4日 本日より6日まで防空演習のためサイレンの使用禁止。  
 10月6日 下司書店出張、事変ニュース映写会。  
 10月12日 5年、実包射撃。  
 10月13日 午前8時講堂で国民精神総動員強調週間第1日につき国歌合唱、遙拝、中井校長訓話。以後1週間、毎日遙拝・訓話・ラジオ体操を行う。戌申詔書換発日につき詔書奉読式。  
 10月15日 放課後、怪力者来校、体験談とその実演あり。  
 ※この頃戦死者の公葬頻り、その都度職員参列。  
 10月25日 5年生、連合演習参加。庭球部が全国大会に出場のため上京。  
 10月28日 加古川町戦捷祝賀行列に一部学友団参加。  
 11月7日 姫路高等学校主催の県下の射撃大会で本校優勝。  
 11月10日 国民精神作興週間第1日、詔書奉読、訓話。  
 11月26日 5年生と4年生の一部が公会堂における大毎記者の北支事情の講演聴講。  
 12月11日 第2時限後、全校職員生徒運動場に集合。南京陥落の祝賀式挙行。ひきつづき全校で日岡神社参拝、加古川町内を行進。  
 12月15日 4年生と5年生、飛行隊を加古川駅頭に出迎える。  
 12月16日 下司書店映画会。  
 12月22日 午後、5年生より寄贈の擲弾筒の献納式、ひきつづき音楽部の演奏会。

#### 昭和13年 (1938)

1月22日 校内武道大会（19日より寒稽古）。  
 1月28日 午前10時、各教室で第10師団戦歿者慰霊祭の遙拝式並に訓話。午後、県会議員金光氏の北支慰問の講演会。  
 2月10日 講堂で安武少佐の支那事変に関する講話。  
 4月12日 全校で学校前の国道に出てイタリヤ使節パウリッチ団長以下22名の使節団の西下を歓迎する。  
 4月21日 細田先生出征送別式。  
 6月6日 4年生、中国、九州方面へ修学旅行に出発。  
 6月15日 本日より4日間勤労奉仕。学友団を中心に加印両郡農家の手伝い、一部は学校で作業。

- 6月19日 姫路中学校における西部中等学校柔道大会で本校優勝。
- 7月5日 第1時限途中で全校生が控所に集合。水害に関する注意、直ちに帰宅させる。
- 7月7日 支那事変1周年記念日につき登校前、生徒は学友団毎に、各町村における武運長久祈願祭に参列。登校後、講堂で記念式、遙拝・訓話・黙禱。
- 7月11日 5時限、講堂にて支那事変に関する勅語奉読。
- 7月14日 午後控室で中井校長の阪神地方水害視察談。
- 7月21日 本日より3日間神戸地方水害復旧作業に出向く。(須磨妙法寺川の改修)
- 第1日 5年生  
第2日 4年生  
第3日 3年生
- 8月6日 全校で飛行場の勤労奉仕(5日間)。
- 9月4日 4年生、5年生、藤江の滑空場整地作業。
- 9月9日 藤原大尉の日支事変体験談(3年生のみ)。
- 9月15日 満州国承認記念日(校長より訓話)。
- 10月5日 5年生、青野原に野営。
- 10月11日 5年生、高岡で実包射撃。
- 10月24日 5年生、加古川原を中心とした東播中学校校連合演習に参加(2日間)。
- 10月28日 武漢三鎮陥落祝賀式、皇居遙拝訓話、旗行列、泊神社参拝。
- 11月7日 4年生、藤江滑空場整地作業。
- 11月11日 本日より3日間、全校で加印両郡の軍人遺家族に対し農事奉仕。
- 11月26日 藤江グライダー滑空場落成式、5年正副組長出席。

#### 昭和14年(1939)

- 1月28日 武道大会(18日より寒稽古)。
- 4月13日 学校教練実施15周年記念につき校長訓話。
- 5月2日 健康週間第1日遙拝訓話、ラジオ体操。(この1週間毎日あり)
- 姫路護国神社例祭のため教室で午前10時遙拝。柔道、剣道部員10名、同神社奉納武道大会参加。
- 5月6日 全校行軍、八幡村、宗佐八幡宮に参拝。
- 5月20日 朝礼の際、御親閲拝受のため上京の代表生徒10名よりあいさつ。
- 午前8時27分加古川駅発。
- 同22日東京宮城前にて御親閲、同時刻を期し校庭で訓話遙拝、分列行進、泊神社参拝、

23日同代表帰校、24日講堂で学校長より訓話、勅語奉読式、徳富蘇峰氏の講演。

- 6月3日 3年有志、大毎の従軍記者の戦況報告会(公会堂にて)を聞く。
- 6月5日 4年生生徒数名、檀原神宮建国奉仕作業のため午前7時52分加古川駅発、7日に帰校。
- 6月12日 本日より3日間、加印両郡各町村の出征将兵遺家族の麦刈農事奉仕作業。
- 7月7日 支那事変2周年記念式、午後、記念防空演習、全校徒歩通学並びに徒歩神社参拝。
- 7月25日 剣道部選手京都武徳殿の大日本青年演武大会に出場。26日に柔道部も出発。
- 7月29日 5年生、徴兵検査見学。
- 8月14日 4年生30名海軍軍事訓練講習に参加。
- 8月24日 青少年学徒に賜りたる勅語奉読式。
- 9月18日 満州事変8周年記念につき学校長訓話。
- 10月3日 軍人援護に関する勅語奉読式。
- 10月4日 1年生、公会堂における陸海軍航空展覧会見学。
- 10月23日 5年生、防空講演を公会堂で聞く。
- 11月1日 興亜奉公日につき学校長訓話。
- 11月6日 5年生、高岡で実包射撃。
- 11月14日 本日より3日間、銃後勤労奉仕。加印両郡出征将兵遺家族の稲刈奉仕作業。
- 11月22日 剣道部員、鳥取歩兵第40連隊における第10師団管内剣道大会に出席。
- 12月5日 西田海軍大佐講演。

#### 昭和15年(1940)

- 1月27日 武道大会(寒稽古は17日より24日まで)。
- 2月13日 紀元2600年紀元節に賜りたる詔書奉読式。
- 4月9日 中井校長、県立尼崎中学校長に転任。松本従之県立山崎高等女学校長が第5代校長として着任。
- 4月29日 宮中喪中につき天長節拝賀会行わず。
- 5月28日 5年生、修学旅行に出発。  
この年より東京方面へ変わる。
- 6月4日 4年生、修学旅行に出発。
- 6月11日 本日より3日間、加印両郡遺家族の農事奉仕作業。
- 6月25日 陸軍大尉細田淳先生6月19日戦死の報あり、追悼式。
- 7月5日 第5学年1組、勤労報国団実習。
- 7月7日 支那事変第3周年記念式講演、閲兵分列式並に泊神社参拝、皇軍武運長久祈願。校長と生徒代表は陸軍病院慰問。

- 8月29日 本日より3日間、飛行連隊で集団勤労奉仕作業。
- 9月13日 故細田先生公葬、校長、同窓会代表、生徒代表が参列。
- 9月18日 満州事変記念日につき記念講演、滑空機加古中第一号機命名式(運動場にて)。滑空部創設は14年度。
- 9月21日 日毛グラウンドに上記グライダー処女滑空。
- 9月29日 本校職員並に卒業生の英霊に対し慰霊祭(細田先生と卒業生22柱)。各遺族を招き講堂にて行う。細田先生厳父が遺族を代表してあいさつをされる。
- 10月30日 教育勅語渙発50年記念式。
- 11月10日 紀元2600年奉祝式。  
記念行事として①勤労報国団の行事、多木製肥所所有の水田3反余を借入れる。学校の校外特別実習田として経営をし、食糧増産の実をあげ、又、勤労愛好の精神を養う事とした。  
4年生と5年生の農業科の時間をあてて管理経営をする。  
②記念文庫を作る。  
③記念植樹、校長と職員、生徒が記念式後、奉安殿前に集まり松を植える。
- 11月12日 教育勅語渙発50年記念に賜りたる勅語奉読式。
- 11月15日 本日より3日間、加印両郡遺家族の農事奉仕作業。
- 11月21日 旧職員新京陸軍軍官学校教授橋本源吉氏が来校、講演。この年、同窓会は出征同窓の慰問、戦傷病同窓の見舞い、戦死者の慰霊祭をし、講堂にその肖像を掲げるために総会で議決をし寄附を募ることにした。1口1円。「支那料理店『冠珍』にて加古中同窓会」との記録あり。

#### 昭和16年(1941)

この頃、校友会は改組されて報国団となり組織は下記のとおり。

- 1 総務部
- 2 鍛練部  
奉仕作業班、剣道班、柔道班、野球班、庭球班、蹴球班、競技班、水泳班、剛健旅行班。
- 3 国防訓練部  
銃剣術班、射撃班、滑空班、防空班、情報班。
- 4 学芸部

図書班、団誌班、音楽班、書道班、詩吟班、工芸班。

#### 5 生活部

保健衛生班、農芸班、慰問班。

※ 9月には国防訓練部に、乗馬班を新設し、憲兵隊馬場で毎週練習。

7月1日 学校前の水田で職員一同田植。

4年生5年生は青野原演習に参加。5年生は往復とも強行軍。

8月3日 はじめて同窓会より母校永年勤続者(10年以上)に感謝状・記念品料を贈る。(10名)遺家族農事奉仕を食料飼料等増産勤労奉仕作業に拡大、春秋5日ずつ出勤。修学旅行は、太平洋戦争激化のため必勝祈願参拝旅行となり東京、奈良方面。(3泊4日)

#### 昭和17年(1942)

日曜勤労奉仕、嬉野八紘舎整地作業。滑空機格納庫新設。

#### 昭和18年(1943)

1月21日 中等学校令改正、修業年限1年短縮、教科書は国定となる。

この年より昭和23年まで修学旅行中止となる。

#### 昭和19年(1944)

学徒動員、2年尾上飛行場。

3年1組(堀中)キッコーマン醤油、2組(井置巧)多木製肥所、3組(松岡確)日鉄炉材KK、4組(有藤秀夫)日本造機KK後多木へ、4年生(後藤・海老名・窪田・望月)三菱化成伊保工場・国鉄姫路機関区車輛修理工場。5年生東亜機械金属KK。配属将校随時査閲。

1月8日 学徒動員は毎年4か月の継続ときまる。

2月9日 戦時措置として芸能科を廃止、工作を課すこととなる。

7月11日 低学年の動員決定。

#### 昭和20年(1945)

○4年生と5年生は授業と平行して尾上飛行場整地作業に従事する。

○教科内においても軍事に関するものを扱う。

○放課後1時間銃剣術基本練習。

○学校、機銃掃射を受ける。

8月15日 敗戦。数日後、職員期せずして集合、松本

校長、瞑想して校長室を出ず。

- クラブ活動始まる。野球・庭球・陸上・相撲・書道・絵画など。
- 進駐軍将校が学校視察。学校事情に関する報告書提出。
- 進駐軍の教育担当者がフォークダンスを指示、体育館で盆踊り。

9月、文部省は新日本建設の教育方針を公表、中等学校以下の教科書より戦時教材を削除するよう通達。また学校報国団を解体し、自治的校友会に再編するよう通達。更に「国体の本義」「臣民の道」等の使用を禁止し、職業軍人の教職よりの解職——適格審査委員会をもうけて適不適の決定をする——体練用具、武道用具、滑空機の廃棄、奉安殿の撤去、修身国史地理の授業停止（この時間は体育或は食糧増産の目的の補充をする）等の通達。

9月25日 志田一夫教諭（英語）逝去。

#### 昭和21年（1946）

- 4月1日 松本校長退職。青山勇県立神戸一中より第6代校長として着任。
- 4月 職員室が本館二階中央に移転。
- 11月3日 運動会復活。
- 12月8日 相撲土俵開式（全国大会出場記念として贈呈される）  
生徒自治会の導入で、学級、学年毎に委員を選出し、全校自治会を組織する。（G. H. Q. の指令とかで急に作るようになった）
- 運動・文化部誕生（野球・山岳・籠球・水泳・音楽・工作・衛生・書道・尺八同好会）他に庭球・陸上競技・相撲・絵画。
- 芋畑となっていた運動場の復元作業。  
この年1月末に地理科再開、7月15日より占領目的を阻む行為の罰則を実施。中学校を5年制にする事が復活。

#### 昭和22年（1947）

- この年4月新学制による小学校、および中学校が発足。
- 7月30日 青山校長、兵庫県視学官に転任。
- 9月9日 亀岡寛治、県立神戸二中より第7代校長として着任。

#### 加古川東高等学校時代

#### 昭和23年（1948）

- 4月1日 新制高等学校に移行し、兵庫県立加古川東

高等学校と改称。

- 7月1日 兵庫県立加古川西高等学校と職員生徒を折半交流し、男女共学を実施。
- 10月12日 運動会
- 10月23・24日 第1回文化祭を男女共学・高校昇格記念として実施。展覧会、劇の他バザー・模擬店。育友会賞を与える。
- 10月 自治会改革が話題となる。（進駐軍の提案によるものか）
- 11月12・13日 交流後最初の秋季校内大会（野球・排球・ソフトボール・庭球・籠球・相撲）
- 12月4日 第1回校内マラソン大会。（男子5,000m、女子2,000m）
- 2月24日 陸上競技部の招きにより村社講平氏来校、講演および実技指導。  
全播新制中学討論大会（参加20校）において本校併設中学優勝。（於姫路東高）（山本・白藤・三浦・岩佐）1年生が男女混合共学となったらしい。（併設中学はすでになっていた。）

「取引高税印紙の回収に努力を！」という記事が「青流新聞」にある。

この年度の「本校重大事件番付」（青流10号より）

	東	西
横綱	交流男女共学	文化祭
大関	学区制	自治会会則成立
関脇	運動会	「青流」発刊
小結	長谷川・山田組 国体第3位	文鳥誕生
前頭	校内秋季大会	新中討論会優勝
〃	上良教頭栄転	山本教頭村長に
〃	軟式野球優勝	庭球部優勝
〃	田中・水野嬢	山岳部アルプス
〃	国体へ出場	へ出場
〃	競技部優勝	卓球部優勝
〃	山岳部スキー	考古学部土器発見
〃	相撲部近畿大会へ	校内マラソン大会
〃	竹内先生栄転	井内先生教頭
〃	通信部設置	自転車置場新設
〃	駅伝出場	野球部県大会へ
〃	村社氏来る	予餞会

この頃 校内整備 部室—文化部8室・体育部13室。  
自転車置場、被服室2、家事室1（武道場改造）、女子便所改造、バレーコート移転、女子バスケットコート新設。

ソフトボール・排球・ダンス・茶道・邦楽・  
珠算の各部設置。

(青流3号より)

### 昭和23年度校友会校務分掌

#### 総務部

企画・庶務・会計係 上良・糟谷・西口  
自治会係(校内・校外) 中島・谷沢

#### 文化部

##### 一、精神科学部

哲学・心理・論理・宗教班 兼松  
政治・法律・経済・社会問題班 兼松・水田  
歴史・地理・考古学・民族学班

蓬萊・平本・水田

文学・語学班 竹内・高橋・吉田・蓬萊

##### 二、自然科学部

数学班(解析・幾何) 井置・原・糟谷  
物理班 中安・田中  
化学班 西村  
生物班 前田・当津  
衛生班 当津

##### 三、芸術部

工作班(建築) 松岡  
絵画・書道・写真班 原田・西口・長谷川・中安  
音楽班(和・洋楽) 蓬萊・田中・村上  
映画・演劇班 磯部・高橋

##### 四、家政部

料理班 住野  
裁縫班(洋・和裁・手芸) 在竹・穂塚  
茶・花道班

##### 五、園芸部

吉田(薫)

##### 六、新聞・雑誌部

兼松・吉田・高松

##### 七、図書部

望月・西村・前田・中島

#### 体育部

野球部 硬式班 吉田(薫)・谷沢  
軟式班 粕谷

庭球部 前田・平本

籠球部 兼松・山本

排球部 山本・柴谷

卓球部 村上・柴谷

陸上競技部 当津・谷沢

相撲部 谷沢

ソフトボール部 吉田・中安

山岳部 谷沢

ダンス部 柴谷

### 昭和24年(1949)

5月17~20日 修学旅行復活。高2回生、別府で一泊する。

10月28日 25周年記念式典、校旗制定、校歌発表。

10月29日 同記念音楽会、笹田和子・伊達三郎・神沢哲郎の各氏出演。

10月30日 同記念運動会

11月 ラグビー同好会結成

11月24日 最初の英語弁論大会(The English Oratorical Contest)、新聞部主催。自治会を生徒会と改める。

クラブ整備 運動-野球・庭球男女・陸上男女・排球男女・卓球男女・相撲・剣道・柔道・山岳男女・ラグビー・ソフトボール女・ダンス女 文化-新聞・音楽・生物・化学・物理・書道・絵画・演劇・地歴・手芸・茶・華・邦楽・雑誌・映画・珠算・放送・図書となる。

### 昭和25年(1950)

東播大会12種目中、6種目に優勝。

野球部後援会誕生。

単位制・選択制が実施されたい。

### 昭和26年(1951)

4月1日 亀岡校長、県立豊岡高等学校長に転任。清水敬治、県立龍野高校長より第8代校長として着任。

4月16日 クラブ整備、放送が新聞部から独立。演劇と映画と分離。柔道、水泳が同好会から部へ。手芸・染色と茶華道新設置。

文化祭中止。

前年度より継続の家庭科施設完成。被服・洋裁・ミシン・割烹・洗濯・染色各教室、研究室・日本間・更衣室完成。作法室建築計画、運動場拡張案成る。東播大会全種目優勝。

### 昭和27年(1952)

5月 クラブ整備、語学・珠算・手芸染色・邦楽・茶華・地歴考古・映画・生物・書道・山岳・写真の各部同好会となる。水泳・化学・物理の各部廃止。

8月17日 第1回通教祭。

9月3日 作法室起工式。

9月8日 松本宏絵画個人展を開く。(図書室)

昭和28年 (1953)

- 9月 剣道部復活、部員30名余。
- 9月24日 文化祭復活。(3年ぶり)  
清水校長、本校賛歌「朝明」をつくる。

昭和29年 (1954)

- 5月21日 生徒会会則修正、報道委員会を設置。
- 7月18日 応援歌「日丘の山に」決定、作詞西島三恵、作曲音楽部。清水校長作詞の「それ清流に」とともに文化祭に発表のはこびとなる。
- 8～9月 30周年記念施設工事、体育館補修・前庭道路改修・中庭砂利・緑化・講堂中央館体育館補強塗装。
- 10月8日 30周年記念式典、記念誌発行。つづいて9日文化祭、10日運動会。3日には(第6回)文楽興行。
- 11月21日 長門美保歌劇団来演、「カルメン・蝶々夫人」抜粋。
- 12月 生徒会会則改正案成る。

昭和30年 (1955)

- 図書室開架式となる。
- 6月6日 講演会、鷲義徳氏。(中3回生)
- 10月16日 文化祭を芸能祭と称する。

昭和31年 (1956)

- 4月1日 清水校長、県立芦屋高等学校長に転任。川本猪三郎、県立赤穂高校長より、第9代校長として着任。
- 10月28日 第11回国体ハンドボール会場として本校グラウンド使用。
- 11月26日 アイヌ民族無形文化保護会派遣員4名、白老町より来校。

昭和32年 (1957)

- 4月28日 文楽興行。
- 6月6日 開校記念講演会、田中国夫氏。

昭和33年 (1958)

- 4月1日 川本校長、県立西宮高等学校長に転任。井内喜久次、県立姫路南高校長より、第10代校長として着任。
- 5月10日 木下勇教諭、アジア大会聖火リレー走者となる。
- 5月16日 長門美保独唱会。
- 6月6日 小原正三氏(中3回)講演会。

- 10月10日 新井克輔氏ハーモニカ演奏会。
- 10月24日 購買部増築工事始まる。
- 10月31日 阪口保氏講演会。
- 12月3日 便所改築工事始まる。

昭和34年 (1959)

- 5月14日 小松杯争奪としては最初の弁論大会。1・2年全員、水曜クラブ入部にふみ切る。

昭和35年 (1960)

- 2月1日 全面改築のための運動場拡張工事起工式。

昭和36年 (1961)

- 5月10日 能力別指導について検討。
- 9月19日 井内校長欧米視察に出発(11月4日まで)。生徒用傘、各学年50本を備える。卒業記念品としてチャイム。

昭和37年 (1962)

- 3月 フランス美術展鑑賞。
- 9月20日 校舎増築起工式。

昭和38年 (1963)

- 4月1日 井内校長、県立姫路西高等学校長に転任。柴垣武夫、県立豊岡高校長より第11代校長として着任。
- 6月5日 新館竣工式。
- 6月 「今週の言葉」。教室の黒板にも書く。
- 9月 内規集作成にかかる。

昭和39年 (1964)

- 6月 東村氏作品寄贈、本館前に備えつけ。
- 6月25日 県教育長総合視察。
- 8月 全日本ゴルフジュニア選手権大会(千葉カントリー)で1年入江勉、準優勝。
- 9月24日 オリンピック聖火リレー。全員で迎える。
- 9月25日 創立40周年記念式典。清流会よりピアノ寄贈。26日文化祭。27日体育祭。
- 11月16日 柴垣校長、学校提携のため外遊、12月まで。

昭和40年 (1965)

- 1月12日 柴垣校長、帰朝講演会。
- 2月17日 ピアノ開き。
- 4月15日 オリンピック映画観賞会。
- 6月11日 田中国夫氏講演会。
- 6月24日 第2期改築工事地鎮祭。

8月9日 最初の学年野外活動（13日まで嬉野にて）。  
9月10日 台風23号のため臨時休業。つづいて17日も  
24号のため休業。

#### 昭和41年（1966）

1月25日 増築竣工式。  
研究集録第1集発行。  
4月1日 柴垣校長退職。西村勇、県立出石高等学校  
長より第12代校長として着任。  
4月 職員住宅最初の入居。  
10月2日 運動会、今次以後バザーとりやめ。  
11月14日 同和教育推進委員会ひらく。  
11月26日 講堂兼体育館地鎮祭。

#### 昭和42年（1967）

1月19日 第3期工事竣工式。  
3月1日 校務分掌改正案承認、教務から進路が、生  
徒課から管理厚生が独立。  
4月7日 市田事務長逝去。  
5月4日 水曜クラブ取りやめ決定。  
7月13日 体育館兼講堂竣工式。18日体育館開きとし  
て籠球試合。  
12月 年末年始日宿直代行員設置。  
この年 体育後援会がクラブ後援会となる。  
全校体操開始。

#### 昭和43年（1968）

4月1日 西村校長、県教委但馬教育事務所長に転任。  
山本教憲、県教委社教課長より第13代校長  
として着任。  
6月 日宿直全面的に代行員制となる。  
この年 工事の関係で運動会中止。

#### 昭和44年（1969）

4月14日 管理棟新校舎へ移転。  
6月12日 音楽鑑賞会、東京交響楽団来演。  
7月15日 長島晴雄氏3年対象講演会。  
生徒の長髪を認める旨発表。  
11月21日 県英語研究会本校で行われる。  
12月19日 狂言鑑賞会、劇団潮流。  
この年 木下勇教諭ゆずりは賞受賞。  
教師と生徒との関係、生徒の政治・社会活  
動話題となる。

#### 昭和45年（1970）

1月16日 職員同和研修会、長浜氏講演。

2月24日 生徒会・全校座談会を行う。  
5月8日 全校生万国博見学。  
7月20日 プール竣工式。  
12月17日 音楽鑑賞会、栗林義信・飯野淳也・新井克  
輔・小林崇行各氏来演。

#### 昭和46年（1971）

3月2日 高橋典治教諭（書道）逝去。  
4月1日 山本校長、県教委学校教育課長に転任。嶋  
田幸雄、県立相生産業高等学校長より第14  
代校長として着任。  
4月26日 時によって制帽をかぶらない事を認める旨  
発表。  
5月31日 第1本館東工事起工式。  
6月5日 柏谷博之氏講演会「南極自然と生物」  
7月17日 青友会主催地区別懇談会始まる。  
10月19日 能・狂言鑑賞会。  
12月1日 東播高校美術展（於会議室）

#### 昭和47年（1972）

1月8日 第1本館第5期工事竣工式。  
2月4日 旧講堂撤去。  
5月 この年より本校に加古川東コミュニティカ  
レッジ開講。テーマ「家庭の科学・英会話」

#### 昭和48年（1973）

10月7日 放送による同和学習を始める。「同和对策  
特別措置法」の解説を行う。  
10月3日 定期的にLHRの時間を利用して同和学習  
を行う。  
10月11日 生徒の学習机・椅子が従来の木製より、パ  
イプ机・椅子に1学年分変わる。  
11月3日 グレード別学級編成について検討委員会を  
設ける。  
11月10日 清流館の建設始まる。

#### 昭和49年（1974）

3月31日 格技場・生徒集会室（食堂）完成。  
4月1日 嶋田校長退職。岩崎宗次郎、県立三木高等  
学校長より第15代校長として着任。新年度  
よりグレード別学級編成を廃止。  
4月9日 同和教育担当教諭を生徒指導部に1名、各  
学年に各1名を設ける。  
5月17日 この年より加古川西高校と職員親善試合始  
まる。  
6月7日 創立50周年記念式典を盛大に行い、記念講

- 演に田中国夫関西学院大教授を招く。
- 6月9日 コミュニティー・カレッジのテーマを「文学の心を探る」に変更。受講生80名余。
- 8月19日 清流会より清流館3階会議室を寄付。
- 11月5日 同和教育啓蒙映画「大地の夜明けⅡ部」を全校生徒に鑑賞させる。この頃同和に関する差別問題が各地でおこり、本校職員も糾弾会等に出席し研修。
- 11月16日 文化鑑賞会で、独唱会を開く。
- 12月15日 生徒の表彰制度（学校賞・皆勤賞・精勤賞・生徒会功労賞）を廃止。

#### 昭和50年（1975）

- 1月10日 模試・実力考査の成績処理を外部のコンピューターに依頼。
- 2月4日 書道教室完成。
- 4月10日 必修クラブの全学年実施は施設・設備の面から困難なので、3年生はゼミナール形式にする。  
同和教育部が専門部として独立。
- 7月 財団法人「青松会」発足。
- 7月15日 地区別懇談会を廃して、学年別父兄会始まる。
- 10月24日 文化鑑賞会、古典芸能として能・狂言（舟弁慶・附子）上演。
- 12月15日 部落解放研究同好会発足し、生徒会を中心として、学習活動始まる。

#### 昭和51年（1976）

- 4月1日 岩崎校長退職。藤本晴保、県立八鹿高等学校校長より第16代校長として着任。
- 10月20日 文化鑑賞会、劇団潮流による松本清張作「左の腕」を加古川市民会館にて上演。
- 11月10日 「共通一次試験」構想が具体化してきたので、父兄を対象に神戸大学教授松田氏の講話を聞く。

#### 昭和52年（1977）

- 4月1日 生徒急増期のため、学級数31、1学年の定員495名となる。
- 5月18日 身障者問題について、県教委小島参事を招いて、職員研修会を開く。
- 7月19日 社会奉仕活動の一環として、献血運動始まり、以後毎年実施。
- 9月10日 修学旅行・体育祭等の簡素化に向けて検討始まる。

- 12月7日 学校行事の抜本的見直しのため、検討委員会を設ける。
- 12月13日 文化鑑賞会、関西学院大学グリークラブ演奏会。
- 12月16日 昭和54年実施予定の大学共通一次試験の試行試験実施。本校生も参加。

#### 昭和53年（1978）

- 1月9日 加古川北高校開設準備室本校に設置。
- 3月17日 加古川北高校の入学試験、本校で実施。
- 7月19日 部落解放研究同好会、部に昇格。活発な活動開始。
- 8月2日 全国高校総合文化祭に、本校邦楽部出演（大分県）。
- 10月31日 文化鑑賞会、古典芸能として能・狂言（隅田川・瓜盗人）上演。
- 10月 この頃、同和HRで身障者問題の学習始まる。  
この年より修学旅行の行先が九州より信州に変わる。
- 12月18日 昭和54年度より管理厚生部廃止、総務部・保健部に所管を移すことに決定。

#### 昭和54年（1979）

- 1月13日 大学共通一次試験実施され、本校生372名受験する。
- 3月31日 体育器具庫、管理倉庫完成。
- 5月8日 県同和教育指導室編集の同和資料「高校生と同和問題」を全校生徒に貸与する。
- 6月17日 県総合体育大会で総合3位となる。県立高校ではトップの座を占める。
- 7月28日 旧体育館取りこわし、生徒小集会室完成。これによって旧中学時代の建造物が姿を消す。  
旧中学時代の面影は生徒通用門にその住時の校門の姿を残す。
- 10月18日 文化鑑賞会、関西芸術座「奇蹟の人」を上演。
- 10月23日 新学習指導要領に基づく、新しいカリキュラムの検討始まる。
- 10月31日 横山光男事務長 逝去。

#### 昭和55年（1980）

- 1月23日 特色ある学校づくりの一環として教育機器（視聴覚機器）導入される。
- 4月18日 生徒の交通事故頻発のため、県下公立高校

- 生の運転免許証取得者に対して、学校に免許証を預託する事に決定。
- 9月26日 多様な生徒に対応できるような教育課程の改訂に備え、本校でも新教育課程編成のための検討委員会を設置。
- 10月21日 文化鑑賞会、オペレッタを上演。
- 昭和56年（1981）**
- 1月4日 スキー教室始まる（鉢高原スキー場、2泊3日）。80名参加。
- 5月18日 伊藤幸夫教諭（生物）逝去。
- 10月11日 文化鑑賞会、古典芸能（能・狂言）を上演。
- 11月16日 藤本校長アメリカ、ワシントン州校長協会総会に招待され、訪米。
- 11月27日 身障者問題を学習するため、映画「典子は今」を鑑賞。
- 昭和57年（1982）**
- 1月3日 水田重之教諭（国語）逝去。
- 4月1日 第1学年9学級となる。丙午生まれのため、全国的に生徒数減少。  
新教育課程の実施段階に入る。
- 7月13日 文化鑑賞会、演劇「あゝ青春高校野球」を関西芸術座が上演。
- 11月19日 藤本校長、文部大臣教育者表彰を受ける。
- 昭和58年（1983）**
- 4月1日 藤本校長退職。竹一千城、県立綱干高等学校校長より第17代校長として着任。本年度入学生より1学級47名となる。
- 6月18日 県総合体育大会で男子総合4位、女子10位に入る。
- 7月11日 社会科教室にモニターテレビ4台設置。
- 10月3日 西播教育事務所次長兼学校教育課長桑村寛氏を招いて、同和研修会を開く。
- 10月27日 全校舎の窓枠の塗り替え。
- 10月28日 文化鑑賞会、京都エフフォニカ管弦楽団の演奏を聞く。
- 12月23日 全国進学情報センター所長、丹羽建夫氏を招いて進路講演会を開く。
- 12月27日 全校舎の照明設備工事完了。
- 昭和59年（1984）**
- 1月1日 尾崎千春教諭（国語）逝去。
- 3月15日 本館内部の全面塗装と前庭ロータリーの改装完了。
- 6月7日 創立60周年記念式典挙行。  
記念講演「後輩に望むこと」稲井好廣氏（中1回）、記念彫塑「道標」除幕、東村正久作（中5回）。
- 8月21日 自転車置き場（清流館南）2棟新設。
- 10月12～15日 2年修学旅行（高山、上高地、白樺湖方面）。
- 11月8日 文化鑑賞会「古典落語」桂米朝、朝丸各氏。  
\* 9月韓国全斗煥大統領初来日。  
11月新1万円札、5千円札、千円札発行。
- 昭和60年（1985）**
- 2月25日 第37回卒業式（407名）。
- 3月14日 防球ネット他工事完成。
- 3月25日 屋内消火栓設備及び防災設備改修工事完成。
- 4月22～23日 1年オリエンテーション（県立嬉野台生涯教育センター）。
- 6月16日 文化祭。
- 9月22日 体育祭。
- 10月13～16日 2年修学旅行（高山、上高地、黒部、金沢方面）。
- 12月19日 文化鑑賞会「奇跡の人」関西芸術座。  
\* 3月ソ連、ゴルバチョフ書記長を選出。  
5月男女雇用機会均等法成立。
- 昭和61年（1986）**
- 2月25日 第38回卒業式（517名）。
- 3月10日 プール改修工事完成。
- 3月31日 竹一千城校長退職。
- 4月1日 福島浩之、県立相生高等学校校長より第18代校長として着任。普通科理数コース1学級（47名）設置。
- 6月15日 文化祭。
- 9月23日 体育祭。
- 10月11～14日 2年修学旅行（高山、上高地、白樺湖方面）。
- 12月15日 文化鑑賞会 映画「インドへの道」。  
\* 4月ソ連チェルノブイリ原発事故発生。  
9月社会党委員長に土井たか子就任（初の女性党首誕生）。
- 昭和62年（1987）**
- 2月9～14日 耐寒訓練（この年より「寒げいこ」が「耐寒訓練」に変わり運動場での持久走になる）。
- 2月16日 理数コース入学者選抜適性検査。

- 2月25日 第39回卒業式(469名)。  
 3月10日 相撲場取り壊し。  
 3月21日 文化祭(この年より3月実施になる)。  
 3月31日 書道教室増築(2階部分、普通教室2)工事完成。  
 4月1日 第1学年生徒募集定員12学級564名となる。33学級1,551名。  
 4月28日 新入生歓迎行事(この年より歓迎遠足をとりにやめ、校内行事になる)。  
 6月21日 体育祭(この年より、共通一次試験に備えて6月実施になる)。  
 9月25日 文化鑑賞会、古典芸能「上原まりの平家物語」。  
 10月11~14日 2年修学旅行(高山、上高地、白樺湖方面)。  
 \* 3月よりグループ分けを導入した国公立大入試制度スタート。  
 7月石原裕次郎死去(52才)。  
 10月利根川進氏ノーベル医学生理学賞。

#### 昭和63年(1988)

- 1月13~25日 西オーストラリア州交換生受け入れ。  
 2月25日 第40回卒業式(467名)。  
 3月21日 文化祭。  
 3月28日 普通教室3室新築工事完成。  
 4月1日 35学級1,645名。  
 6月19日 体育祭。  
 9月30日 文化鑑賞会 演劇「もうひとつの教室——夜間中学——」関西芸術座。  
 10月2日 加藤誠次教諭(社会科)逝去。  
 10月13~16日 2年修学旅行(高山、上高地、蓼科方面)。  
 \* 6月リクルート疑惑発覚政治問題化。  
 9月第24回ソウル五輪。

#### 昭和64年・平成元年(1989)

- 2月25日 第41回卒業式(517名)。  
 3月21日 文化祭。  
 3月31日 福島浩之校長退職。  
 4月1日 田野勝彦、県立夢野台高等学校長より第19代校長として着任。  
 36学級1,692名。  
 6月18日 体育祭。  
 7月17~18日 球技大会。  
 9月14日 文化鑑賞会「オペラ名曲鑑賞」関西二期会合唱団、神戸金管五重奏団。

- 10月11~14日 2年修学旅行(高山、上高地、蓼科方面)。  
 11月12日 普通教室棟窓枠サッシ及び外壁塗装工事完成。  
 12月18~20日 球技大会(この年より2学期にも実施)。  
 \* 1月7日 昭和天皇崩御、平成と改元(8日)。  
 2月24日 昭和天皇大葬、臨時休日。  
 4月より消費税導入。  
 6月美空ひばり死去(52才)。

#### 平成2年(1990)

- 1月13~14日 共通一次試験に代わり大学入試センター試験実施。  
 1月20~28日 西オーストラリア州高校生受け入れ。  
 2月28日 第42回卒業式(558名)。  
 3月21日 文化祭。  
 4月1日 学区変更により明石・加印学区から分離し、加印学区となる。  
 文部省指定運動部活動研究推進指定校になる。  
 6月17日 体育祭。  
 6月21日 映画鑑賞会「天と地と」。  
 9月27日 同和教育講演会「今光っていたい」。  
 ——娘の遺してくれたもの——  
 田中 蔚(武庫川女子大学講師)。  
 10月12~15日 2年修学旅行(磐梯山・会津、日光方面)。  
 11月15日 文化鑑賞会「落語」桂 べかこ、桂む雀氏その他。  
 \* 7月神戸高塚高校で校門圧死事件。  
 10月東西両ドイツ統一。  
 この年バブル景気崩壊。

#### 平成3年(1991)

- 2月28日 第43回卒業式(558名)。  
 3月21日 文化祭。  
 3月31日 田野勝彦校長退職。  
 4月1日 磯重美、兵庫県教育委員会事務局参事兼高校教育課長、第20代校長として着任。  
 第1学年学級定員45名、36学級1,668名。  
 6月3日 県総合体育大会男子総合準優勝。  
 8月30日 普通教室棟床改修工事完成。  
 9月6日 玄関前スロープ工事完成。  
 10月12~15日 2年修学旅行(信州、黒部、金沢方面)。  
 10月14日 第46回石川国体少年A走り幅跳びで3年内

井亮 7 m37で優勝。  
11月16日 文化鑑賞会「野望の系譜」東京芸術座。  
\* 1月多国籍軍イラン空爆、湾岸戦争開始。  
6月雲仙・普賢岳で大規模な火砕流発生。  
12月ソビエト連邦消滅。

#### 平成4年(1992)

2月10日 研究紀要創刊号発刊。  
2月28日 第44回卒業式(561名)。  
3月26日 普通教室棟廊下床改修工事完成。  
4月1日 第1学年学級定員40名 36学級1,582名。  
7月8日 中庭花壇の植栽(いきいきハイスクール創成事業)。  
9月12日 第2土曜日休日制実施。  
9月22日 文化鑑賞会「サウンド・ニュー」ビッグバンドジャズ。  
10月12~15日 2年修学旅行(金沢、黒部、蓼科方面)。  
10月19日 「いきいきコンサート」(卒業生8名、賛助出演者1名)。  
11月17日 文部省指定運動部活動研究推進校研究発表会。  
研究紀要第2号発刊(文部省指定運動部活動研究指定校研究のまとめ)。  
11月18日 普通教室棟便所改修工事完成(各階に男女便所を設ける)。  
\* 2月アルパールビル冬期五輪。  
6月国連平和維持活動法案(PKO)成立。  
7月バルセロナ五輪女子200m平泳ぎで中2の岩崎恭子金メダル(史上最年少)。

#### 平成5年(1993)

2月10日 研究紀要第3号発刊。  
2月27日 第45回卒業式(560名)。  
4月1日 36学級1,498名。  
校時変更(SHRを6時限終了後に設定)。  
6月5日 中庭花壇の植栽(いきいきハイスクール創成事業)。  
10月5日 文化鑑賞会、能「案達原」、狂言「柿山伏」上田能楽堂。  
10月13~16日 2年修学旅行(十和田湖、田沢湖方面)。  
11月6日 吹奏楽部員による特別養護老人ホーム「永楽園」での訪問演奏(いきいきハイスクール創成事業)。  
11月29日 図書室窓枠サッシ改修工事完成。  
11月30日 普通教室棟南側、運動場東側植樹(いきいきハイスクール創成事業)。

12月14日 本館棟屋上防水改修工事完成。  
12月17日 予餞会「美女と野獣」鑑賞。  
12月20日 図書室空調設備工事完成。  
\* 6月皇太子ご結婚、休日。  
7月北海道南西部沖でM7.8の大地震発生。奥尻島では津波・火災のため死者・行方不明者231名。  
8月細川連立内閣が発足。38年間の自民党政権に終止符。藤山一郎死去。  
10月水稲稲作指数74、戦後最悪。

#### 平成6年(1994)

1月4~6日 1年スキー教室(ニューオジロスキー場)。  
1月28日 生徒会長選挙立ち会い演説会。  
1月31日~2月5日 耐寒訓練。  
2月1日 学校諸規定集改訂。  
2月10日 研究紀要第4号発刊。  
2月28日 第46回卒業式(538名)。  
3月20日 文化祭。  
3月31日 磯重美校長退職。  
4月1日 竹内暉雄、東播磨教育事務所長より第21代校長として着任。  
36学級1,438名(全学級40名)第1学年より新教育課程実施(総単位数が80単位以上になり、これまでの履修即修得が弾力的に運用される。男子家庭科必修)。  
6月7日 創立70周年記念式典挙行。記念講演「学問と人生」魚住武司氏(高9回)、記念モニュメント「曙光(円環の門)」除幕、中川猛氏作(高21回)。  
10月2~15日 2年修学旅行(白馬・八方尾根、黒四ダム、松本城)。  
11月4日 文化鑑賞会、演劇「きらめく星座~昭和オデオン堂物語」。  
\* 6月村山連立内閣が成立。松本サリン事件発生。  
7月北朝鮮金日成主席死去。向井千秋、日本人初の宇宙飛行士。  
8月北海道東方沖地震。  
11月10日 大江健三郎ノーベル文学賞受賞。

#### 平成7年(1995)

3月31日 竹内暉雄校長退職。  
4月1日 衣川清馬、県立西脇高等学校長より第22代校長として着任。35学級1400名。

- 6月18日 体育祭。  
8月5日 吹奏楽部、全国高校総合文化祭参加。(新潟県)。  
9月29日 文化鑑賞会、韓国民族舞踊音楽。  
10月11～14日 2年修学旅行(兼六園、立山・黒部、上高地・軽井沢)。  
10月13日 バス旅行、1年(倉敷チボリ公園)3年(エキスポランド・民族学博物館)。  
12月18日 予餞会兼いきいきハイスクール創成事業、トーク&コンサート「車いすからのメッセージ」小西達也氏。  
\* 1月17日 阪神淡路大震災。  
3月地下鉄サリン事件。  
5月オウム真理教麻原逮捕。

#### 平成8年(1996)

- 4月1日 2学期制(前・後期制)開始。  
6月16日 体育祭。  
9月18日 高等学校PTA地域活動実践事業講演会(姫路大覚寺住職、中西玄禮氏)。  
10月13～16日 2年修学旅行(兼六園、立山・黒部、上高地・軽井沢)。  
10月23日 進路講演会、名古屋工業大学教授、山本幸司氏。  
11月27日 高等学校PTA地域活動実践事業講演会(西神戸医療センター精神神経科医長植本雅治氏)。  
\* 2月薬害エイズ事件で厚生大臣謝罪。  
7月イギリスでクローン羊ドリー誕生。  
9月民主党成立。  
12月ペルー日本大使館人質事件。

#### 平成9年(1997)

- 1月16～20日 1年スキー実習(志賀高原、高天ヶ原)。  
3月31日 衣川清馬校長退職。  
4月1日 岩村 巖、県立姫路飾西高等学校長より第23代校長として着任。  
31学級、生徒数1232名。  
4月20日 第2回文化部発表会。  
6月22日 体育祭。  
10月31日 バス旅行、1年(姫路城・歴史博物館)2年(倉敷チボリ公園)3年(エキスポランド・民族学博物館)。  
11月6日 文化鑑賞会、演劇「大江山妖鬼伝説」劇団潮流。  
\* 7月香港が返還される

- 10月金正日が北朝鮮の総書記に。消費税率5%。

#### 平成10年(1998)

- 1月21～25日 1年スキー実習(志賀高原、高天ヶ原)。  
4月1日 30学級、1200名。  
4月18日 第3回文化部発表会。  
5月16日 進路講演会。  
6月22日 体育祭。  
9月10日 人権教育講演会「いのちのかけら」花園大学講師、辻光文氏。  
10月30日 バス旅行、1年(ポートピアランド)2年(倉敷チボリ公園)3年(エキスポランド・民族学博物館)。  
11月2日 文化鑑賞会、バロック音楽、テレマン室内管弦楽団。  
\* 2月長野冬季オリンピック開催。韓国金大中大統領に。  
5月インド、パキスタン、地下核実験。明石海峡大橋開通。和歌山カレー毒物事件。

#### 平成11年(1999)

- 4月18日 第4回文化部発表会。  
5月15日 進路講演会。  
6月20日 体育祭。  
7月1日 人権教育講演会「在日外国人2.5世の思い」姜吉美氏。  
8月28日 コンピュータ室整備完了。パソコン40台ほか設置。  
9月28日 文化鑑賞会、上方落語、月亭八方ほか。  
11月2日 1日校外学習 3年(エキスポランド・民族学博物館)。  
11月5日 進路講演会(国立極地研究所、森本真司氏)。  
\* 1月EUでユーロ導入開始。  
2月日本初の脳死移植。  
9月東海村で臨界事故。

#### 平成12年(2000)

- 3月10日 コンピュータ室インターネット接続。  
3月31日 岩村 巖校長退職。  
4月1日 田口京平、県立明石北高等学校長より第24代校長として着任。  
31学級、生徒数1232名。  
4月23日 文化部発表会。  
6月18日 体育祭。  
文化鑑賞会、演劇「父と暮らせば」道化座。

- \* 4月介護保険制度施行。
- 6月朝鮮半島初の南北首脳会談。
- 11月旧石器ねつ造事件。

#### 平成13年 (2001)

- 1月21～25日 1年生スキー実習(志賀高原、横手山スキー場)。
- 4月1日 完全週5日制度実施開始。
- 5月11日 第5回文化部発表会。
- 6月17日 体育祭。
- 10月23日 文化鑑賞会、和太鼓「松村組」。
- 11月6日 1日校外学習、1年(ポートピアランド・青少年科学館・UCCコーヒー博物館) 2年(エキスポランド・民族学博物館) 3年(ユニバーサルスタジオジャパン)。
- 11月26日 進路講演会(「私とオリンピック」アシックス、三村仁司氏)。
- \* 9月アメリカ同時多発テロ。映画「千と千尋の神隠し」が日本新記録。
- 10月ハンセン病訴訟で国が敗訴。小泉内閣発足。

#### 平成14年 (2002)

- 1月19～23日 1年スキー実習(志賀高原)。
- 育友会の名称をPTAへ変更。
- 5月10日 第6回文化部発表会。
- 7月6日 体育祭。
- 10月17日 人権教育講演会(大阪市立大学経済学大学院教授、朴一氏)。
- 10月21日 文化鑑賞会、狂言「柿山伏」能「羽衣」。
- 10月24日 進路講演会。
- 11月6日 1日校外学習、1年(神戸ポートピアランド・県立防災センター) 2年(エキスポランド・民族学博物館) 3年(京都嵐山)。
- \* 5月日韓共催ワールドカップ開催。
- 8月住基ネット始動。
- 9月初の日朝首脳会談。

#### 平成15年 (2003)

- 3月31日 田口京平校長退職。
- 4月1日 中野直行、県教育委員会教育企画室長より第25代校長として着任。
- 31学級、生徒数1232名。
- 4月1日 理数コースからGS(ゼネラル・サイエンス)コースへと改称。
- 5月2日 第7回文化部発表会。

- 6月21日 体育祭。
- 7月10日 文化鑑賞会、演劇「遙かなる甲子園」関西芸術座。
- 10月2日 文化講演会(諏訪中央病院、鎌田<sup>みのる</sup>實氏)。
- 10月23日 人権教育講演会(加古川市人権教育指導員、岡崎勢子氏)。
- 10月30日 1日校外学習、1年(海浜水族園・海洋博物館・布引ハーブ園) 3年(ユニバーサルスタジオジャパン)。
- 11月3日 中野直行校長、逝去。
- 11月7日 ドイツ、シュトゥットガルト青少年弦楽合奏団来校。
- 11月19日 進路OB講演会(高18回、山村政夫氏)。
- 12月1日 田寺和徳、県立教育研修所長より第26代校長として着任。
- 12月14～17日 2年総合体験研修旅行(白老ポロトコタン・ニセコ東山・小樽)。
- \* 3月イラク戦争始まる。SARDSの猛威広がる。
- 4月ヒトゲノム完全解読。
- 10月阪神タイガース18年ぶりの優勝。

#### 平成16年 (2004)

- 4月23日 ニュージーランド、ワイタケレ市高校生来校。
- 4月26～27日 1年オリエンテーション合宿(県立総合体育館)。
- 5月1日 第8回文化部発表会。
- 6月19日 体育祭。
- 7月13日 芸術鑑賞会、シャンソン、広瀬敏郎氏(高18回)。
- 7月23日～8月31日 普通教室棟改修工事。
- 10月23日 創立80周年記念式典挙行。記念講演「私はこうしてニュースキャスターになった——わが体験的キャスター論——」杉尾秀哉氏(高28回)。
- 12月14～17日 2年総合体験研修旅行(白老ポロトコタン・ニセコ東山)。

# 部活動の記録

(平成6年度～平成16年度)

〔育友会・PTAの会報誌より抜粋〕

## 《平成16年度現在の部活動一覧》

文 化 部	演 劇	雑 誌	美 術	書 道
	合 唱	吹 奏 楽	邦 楽	生 物
	写 真	茶 道	華 道	放 送
	新 聞	E S S	地 学	政 経
	アマチュア無線	J R C	地理歴史考古学研究	化 学
	Human Rights			
運 動 部	ソフトテニス	バレーボール	柔 道	剣 道
	野 球	卓 球	バスケットボール	陸 上 競 技
	ソフトボール	バドミントン	サ ッ カ ー	水 泳
同 好 会	数 学 研 究	落 語 研 究	ギターフォーク	将 棋

### 平成6年度

#### 運動部

##### ●柔道部

・東播夏季 男子団体 3位

##### ●剣道部

・東播総体 男子団体 優勝  
男子個人 3位 川崎 健吾

##### ●男子ソフトテニス部

・東播新人 団体 3位  
個人 優勝 高橋・平沢

##### ●男子バレーボール部

・東播新人 3位  
・県新人 最優秀選手賞 ベスト8 大西 直人  
・近畿大会 出場

##### ●男子バドミントン部

・東播新人 団体 3位  
・県新人 団体 3位  
・近畿大会 ダブルス 東村・吉村  
シングルス 3位 東村 亨輔

##### ●女子バドミントン部

・東播新人 ダブルス 3位 松本・吉田

##### ●陸上競技部

・全国高校総体  
走幅跳 出場 和田 竜一  
・県ジュニア やり投 3位 西野 元裕  
1500m 2位 藤原 真  
110m H 3位 岡里 新

##### ・東播高校総体

〈男子〉 男子総合 3位

3000m S C	3位	山本 聡志
円盤投	3位	西野 元裕
1500m	2位	藤原 真
4×100m	3位	松井・増田 松下・国里 森崎・嵯峨山
走幅跳	2位	増田 守弘
走幅跳	3位	森崎 崇亘
三段跳	2位	増田 守弘
砲丸投	優勝	西坂 浩至
円盤投	優勝	西坂 浩至
円盤投	3位	壺坂 明代
200m	優勝	二宮 麻子
400m	3位	平野 千種
100m H	3位	白石 明子
走幅跳	優勝	二宮 麻子

#### 文化部

##### ●吹奏楽部

・県吹奏楽コンクール 銀賞

##### ●合唱部

・全日本合唱コンクール県大会 銀賞

##### ●E S S部

・東播英語スピーチコンテスト 3位 井上めぐみ

##### ●放送部

・NHK杯全国放送コンテスト(県大会)

ラジオ番組制作自由部門

ラジオ番組制作課題部門

創作ドラマ部門

・県総合文化祭

D J コンテスト部門 佳作  
ラジオ番組自由部門 佳作

ダブルス 5位  
・東播総体 団体 3位  
・県新人大会 団体 5位  
シングルス 5位 高橋 太一  
・近畿新人大会  
シングルス 出場 高橋 太一  
ダブルス 出場 高橋 太一  
尾国 新一

## 平成7年度

この年は1月17日の阪神・淡路大震災の関係で多くの大会が中止となる。

### 運動部

県総合体育大会 男子総合8位

#### ●剣道部

・東播大会 男子団体 優勝  
女子個人 優勝 新井小百合  
・県高校総合体育大会  
男子団体 5位

#### ●男子バレーボール部

・東播大会春季大会 4位  
・県高校総合体育大会 5位 (近畿大会出場)  
優秀選手 大西 直人

#### ●陸上競技部

・東播大会  
〈男子〉 男子総合 3位  
4×400m 2位  
砲丸投 優勝 尾住 英昭  
2位 西坂 浩至  
やり投 優勝 西野 元裕  
〈女子〉 女子総合 2位  
200m 優勝 二宮 麻子  
100mH 2位 白石 明子  
走幅跳 優勝 二宮 麻子  
・県高校総合体育大会  
〈男子〉 やり投 5位 西野 元裕  
〈女子〉 走幅跳 3位 二宮 麻子  
(以上2名 近畿大会出場)

#### ●県高校ジュニア

1年男子 砲丸投 3位 尾住 英昭  
2年女子 走幅跳 優勝 二宮 麻子

#### ●近畿ジュニア

2年女子 走幅跳 優勝 二宮 麻子

#### ●男子バスケットボール部

・県高校総合体育大会 5位  
優秀選手 岩見州一郎

・東播総体 3位

#### ●男子バドミントン部

・東播大会 団体 3位  
・県高校総合体育大会  
団体 3位

#### ●女子バドミントン部

・東播大会 団体 3位  
・県高校総合体育大会  
団体 5位  
・東播総体 団体 優勝  
・県新人大会 団体 3位

#### ●男子ソフトテニス部

・東播大会 団体 3位  
個人 優勝 3位

#### ●秋季東播大会新人戦

団体 準優勝

#### ●女子ソフトテニス部

・東播大会 団体 4位

#### ●男子卓球部

・東播大会 シングルス 3位

#### ●女子卓球部

・東播大会 団体 3位

#### ●水泳部

・東播総体 女子100m背泳 1位 中水 文恵  
女子100mバタフライ 2位 大海いつか  
女子400mメドレー 2位 中水 文恵  
川鍋 祐子  
大海いつか  
中嶋 香織

### 文化部

#### ●吹奏楽部

・県アンサンブルコンテスト予選 金賞  
・東播吹奏楽コンクール 金賞  
・全国総合文化祭 文化連盟賞  
・県吹奏楽コンクール 金賞  
・東播アンサンブルコンテスト  
フルート四重奏 金賞  
サクソフォン四重奏 金賞  
・県アンサンブルコンテスト  
フルート四重奏 金賞

●放送部

- ・NHK杯  
アナウンス部門 入選  
朗読部門 入選  
ラジオ番組課題部門 入選
- ・県総合文化祭DJ部門  
「恋の毘しかけましょ」 銀賞

●書道部

- ・県総合文化祭 特選 長尾 知子

●女子バドミントン部

- ・東播大会 団体 準優勝  
ダブルス 3位 糀谷 知子  
柳谷 礼香
- 個人 ベスト8  
糀谷 知子  
柳谷 礼香

・県高校総合体育大会

団体 5位

・県高校新人大会東播地区予選

団体 3位  
ダブルス 3位 平野 美紀  
間處亜希子

・県高校新人大会

団体 3位 (近畿大会出場)

・近畿高校新人大会

団体予選リーグ 1勝1敗

・冬季東播大会

シングルス 優勝 柳谷 礼香

●男子ソフトテニス部

- ・東播大会 団体 準優勝  
個人 準優勝 藤原 一成  
竹内 健太

・県高校総合体育大会

団体 12位 (近畿大会出場)  
個人 ベスト16 染川 慎治  
伏野 耕平  
(近畿大会出場)

・東播秋季新人大会

団体 3位

・県中央新人大会

団体 ベスト8

●陸上競技部

- ・東播大会 総合 3位  
走幅跳 優勝 二宮 麻子  
(東播高校新記録)

100mH 優勝 白石 明子  
最優秀選手賞 二宮 麻子

・県高校総合体育大会

砲丸投 5位 西坂 浩至  
走幅跳 優勝 二宮 麻子  
100mH 5位 白石 明子  
(以上3名近畿大会出場)

・近畿大会 走幅跳

3位 二宮 麻子  
(全国大会出場)

・兵庫リレーカーニバル

平成8年度

運動部

●男子バドミントン部

- ・東播大会 団体 3位  
ダブルス ベスト8 高橋 太一  
尾国 新一  
シングルス ベスト8 高橋 太一
- ・県高校総合体育大会  
団体 3位 (近畿大会出場)  
シングルス ベスト8 高橋 太一
- ・県高校新人大会東播地区予選  
団体 準優勝  
ダブルス 優勝 高橋 太一  
藤田 旨則  
3位 吉田 基秀  
尾国 新一  
シングルス 優勝 高橋 太一  
3位 藤田 旨則
- ・県高校新人大会  
団体 優勝 (近畿大会出場)  
(全国大会出場)  
ダブルス 準優勝 高橋 太一  
藤田 旨則  
ベスト4 今竹 宏  
上床 隆典  
ベスト8 吉田 基秀  
尾国 新一  
シングルス 準優勝 高橋 太一
- ・近畿高校新人大会  
団体予選リーグ 1勝1敗  
ダブルス ベスト16 高橋 太一  
藤田 旨則
- ・冬季東播大会  
シングルス 優勝 高橋 太一  
ベスト4 藤田 旨則

	走幅跳	2位	二宮 麻子
・県民大会	走幅跳	2位	二宮 麻子
	100m H	5位	白石 明子
・全国高校総合体育大会	走幅跳	出場	二宮 麻子
・県陸上選手権大会	少年B 800m	優勝	田嶋 正和
・県高校ジュニア陸上	1年男子 400m	6位	角岡 幹篤
	800m	優勝	田嶋 正和
	4×100m	6位	加藤 武 原 嘉聡 石元 良樹 角岡 幹篤
	4×400m	5位	加藤 武 石元 良樹 岡本 洋輔 角岡 幹篤
	棒高跳	4位	中谷 悠哉
2年男子	砲丸投	5位	尾住 英昭
2年女子	400m	6位	中田 彩子
・近畿高校選手権大会	1年男子 800m	4位	田嶋 正和
・東播高校ジュニア	1・2年男子総合	2位	
	1年男子総合	優勝	
1年男子	200m	3位	加藤 武
	400m	2位	角岡 幹篤
	800m	優勝	田嶋 正和
	1500m	優勝	田嶋 正和
	110m H	3位	長谷川直之
	400m H	3位	岡本 洋輔
	3000m S C	優勝	山本 真也
	4×400m	優勝	加藤 武 田嶋 正和 石元 良樹 角岡 幹篤
	棒高跳	3位	中谷 悠哉
	三段跳	優勝	長尾 壮一
	円盤投	優勝	岡本 高志
2年男子	砲丸投	優勝	尾住 英昭
1年女子	走幅跳	2位	檜皮 貴子
	円盤投	2位	橋本 寛子
2年女子	400m	3位	中田 彩子
・国民体育大会	走幅跳	5位	二宮 麻子

- ソフトボール部
  - ・東播地区秋季大会 優勝
- 女子ソフトテニス部
  - ・東播大会 個人 3位 児島 夏美  
藤本まゆみ

## 文化部

- 放送部
  - ・NHK杯全国高校放送コンテスト東播予選  
ラジオ番組部門 入選  
創作ドラマ・ラジオ部門 入選
  - ・県総合文化祭放送アナウンス部門  
奨励賞 岡筋 桂子
- JRC部
  - ・日本赤十字社  
「金色有功賞」 受賞

この賞は、20年にわたるボランティア活動が評価されたもので、県内の高校でただ一校受賞しました。

- 書道部
  - ・県総合文化祭 特選 鎌田 紗世
- 吹奏楽部
  - ・東播吹奏楽コンクール  
高校Aの部 金賞（最優秀賞）
  - ・県吹奏楽祭兼コンクール  
高校Aの部 金賞
  - ・東播アンサンブルコンテスト  
金管八重奏 金賞  
管楽八重奏 金賞

## 平成9年度

## 運動部

- サッカー部
  - ・県高校総合体育大会 4位
- 剣道部
  - ・県高校総合体育大会  
女子個人 5位 新井小百合
  - ・東播高校剣道大会  
男子個人 3位 北村 学嗣  
女子個人 3位 東田ありさ
  - ・東播大会 男子団体 3位
- 男子ソフトテニス部
  - ・県高校総合体育大会  
個人 9位 一ノ尾裕樹  
竹内 健太

			(近畿大会出場)	1年男子	800m	4位	北沢 和久		
				1年女子	100mH	3位	後藤由起子		
●女子ソフトテニス部				・近畿大会					
・春季東播大会	個人	ベスト4	児島 夏美 藤本まゆみ	2年男子	400m	7位	角岡 幹篤		
					800m	5位	田嶋 正和		
					4×400m	4位	吉松 寿人		
							加藤 武		
							石元 良樹		
							角岡 幹篤		
●陸上競技部				1年女子	100mH	4位	後藤由起子		
・兵庫リレーニール				・東播大会					
〈男子〉	4×400m	7位	菊島 圭司 橋本 暢登 森 靖博 角岡 幹篤 石元 良樹	男子総合		2位			
				2年男子総合		優勝			
				2年男子	200m	3位	加藤 武		
					400m	優勝	角岡 幹篤		
					400mH	優勝	長谷川直之		
					3000m S C	優勝	山本 真也		
・兵庫県高校総合体育大会				4×100m		2位	長尾 壮一		
〈男子〉	4×400m	6位	森 靖博 橋本 暢登 加藤 武 角岡 幹篤 石元 良樹 吉松 寿人				石元 良樹		
			(近畿大会出場)				加藤 武		
	砲丸投	5位	尾住 英昭				吉松 寿人		
			(近畿大会出場)				加藤 武		
				4×400m		優勝			
・東播地区大会							石元 良樹		
〈男子〉	200m	3位	菊島 圭司				吉松 寿人		
	4×100m	準優勝					角岡 幹篤		
	砲丸投	優勝	尾住 英昭				中谷 悠哉		
・東播大会							大西 陽三		
2年男子	400m	優勝	角岡 幹篤				岡本 高志		
	800m	優勝	田嶋 正和	1年男子	800m	3位	北沢 和久		
	4×400m	優勝	藤本 太一 吉松 寿人 長谷川直之 角岡 幹篤		3000m S C	3位	大東 敬典		
					円盤投	3位	小林 裕		
	棒高跳	優勝	中谷 悠哉	2年女子	400m	3位	藤原 聡子		
	円盤投	優勝	岡本 高志	1年女子	200m	優勝	後藤由起子		
	1年女子	100mH	後藤由起子		100mH	優勝	後藤由起子		
・県ジュニア大会				●男子バドミントン部					
	2年男子総合	4位		・県高校総合体育大会					
	2年男子	400m	3位	団体		5位			
	800m	優勝	角岡 幹篤	シングルス		3位	高橋 太一		
	4×400m	3位	田嶋 正和	ダブルス		3位	高橋 太一		
			加藤 武				藤田 旨則		
			石元 良樹				尾國 新一		
			吉松 寿人				吉田 基秀		
			角岡 幹篤				衣川 輝将		
	3000m S C	5位	山本 真也	・東播地区大会			越智 宗		
	棒高跳	3位	中谷 悠哉	団体		優勝			

	シングルス	3位	藤田 旨則
		3位	高橋 太一
			藤田 旨則
		3位	今竹 宏
			上床 隆典
・東播大会	団体	優勝	
	ダブルス	優勝	藤田 旨則 東村 亮輔
	シングルス	優勝	藤田 旨則
		3位	東村 亮輔
・県新人大会	団体	優勝	
	ダブルス	優勝	藤田 旨則 東村 亮輔
	シングルス	優勝	藤田 旨則
		3位	衣川 輝将
		3位	東村 亮輔
・近畿新人選手権大会	ダブルス	準優勝	藤田 旨則 東村 亮輔
●女子バドミントン部			
・県高校総合体育大会	団体	5位	
・東播地区大会	団体	3位	
	シングルス	優勝	柳谷 礼香
	ダブルス	3位	平野 美紀 間處亜希子
●柔道部			
・東播大会	男子個人81kg級	優勝	西口 雅史
●男子卓球部			
・東播大会	シングルス	3位	岸本 浩
●男子バスケットボール部			
・東播大会		3位	
●水泳部			
・東播大会	男子団体総合	3位	
	男子400mメドレーリレー	3位	前田 大輔 竹嶋 圭吾 塚崎 大輔 植田 浩平
	男子200m自由形	1位	植田 浩平
	男子400m自由形	1位	植田 浩平
・県ジュニア選手権大会			
	1年 男子400m自由形	3位	植田 浩平
・近畿選手権大会	男子1500m自由形	全国標準記録をクリアー	植田 浩平

・全国高校総合体育大会  
男子1500m自由形 予選7位 植田 浩平

#### ●女子バレーボール部

・東播大会 3位

### 文化部

#### ●放送部

・NHK杯コンテスト兵庫県大会  
アナウンス部門 入選 岡筋 桂子

・県総合文化祭 DJ部門 銀賞

#### ●地理歴史考古学研究部

・県・中高地域論文コンクール 最優秀賞

#### ●吹奏楽部

・県吹奏楽コンクール東播大会 金賞・最優秀賞

・県吹奏楽コンクール 金賞

・県アンサンブルコンテスト東播大会 金賞・地区代表

#### ●アマチュア無線部

・ALL J Aコンテスト 全国第5位

#### ●その他

・税に関する高校生作文コンクール 国税庁長官賞伊勢原英剛

## 平成10年度

### 運動部

#### ●男子バドミントン部

・東播大会 団体 優勝  
ダブルス 準優勝 藤田 旨則  
東村 亮輔

3位 越智 崇

衣川 輝将

3位 小林 聡

姥 拓郎

シングルス 優勝 藤田 旨則

準優勝 東村 亮輔

ベスト8 衣川 輝将

ベスト8 幸田 誠

・県高校総合体育大会

団体 優勝 (全国大会出場)

ダブルス 優勝 藤田 旨則

東村 亮輔

(全国大会出場)

シングルス 優勝 藤田 旨則

準優勝 東村 亮輔

(以上全国大会出場)

・全国高等学校総合体育大会

団体・個人出場 藤田 旨則

		東村 亮輔	個人	3位	十鳥 祐樹 中川 博統
・ 県新人大会東播地区予選	ダブルス	準優勝 東村 亮輔 衛藤 彰			
		3位 小林 聡 姥 拓郎	・ 県、中央決勝選手権大会	団体	ベスト12 (近畿大会出場)
		ベスト8 岸本 隆宏 高田 健輔	・ 東播磨新人大会	団体	3位
	シングルス	優勝 東村 亮輔		個人	3位 山本 武伸 村木 章
・ 県新人大会	ダブルス	準優勝 東村 亮輔 衛藤 彰	・ 県新人中央決勝大会	ベスト16	山本 武伸 村木 章 (近畿大会出場)
		3位 小林 聡 姥 拓郎			
		ベスト8 岸本 隆宏 高田 健輔	● 柔道部		
	シングルス	3位 東村 亮輔	・ 東播大会	男子個人81kg級	準優勝 西口 雅史
		ベスト8 高田 健輔		女子個人52kg級	3位 馬場 明子
		ベスト16 岸本 隆宏	・ 県高校総合体育大会	女子個人52kg級	ベスト8 馬場 明子
・ 県新人大会東播地区予選	団体	優勝	・ 東播総合体育大会	団体	準優勝
・ 県新人大会	団体	3位		個人	準優勝 伊藤 まほ 3位 馬場 明子 3位 小林 静香
・ 近畿高等学校新人大会	ダブルス	ベスト16 東村 亮輔 衛藤 彰	● 剣道部		
	シングルス	ベスト16 東村 亮輔	・ 東播大会	男子団体	準優勝
・ 冬季東播大会	シングルス	優勝 東村 亮輔		女子個人	3位 仲 ゆかり
● 女子バドミントン部			・ 県大会	女子団体	16位
・ 東播大会	団体	ベスト5		女子個人	16位 東田ありさ
・ 県高校総合体育大会	団体	ベスト8	・ 東播高等学校剣道新人大会	女子団体	3位
・ 県新人大会東播地区予選	ダブルス	準優勝 川端 芳乃 丸山ゆり子	・ 県高等学校剣道新人大会	男子団体	ベスト16
	シングルス	優勝 丸山ゆり子 3位 福井 雅世 ベスト8 川端 芳乃	● 男子卓球部		
・ 県新人大会東播地区予選	団体	優勝	・ 東播大会	団体	準優勝
・ 県新人大会	団体	3位	・ 県新人大会東播予選	学校対抗	準優勝
・ 冬季東播大会	シングルス	優勝 丸山ゆり子 3位 福井 雅世		シングルス	準優勝 岸本 浩
● 男子ソフトテニス部			● 陸上競技部		
・ 春季東播大会	団体	優勝	・ 兵庫リレーカーニバル	〈男子〉	4×400m
					2位 加藤 武 石元 良樹 吉松 寿人 角岡 幹篤
			・ 東播大会	〈男子〉	男子総合
					2位 角岡 幹篤 石元 良樹
				400m	優勝
					2位

		3位	吉松 寿人		
	800m	2位	北沢 和久		
	400m H	2位	長谷川直之		
	走高跳	3位	木戸 宏輔		
	4×400m	優勝	加藤 武		
			石元 良樹		
			吉松 寿人		
			角岡 幹篤		
〈女子〉	100m H	優勝	後藤由起子		
	400m	3位	後藤由起子		
	800m	3位	田中 陽子		
・県高校対抗選手権大会					
〈男子〉	男子総合	5位			
	400m	2位	角岡 幹篤		
	400m H	3位	長谷川直之		
	棒高跳	3位	中谷 悠哉		
	4×400m	2位	吉松 寿人		
			石元 良樹		
			加藤 武		
			角岡 幹篤		
〈女子〉	100m H	5位	後藤由起子		
			(いずれも近畿大会出場)		
・近畿大会					
〈男子〉	400m H	7位	長谷川直之		
	4×400m		吉松 寿人		
			石元 良樹		
			加藤 武		
			角岡 幹篤		
			(全国大会出場)		
・県高校ジュニア陸上	東播磨予選大会				
1年男子	800m	3位	門野 洋介		
	走高跳	2位	木戸 宏輔		
	三段跳	優勝	高田 鉄也		
2年男子	800m	2位	北沢 和久		
	3000m S C	3位	橋本 薫		
	円盤投	2位	小林 裕		
1年女子	400m	優勝	安藤 麻容		
		2位	北野 祐子		
	砲丸投	2位	松下 絵美		
	円盤投	優勝	松下 絵美		
・県高校ジュニア陸上					
1年男子	800m	3位	門野 洋介		
	5000m	5位	亀田 健一		
	走高跳	4位	木戸 宏輔		
	三段跳	5位	高田 鉄也		
2年女子	100m H	2位	後藤由起子		

	4×100m	2位	宮原 幸代		
			山本 純子		
			青木 雅子		
			後藤由起子		
・全国高校総体					
	4×400m	出場	吉松 寿人		
			石元 良樹		
			加藤 武		
			角岡 幹篤		
・東播総体	1年総合	優勝			
	男子総合	2位			
1年男子	200m	2位	原 寿聡		
	800m	優勝	門野 洋介		
	1500m	3位	門野 洋介		
	5000m	優勝	亀田 健一		
	3000m	優勝	山路 哲雄		
	4×400m	2位	矢代 敏久		
			藤原 智大		
			原 寿聡		
			木戸 宏輔		
	走高跳	優勝	木戸 宏輔		
	三段跳	優勝	高田 鉄也		
2年男子	800m	3位	北沢 和久		
	円盤投	2位	小林 裕		
	ハンマー投	3位	尾下 英昭		
1年女子	円盤投	2位	松下 絵美		
2年女子	200m	優勝	後藤由起子		
	100m H	優勝	後藤由起子		

#### ●水泳部

・東播大会	男子総合	3位
-------	------	----

#### 文化部

##### ●演劇部

・東播磨合同発表会	優秀賞
・県合同発表会	優良賞

##### ●吹奏楽部

・吹奏楽コンクール東播大会	金賞	東播代表
・吹奏楽コンクール県大会	銀賞	尼崎市教育委員会奨励賞

##### ●書道部

・県総合文化祭	特選	斉藤 真也
---------	----	-------

##### ●地理歴史考古学研究部

・県中学・高校地域研究論文コンクール	
日光山常勝寺西国三十三ヶ所(2年生)	優秀賞
野山寺高蘭寺内四国八十八ヶ所(3年生)	佳作

平成11年度

運動部

●男子ソフトテニス部

・東播大会	団体	3位	
	個人	準優勝	十鳥 祐樹 福嶋 一宏
		3位	寄門 雄飛 田中 宏平
		ベスト8	廣仲 洋介 岡崎敬一郎
・県大会	個人	5位	廣仲 洋介 岡崎敬一郎 (全国大会出場)
・全国大会	個人	2回戦進出	廣中 洋介 岡崎敬一郎
・新人戦東播大会	団体	優勝	
	個人	優勝	元井 崇 田中 宏平

●男子バドミントン部

・東播大会	団体	優勝	
	シングルス	優勝	東村 亮輔
	ダブルス	3位	東村 亮輔 高橋 武文
		3位	姥 拓郎 衛藤 彰
・県大会	団体	優勝	
	シングルス	準優勝	東村 亮輔 (以上全国大会出場)
	ダブルス	ベスト8	東村 亮輔 高橋 武文
		ベスト8	小林 聡 高田 健輔
・全国高校総合体育大会	団体	2回戦進出	
	シングルス	1回戦	東村 亮輔
・県高校新人大会東播地区予選	団体	準優勝	
	ダブルス	準優勝	衛藤 彰 高田 健輔
	シングルス	3位	衛藤 彰
・県高校新人大会	団体	3位	
	ダブルス	準優勝	衛藤 彰 高田 健輔

		3位	大西 恵介 高橋 武文
	シングルス	3位	高田 健輔
	ベスト8		高橋 武文

●女子バドミントン部

・東播大会	団体	準優勝	
	シングルス	優勝	丸山ゆり子
		準優勝	福井 雅代
	ダブルス	3位	川端 芳乃 丸山ゆり子
・県大会	団体	5位	
・県高校新人大会東播地区予選	団体	優勝	
	ダブルス	優勝	丸山ゆり子 福井 雅代
		3位	佐々木千恵子 島田 美穂
	シングルス	優勝	福井 雅代
		準優勝	丸山ゆり子
・県高校新人大会	団体	5位	
	ダブルス	ベスト8	丸山ゆり子 福井 雅代

●剣道部

・東播大会	女子団体	準優勝	
	女子個人	準優勝	青木 優子
	男子個人	3位	森田 祐貴
・東播秋季剣道大会	男子団体	3位	
	男子個人	準優勝	吉田 馨

●陸上競技部

・東播大会	〈男子〉	800m	優勝	北沢 和久
		棒高跳	3位	橋野 義弘
		円盤投	優勝	小林 裕
	〈女子〉	100mH	優勝	後藤由起子
・県大会	〈男子〉	800m	6位	北沢 和久
		棒高跳	5位	橋野 義弘
		円盤投	5位	小林 裕
				(以上3名近畿大会出場)
・近畿大会	〈男子〉	800m	5位	北沢 和久 (全国大会出場)
・全国高校陸上選手権大会		800m予選	3位	北沢 和久

- ・県高校ジュニア陸上選手権大会
  - 1年男子 400m 8位 横山 明幸
  - 800m 8位 芝田 和幸
  - 1500m 5位 原 英嗣
  - 5000m 4位 原 英嗣
  - 棒高跳 優勝 橋野 義弘
  - 3位 中島 弘貴
  - 三段跳 2位 橋野 義弘
  - 2年男子 800m 2位 門野 洋介
  - 1500m 4位 亀田 健一
  - 4×400m 6位 橋 佳典
  - 藤原 智大
  - 矢代 敏久
  - 木戸 宏輔
  - 走高跳 5位 木戸 宏輔
  - 三段跳 8位 高田 鉄也
- ・近畿高校陸上選手権大会
  - 棒高跳 2位 橋野 義弘
  - 2位 中島 弘貴

●男子卓球部

- ・東播大会 団体 準優勝
- ダブルス 3位 岸本 浩
- 原 敦司
- 3位 木野内惣一
- 長谷川貴之
- ・県大会 団体 ベスト16
- ・県新人大会東播予選 3位

●柔道部

- ・東播大会 女子団体 準優勝
- 女子個人 準優勝 伊藤 まほ
- 3位 長安真智子
- 馬場 瑞穂
- ・県大会 女子団体 ベスト16
- 女子個人 ベスト16 伊藤 まほ
- ・東播総合体育大会 女子個人 3位 馬場 瑞穂

●女子ソフトテニス部

- ・新人戦東播大会 団体 準優勝

●男子バレーボール部

- ・東播総合体育大会 秋季リーグ 1部3位

●野球部

- ・秋季地区大会 代表決定戦（県大会出場）

●男子バスケットボール部

- ・全国選抜東播予選 3位

●水泳部

- ・東播大会 男子400m自由形 3位 山口 拓人

文化部

●吹奏楽部

- ・兵庫県吹奏楽コンクール東播大会 金賞 東播代表
- ・兵庫県吹奏楽コンクール県大会 銀賞 尼崎市教育委員会奨励賞
- ・兵庫県アンサンブルコンテスト東播大会  
サククス4重奏 金賞 東播吹奏楽連盟賞

●アマチュア無線部

- ・ALLJAコンテスト 関西第1位

●放送部

- ・NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会  
創作ラジオドラマ部門 入選

平成12年度

運動部

●男子ソフトテニス部

- ・東播地区高等学校春季ソフトテニス大会
  - 団体 優勝
  - 個人 優勝 服部・池田
- ・県総体ソフトテニス中央決勝大会
  - 団体 ベスト16
- ・東播秋季大会
  - 団体 優勝
  - 個人 優勝 元井・池田
  - 準優勝 服部・高橋
  - ベスト8 永井・藤原
  - 荒田・大西
  - ベスト16 澤井・大石
  - 辰野・黒田
- (以上6ペア 県大会出場)
- ・県新人ソフトテニス中央決勝大会
  - 個人 ベスト8 澤井・大石
- ・近畿新人ソフトテニス大会
  - 2回戦進出 澤井・大石

●男子バレーボール部

- ・東播春季1部リーグ 3位
- ・県総合体育大会 ベスト32
- ・東播1部リーグ戦 4位

●柔道部

- ・東播地区高等学校春季柔道大会
  - 女子個人48kg級 3位 馬場 瑞穂
- ・東播磨高等学校秋季柔道大会
  - 男子個人100kg超級 優勝 宮前 大地

	女子個人63kg級	3位	宮本 佳代	<男子>	5000m	優勝	原 英嗣
		3位	時吉 愛		1500m	3位	原 英嗣
●剣道部					棒高跳	6位	橋野 義弘
・東播大会	男子団体	3位	(県大会出場)	・東播高校駅伝	男子	2位	
	女子団体	3位	(県大会出場)	・県高校駅伝	男子	4位	
・東播新人剣道大会				・近畿高校駅伝	男子	9位	亀田 健一
	男子団体	優勝					門野 洋介
	個人	3位	仲 章弘				前田 悟
	女子団体	県大会出場					川合 晋輔
●男子バスケットボール部							原 英嗣
・県大会出場							木下 大輔
●陸上競技部							芝田 和幸
・東播高等学校陸上競技対校選手権大会				●ソフトボール部			
	400m	2位	横山 明幸	・東播夏季リーグ		3位	
	4×400m	3位	木戸 宏輔	・東播総体		準優勝	
			藤原 智大	●男子バドミントン部			
			木船 勇太	・兵庫県高等学校総合体育大会東播地区予選			
			横山 明幸	団体		準優勝	
	走高跳	優勝	木戸 宏輔	ダブルス		準優勝	衛藤 彰
	棒高跳	2位	橋野 義弘				高田 健輔
	三段跳	2位	高田 鉄也	・兵庫県高校総合体育大会			
・兵庫県高等学校陸上競技対校選手権大会				団体		3位	
	800m	6位	門野 洋介	ダブルス		準優勝	衛藤 彰
	4×400m	5位	木船 勇太				高田 健輔
			横山 明幸				(全国大会出場)
			門野 洋介				ベスト8 大西 恵介
			藤原 智大				高橋 武文
			木戸 宏輔				シングルス
	走高跳	4位	木戸 宏輔				ベスト8 高田 健輔
	三段跳	6位	高田 鉄也				ベスト8 木村 洋輔
			(以上近畿大会出場)	・全国高等学校総合体育大会			
・全国高校近畿地区予選会				ダブルス		2回戦進出	衛藤 彰
	走高跳	7位	木戸 宏輔				高田 健輔
・県高校ジュニア陸上				・兵庫県高等学校新人バドミントン選手権大会東播地区予選			
<男子>	200m	6位	横山 明幸	ダブルス		優勝	高橋 武文
	1500m	優勝	原 英嗣				木村 洋輔
	5000m	2位	原 英嗣	シングルス		準優勝	高橋 武文
	棒高跳	2位	橋野 義弘	・兵庫県個人高等学校新人バドミントン選手権大会			
			中島 弘貴	ダブルス		準優勝	高橋 武文
			5位				木村 洋輔
<女子>	400m	3位	黒田久美子	シングルス		ベスト8	高橋 武文
	100m H	7位	竹元 依里	・近畿高等学校バドミントン選手権大会			
	4×400m	5位	竹元 依里	ダブルス		ベスト8	高橋 武文
			柚木めぐみ				木村 洋輔
			北野 容子	●女子バドミントン部			
			黒田久美子	・兵庫県高等学校総合体育大会東播地区予選			
・近畿高校陸上				団体		優勝	

ダブルス	優勝	丸山ゆり子 福井 雅代
	準優勝	佐々木千恵子 島田 美穂
	3位	宗金 由紀 山崎 寛子
シングルス	優勝	丸山ゆり子
	準優勝	福井 雅子
	3位	佐々木千恵子

- ・兵庫県高等学校総合体育大会  
団体 5位
- ・兵庫県個人高等学校新人バドミントン選手権大会 東播地区予選  
団体 準優勝  
シングルス 準優勝 亀尾 裕子

#### ●男子卓球部

シングルス	8位	長谷川貴之 (県総体出場)
シングルス		竹内 聡祐 (県新人大会出場)

#### ●女子卓球部

- ・県新人大会東播予選団体 7位 (県新人大会出場)

#### ●水泳部

- ・東播高等学校総合体育大会  
男子400m自由形 3位 山口 拓人  
男子総合成績 6位

#### ●女子バスケットボール部

- ・県大会出場

## 文化部

#### ●演劇部

- ・兵庫県高等学校演劇研究会東播磨支部合同発表会  
演劇の部 最優秀賞  
創作脚本の部 最優秀賞
- ・兵庫県高等学校演劇研究会合同発表会  
演劇の部 最優秀賞  
創作脚本の部 最優秀賞
- ・近畿高等学校演劇研究大会 2位 (優秀賞)

#### ●書道部

- ・県総合文化祭 特選 佐野 礼佳

#### ●吹奏楽部

- ・吹奏楽コンクール東播地区大会高校A部門  
金賞 (地区代表)
- ・吹奏楽コンクール県大会高校A部門  
銀賞 県教育委員会奨励賞
- ・兵庫県アンサンブルコンテスト東播地区大会  
サクソ4重奏 金賞 (県大会出場)

トロンボーン5重奏 金賞 連盟賞  
クラリネット4重奏 金賞 連盟賞

#### ●アマチュア無線部

- ・ALL J Aコンテスト 関西第1位

## 平成13年度

## 運動部

#### ●水泳部

- ・東播大会 男子400m自由形 1位 横田 善秀  
男子200m自由形 3位 山口 拓人  
女子400m自由形 3位 白井 美幸
- ・兵庫県高等学校ジュニア水泳選手権大会  
1年女子400m自由形 8位 白井 美幸

#### ●男子卓球部

- ・県総合体育大会 ベスト32  
宮脇 達也  
有田 智則  
糟谷 晃一

- ・国民体育大会東播予選(国民体育大会県予選へ出場)

- ・県高等学校新人大会東播予選 小田 哲也  
(県大会出場)

#### ●男子バドミントン部

- ・県東播地区予選  
団体 3位  
ダブルス 優勝 高橋 武文  
木村 洋輔  
シングルス 優勝 高橋 武文  
3位 木村 洋輔
- ・県総体 団体 5位  
ダブルス 準優勝 高橋 武文  
木村 洋輔 (全国大会出場)
- シングルス 8位 高橋 武文  
16位 木村 洋輔

- ・全国高等学校総合体育大会

ダブルス 出場 高橋 武文  
木村 洋輔

- ・県高等学校新人大会東播地区大会

ダブルス ベスト8 迎山 貴史  
中浜 明敏

- ・県高等学校新人バドミントン選手権大会

ダブルス ベスト8 迎山 貴史  
中浜 明敏

#### ●女子バドミントン部

- ・県東播地区予選

	団体	準優勝		
	ダブルス	3位	亀尾 裕子 金海 淳子	
・ 県高校新人大会東播地区大会	ダブルス	ベスト4	天野 静香 水嶋 啓子	
・ 東播総体バドミントン競技大会	団体	3位		
● 柔道部				
・ 県東播地区予選	男子個人81kg級	3位	黒田 将弘	
	男子個人100kg級	3位	宮前 大地	
	男子個人100kg級	3位	浦井 亮太	
	男子個人100kg超級	3位	成松 翔伍	
・ 東播磨地区高等学校夏季柔道大会		ベスト8		
・ 東播高等学校総合体育大会	男子団体	ベスト8		
	男子個人	2位	宮前 大地	
		3位	黒田 将弘	
	女子団体	ベスト8		
・ 県新人柔道大会	団体	9位	松下 真輔 小埜 武尊 成松 祥吾 浦井 亮太 (近畿大会出場)	
● 女子ソフトテニス部				
・ 県東播地区予選	個人	ベスト8	上村 知子 濱中亜矢子	
		ベスト16	藤井 多恵 花房早奈恵	
・ 東播総体	団体	準優勝		
		ベスト16	森田 麻里 藤原 則子	
		ベスト16	長見 優 久保 和加	
● 男子ソフトテニス部				
・ 県東播地区予選	団体	優勝		
	個人	優勝	元井 崇 池田 和哉	
		ベスト8	服部 智紀 高橋健太郎	
		ベスト8	永井 亮太	

			藤原 和也
	ベスト16		澤井 秀輔 大石 純平
・ 東播秋季新人大会	ベスト16		荒井 光誉 大西 央之
・ 東播秋季新人大会	団体	準優勝	
	個人	準優勝	荒田 光誉 黒田 一範
		ベスト20	辰野 翔 山野本義仁
・ 兵庫県高等学校ソフトテニス新人中央予選	団体	ベスト16	
	個人	ベスト16	荒田 光誉 黒田 一範 (近畿大会出場)
● 剣道部			
・ 県総体		準優勝	最優秀選手賞 仲 章弘
・ 兵庫県民大会	男子団体	ベスト16	
・ 東播総体兼高等学校新人大会	男子団体	優勝	
	男子個人	準優勝	松野 賢一
● 陸上競技部			
・ 県総体東播予選	〈男子〉	1500m	優勝 原 英嗣
		5000m	2位 原 英嗣
		棒高跳	2位 橋野 義弘
		砲丸投	2位 新見 英明
		円盤投	3位 上田 雄太
	〈女子〉	800m	2位 北野 容子
		1500m	3位 北野 容子
		100m H	2位 竹元 依里
・ 県総体	〈男子〉	1500m	2位 原 英嗣
		5000m	2位 原 英嗣
		棒高跳	2位 橋野 義弘
			5位 中島 弘貴
		円盤投	8位 上田 雄太
	男子総合	6位	
	〈女子〉	200m	7位 黒田久美子
・ 近畿大会	1500m	優勝	原 英嗣 (全国大会出場)
			4位 原 英嗣 (全国大会出場)

	棒高跳	7位	橋野 義弘
・ 県高校ジュニア陸上競技対抗選手権			
〈男子〉	800m	優勝	加古 穂高
	1500m	優勝	加古 穂高
	砲丸投	3位	新見 秀明
	円盤投	2位	上田 雄太
	円盤投	優勝	岩本 昌也
〈女子〉	100m	4位	西川 薫
	200m	2位	西川 薫
	300m	4位	増田 奈央
	砲丸投	6位	青山 聡子
	100m	3位	黒田久美子
	200m	5位	黒田久美子
	800m	2位	北野 容子
	1500m	6位	北野 容子
・ 近畿高等学校選手権			
〈男子〉	800m	優勝	加古 穂高
	1500m	2位	加古 穂高
〈女子〉	200m	3位	西川 薫
・ 東播総体			
〈男子〉	800m	優勝	加古 穂高
	1500m	優勝	加古 穂高
	5000m	3位	小松 貴史
	砲丸投	優勝	新見 秀明
	円盤投	優勝	上田 雄太
	三段跳	3位	足立 勝彦
	円盤投	優勝	岩本 昌也
	ハンマー投	3位	岩本 昌也
〈女子〉	100m	2位	西川 薫
	200m	優勝	西川 薫
	3000m	優勝	増田 奈央
	1500m	2位	増田 奈央
	3000m	3位	阪田絵理奈
	4×400m	2位	西川 薫 竹嶋明日香 舩賀 由依 細川 博美
	砲丸投	優勝	青山 聡子
	円盤投	優勝	青山 聡子
	400m	優勝	黒田久美子
	400m H	2位	黒田久美子
	100m H	優勝	竹元 依里
	走幅跳	3位	竹元 依里
・ 兵庫県高等学校駅伝競争大会 東播大会			
	男子	3位	
	女子	3位	

・ 兵庫県高等学校駅伝競争大会 県大会  
男子 6位 (近畿大会出場第18位)  
女子 10位

- 野球部
  - ・ 秋季高校野球東播B地区大会 優勝 (県大会出場)
- サッカー部
  - ・ 秋季リーグ1部昇格
- 女子バスケットボール部
  - ・ 東播総体 ベスト8
- 男子バスケットボール部
  - ・ 全国選抜県予選 ベスト16
  - ・ 東播総体 3位
- ソフトボール部
  - ・ 東播春季リーグ戦 ベスト8

## 文化部

- 吹奏楽部
  - ・ 兵庫県吹奏楽コンクール東播大会 金賞
  - ・ 兵庫県アンサンブルコンテスト東播大会 金管8重奏 金賞 (県大会出場)
- 演劇部
  - ・ 高等学校演劇研究会東播支部合同発表会
    - 演劇の部 最優秀賞
    - 創作脚本の部 最優秀賞
  - ・ 県総合文化祭 優良賞

## 平成14年度

## 運動部

- 男子ソフトテニス部
  - ・ 東播地区高等学校春季ソフトテニス大会
    - 団体 優勝
    - 個人 準優勝 荒田 光誉  
黒田 一範  
ベスト8 内田 和久  
高田 雅人  
ベスト16 高松 遼太  
藤原 大  
(以上3ペア県大会出場)
  - ・ 県総合体育大会ソフトテニス中央決勝選手権大会
    - 団体 3位 (近畿大会出場)
    - 個人 ベスト32 荒田 光誉  
黒田 一範

- ・近畿高等学校ソフトテニス選手権大会
 

	団体	ベスト32	
--	----	-------	--
- ・県民大会
 

	個人	ベスト32	荒田 光誉 新留 弘之
--	----	-------	----------------
- ・東播地区高等学校秋季新人ソフトテニス大会
 

	団体	優勝	
	個人	3位	古山 健男 菊島 宏太
		5位	内田 和久 高田 雅人
		9位	日浦 瑞貴 古谷 嘉宏
		9位	井上 潤也 佃 健太郎

(以上4ペア 県大会出場)

●女子ソフトテニス部

- ・東播地区春季大会
 

	団体	6位	
	個人	ベスト8	小南 千恵 日野原良美
		ベスト16	小松 純子 松本紗也可

(団体・個人とも県大会出場)
- ・東播地区高等学校秋季新人ソフトテニス大会
 

	団体	5位	(県大会出場)
	個人	ベスト20	森田・中元 津留・小山

(県大会出場)

●柔道部

- ・東播地区大会
 

	男子個人	3位	宮前 大地
--	------	----	-------
- ・県大会
 

	男子団体	ベスト5	
--	------	------	--

●剣道部

- ・東播地区大会
 

	団体	準優勝	
	男子個人2年の部	優勝	吉川 堅介
		準優勝	東内 達哉
	男子個人1年の部	準優勝	保木井昌之
- ・東播高等学校新人剣道大会
 

	男子団体	3位	
	女子団体	ベスト8	
	男子個人	準優勝	東内 達哉
		ベスト16	八木 啓介
		ベスト16	吉川 堅介

(以上3名県大会出場)

●男子卓球部

- ・県総体
 

	団体	ベスト32	
--	----	-------	--
- ・秋季東播総合体育大会
 

	団体		(県大会出場)
	ダブルス	3位	梅原 浩志 上田 浩司

(県大会出場)

●女子卓球部

- ・秋季東播総合体育大会
 

	ダブルス		大山 友子 吉賀 美緒
--	------	--	----------------

(県大会出場)

●男子バスケットボール部

- ・県総体
 

		ベスト16	
--	--	-------	--
- ・全国選抜大会東播予選
 

		3位	
--	--	----	--
- ・全国選抜県予選東播総体
 

		ベスト8	
--	--	------	--

●女子バスケットボール部

- ・東播高等学校総合体育大会
 

		ベスト8	
--	--	------	--

●野球部

- ・東播地区B地区大会
 

		優勝	
--	--	----	--
- ・県大会
 

		ベスト16	
--	--	-------	--

●陸上競技部

- ・東播地区大会
 

	〈男子〉	800m	優勝	加古 穂高
		1500m	優勝	加古 穂高
		砲丸投	優勝	新見 秀明
		円盤投	優勝	上田 雄太
	〈女子〉	100m	優勝	黒田久美子
		200m	2位	黒田久美子
		400m	優勝	黒田久美子
- ・県大会
 

	〈男子〉	800m	2位	加古 穂高
		円盤投	2位	岩本 昌也
			5位	上田 雄太
	〈女子〉	100m	2位	黒田久美子
		200m	4位	黒田久美子
		400m	5位	黒田久美子
		円盤投	6位	青山 聡子

(以上近畿大会出場)
- ・近畿大会
 

	女子200m	5位	黒田久美子
--	--------	----	-------

(全国大会出場)
- ・全国高校陸上
 

	女子200m予選	3位	黒田久美子
--	----------	----	-------
- ・県ジュニア陸上
 

	1年男子	三段跳	3位	宮本 卓朗
	2年男子	800m	2位	加古 穂高
	2年男子	1500m	優勝	加古 穂高

- 2年男子 砲丸投 優勝 新見 秀明
- ・東播高等学校総合体育大会
- 1年男子 400m 3位 藤本 大介  
3000m S C 大谷 國喜
- 2年男子 800m 優勝 加古 穂高  
1500m 優勝 加古 穂高  
3000m S C 3位 岩井 芳憲  
砲丸投 優勝 新見 秀明  
円盤投 優勝 上田 雄太  
ハンマー投 3位 新見 秀明
- 2年女子 800m 3位 舩賀 由依  
砲丸投 優勝 青山 聡子  
円盤投 優勝 青山 聡子
- 男子バドミントン部
- ・東播地区予選
- シングルス ベスト16 迎山 知裕  
ベスト16 中浜 明敏  
ダブルス 準優勝 迎山 知裕  
中浜 明敏  
ベスト16 甘利 大紀  
山村 佑介
- ・県総体 団体 5位  
ダブルス ベスト16 迎山 知裕  
中浜 明敏
- ・兵庫県高等学校新人バドミントン選手権大会東播地区予選
- ダブルス 3位 中浜 明敏  
甘利 大紀  
シングルス 3位 中浜 明敏  
(以上県大会出場)
- ・県高等学校新人バドミントン選手権大会東播地区予選
- 団体 ベスト8
- 女子バドミントン部
- ・東播地区予選
- 団体 3位
- ・県総体 団体 5位
- ・東播地区新人バドミントン選手権大会
- ダブルス ベスト16 西田 真美  
坂本 美希  
ベスト16 西埜 智恵  
舟橋枝里子  
ベスト16 竹原 麻紀  
磯口 友希  
ベスト16 砂川 博美  
塚脇 仁美
- サッカー部
- ・東播夏季リーグ戦(1部) 優勝

- ・東播高等学校総合体育大会 3位
- 水泳部
- ・東播高等学校総体水泳大会
- 男子総合 1位
- 男子100m自由形 2位 信清 勇人  
男子200m自由形 1位 横田 喜秀  
男子400m自由形 2位 信清 勇人  
男子200m個人メドレー 3位 永見 涼人  
男子400mメドレーリレー 1位 永見 涼人  
横田 喜秀  
信清 勇人  
砂川 和輝
- 男子400mリレー 1位 永見 涼人  
砂川 和輝  
横田 喜秀  
信清 勇人
- ・兵庫県高等学校ジュニア選手権水泳競技大会
- 男子400mリレー 8位 永見 涼人  
横田 喜秀  
脇畑 行博  
信清 勇人  
横田 喜秀  
信清 勇人
- 男子100m自由形 8位 横田 喜秀  
男子100m自由形 4位 信清 勇人

## 文化部

- 吹奏楽部
- ・兵庫県吹奏楽祭兼コンクール東播地区予選
- 金賞 (県大会出場)  
銀賞
- ・兵庫県吹奏楽祭兼コンクール 銀賞
- ・東播地区アンサンブルコンテスト
- サクソフォーン4重奏 金賞  
クラリネット7重奏 銀賞  
トロンボーン4重奏 銀賞
- ・県アンサンブルコンテスト
- サクソフォーン4重奏 銅賞
- 書道部
- ・兵庫県高等学校総合文化祭
- 近畿総文推薦賞 鴨 好美  
(近畿総合文化祭出品)  
選抜賞 足立菜里絵  
選抜賞 白井 陽子
- 邦楽部
- ・県邦楽コンクール 銀賞
- 演劇部
- ・高校演劇東播地区大会 最優秀賞  
・高校演劇県大会 優良賞

●写真部

・近畿高等学校総合文化祭

奨励賞 藤本 綾

●アマチュア無線部

・ALL J Aコンテスト 関西地区第1位

(以上近畿大会出場)

・近畿インドア大会

個人

2回戦進出 久保 祥平

波多野祐貴

1回戦敗退

日浦 瑞貴

古谷 嘉宏

平成15年度

運動部

●男子ソフトテニス部

・東播地区春季大会

団体

優勝 (県大会出場)

個人

優勝 古山 健男

菊島 宏太

ベスト16 熊代 良也

新留 弘之

ベスト16 日浦 瑞貴

古谷 嘉宏

ベスト20 内田 和久

高田 雅人

(以上県大会出場)

・県総体 団体

ベスト12(近畿大会出場)

個人

ベスト32 日浦 瑞貴

古谷 嘉宏

・近畿大会 団体

ベスト32

・兵庫県県民大会少年の部

個人

ベスト32 黒田 一慶

佃 健太郎

・東播地区秋季新人大会

団体

3位 (県大会出場)

個人

優勝 日浦 瑞貴

古谷 嘉宏

3位 黒田 一慶

佃 健一郎

5位 久保 洋平

波多野祐貴

9位 赤松 春彦

宮本 直登

9位 松島 聡也

廣瀬 俊輔

(以上県大会出場)

・県新人中央大会

個人

9位 日浦 瑞貴

古谷 嘉宏

9位 久保 洋平

波多野祐貴

●女子ソフトテニス部

・東播地区春季大会

個人

9位 (県大会出場得)

・県総体 団体

ベスト16

●男子バレーボール部

・東播夏季大会

ベスト8

・東播新人大会

6位 (県大会出場)

・選抜大会東播予選

(県大会出場)

●剣道部

・東播春季大会

男子団体

3位

男子個人3年の部

優勝 東内 達哉

3位 砂川 大輔

女子個人2年の部

準優勝 奥本 篤子

・県大会 男子個人

3位 八木 啓介

男子個人

ベスト16 吉川 堅介

・県新人大会 男子団体出場

女子団体出場

●男子バスケットボール部

・県総体

ベスト16

・県民大会東播地区予選

5位

・東播大会

準優勝

・新人選抜大会東播予選

(県大会出場)

●女子バスケットボール部

・県総体

ベスト32

・県民大会東播地区予選

3位

・新人選抜大会東播予選

(県大会出場)

●女子卓球部

・春季東播大会

団体

ベスト8 (県大会出場)

シングルス

大山 友子

(県大会出場)

ダブルス

大山・吉賀

今津・宗重

(以上2組県大会出場)

・東播秋季大会

団体

3位 (県大会出場)

ダブルス

今津 掬

宗重 佳子

(県大会出場)

●男子卓球部

・国体東播地区予選会  
 シングルス 上田 浩司  
 澤井 佑規  
 塚原 備亮  
 (以上県大会出場)

・全日本卓球選手権大会県予選  
 シングルス 6回戦進出 塚原 備亮  
 6回戦進出 上山 遼介

・東播秋季大会  
 団体 (県大会出場)  
 シングルス 塚原 備亮  
 (県大会出場)

●陸上競技部

・東播大会  
 〈男子〉 800m 優勝 加古 穂高  
 1500m 2位 加古 穂高  
 3000m S C 3位 日坂 充宏  
 三段跳 3位 宮本 卓朗  
 砲丸投 2位 新見 秀明  
 円盤投 優勝 上田 雄太

・県総体  
 〈男子〉 800m 2位 加古 穂高  
 1500m 2位 加古 穂高  
 砲丸投 2位 新見 秀明  
 円盤投 4位 上田 雄太  
 〈女子〉 円盤投 6位 青山 聡子

・全国大会近畿地区予選会  
 〈男子〉 1500m 5位 加古 穂高  
 (全国大会出場)  
 800m 8位 加古 穂高  
 〈女子〉 円盤投 8位 青山 聡子

・県ジュニア陸上東播地区予選会  
 〈男子〉 3000m S C 優勝 日坂 充宏  
 4×100m 2位 鈴木・瀬戸  
 藤枝・奥村  
 4×400m 3位 藤枝・鈴木  
 奥村・栗田  
 走高跳 優勝 瀬戸 範彦  
 走高跳 3位 藤永 亮平  
 三段跳 優勝 藤永 亮平  
 三段跳 優勝 宮本 卓朗  
 砲丸投 3位 藤原 直彦  
 砲丸投 2位 有吉 主税  
 円盤投 3位 藤原 直彦  
 やり投 2位 有吉 主税

〈女子〉 1500m 3位 大西 聡美  
 100m H 優勝 谷口 依里

・県ジュニア陸上  
 〈男子〉 3000m S C 5位 日坂 充宏  
 棒高跳 5位 福田 貴則  
 三段跳 4位 藤永 亮平  
 走高跳 4位 瀬戸 範彦

・東播駅伝大会  
 男子 5位  
 女子 4位

・県駅伝大会 男子 16位  
 女子 9位

●男子バドミントン部

・東播大会 シングルス 優勝 中浜 明敏  
 ダブルス 優勝 中浜・殿界

・県総体 団体 ベスト8

・新人大会東播地区大会  
 ダブルス ベスト8  
 ダブルス ベスト8 竹内 晴規  
 竹内 智規  
 (以上県大会出場)

・県大会第9代表 穴田 智史  
 シングルス 県大会第11代表 大西 貴也

・東播大会 団体 3位

・県新人選手権大会  
 団体 4位

・東播冬季大会  
 シングルス 準々決勝進出  
 穴田 智史  
 松田 慎佑

●女子バドミントン部

・東播大会 シングルス ベスト8 西埜 智恵  
 ベスト8 砂川 博美  
 (県大会出場)

・新人大会東播地区大会  
 シングルス ベスト8 磯口 友希  
 (県大会出場)

・東播大会 団体 3位

●サッカー部

・東播春季リーグ戦(1部) 2敗1分け  
 ・東播新人大会 3位

●水泳部

・東播体育大会  
 男子総合 4位  
 男子400mメドレーリレー 2位 永見・藤浪  
 信清・脇畑

男子400mリレー 3位	永見・脇畑 藤浪・信清
男子100m自由形 1位	信清 勇人
男子200m自由形 2位	信清 勇人
男子100m背泳ぎ 1位	永見 涼人
男子200m個人メドレー 1位	藤波 好寿
女子100m背泳ぎ 1位	溝内 香里
・ 県ジュニア選手権大会	
1年男子100m背泳ぎ 7位	藤浪 好寿
2年男子100m自由形 5位	信清 勇人

### 文化部

- 吹奏楽部
  - ・ 県吹奏楽コンクール東播地区大会
    - 高等学校A部門 金賞
    - 高等学校B部門 金賞
  - ・ 県吹奏楽コンクール
    - 高等学校A部門 銀賞
  - ・ 東播アンサンブルコンテスト
    - サクソフォン4重奏 金賞
    - 打楽器7重奏 銀賞
    - 木管4重奏 銀賞
- 演劇部
  - ・ 東播支部大会 優秀賞
- 書道部
  - ・ 県総合文化祭 優秀校賞
    - 選抜賞 鴨 好美
  - ・ 近畿総合文化祭 文化連盟賞 鴨 好美
- 邦楽部
  - ・ 県邦楽コンクール 参加
- 放送部
  - ・ 県総合文化祭放送文化部門
    - アナウンス小部門 銅賞 藤原 美幸
- E S S 部
  - ・ 東播スピーチコンテスト 3位 森田 寛子

## 平成16年度

### 運動部

- 男子ソフトテニス部
  - ・ 東播地区春季大会
    - 団体 3位 (県大会出場)
    - 個人 ベスト8 久保 洋平  
波多野祐貴  
ベスト16 日浦 瑞貴  
古谷 嘉宏

- ・ 県総体 団体 ベスト16 赤松 春彦  
宮本 直登
- 個人 ベスト16 石上 剛  
東根 裕
- ベスト20 黒田 一慶  
佃 健太郎
- ベスト20 松島 聡也  
廣瀬 俊輔  
(以上県大会出場)
- ・ 近畿大会出場
  - ベスト8 (近畿大会出場)
  - ベスト16 日浦 瑞貴  
古谷 嘉宏  
(近畿大会出場)

- ・ 兵庫県県民大会
  - 個人 ベスト16 日浦 瑞貴  
建部 哲也
- ・ 東播地区高等学校秋季新人ソフトテニス大会
  - 団体 優勝 (県大会出場)
  - 個人 準優勝 久保 洋平  
波多野祐貴
  - ベスト8 宮永 晃  
建部 哲也
  - ベスト16 藤原 健悟  
丸尾 敦紀
  - ベスト16 日野原弘幸  
田中健太郎  
(以上県大会出場)

- 女子ソフトテニス部
  - ・ 東播地区高等学校秋季新人ソフトテニス大会
    - 個人 ベスト16 山本 麻実  
三浦由紀子  
(県大会出場)

- 男子バレーボール部
  - ・ 県高等学校新人大会東播予選大会 (県大会出場)

- 女子バレーボール部
  - ・ 選抜優勝大会東播予選 ベスト4 (県大会出場)

- 柔道部
  - ・ 東播大会 (秋季)
    - 男子団体 ベスト16 (県大会出場)
    - 男子個人60kg級 ベスト8 黒澤 卓矢
    - 男子個73kg級 2位 前田廉太郎
    - 男子個人100kg級 ベスト8 岡田 友尊  
(以上県大会出場)
    - 女子個人56kg級 2位 中安 唯
  - ・ 県新人大会 男子個人73kg級 ベスト8 前田廉太郎
- 剣道部

・兵庫県新人剣道大会東播予選		3000m	3位	大西 聡美	
男子団体	3位	やり投	3位	山口 佳那	
・兵庫県新人剣道大会					・東総体
女子団体	5位				〈男子〉 三段跳
					3位 宮本 卓朗
					(近畿大会出場)
●男子卓球部					
・総体東播予選					・全国大会近畿地区予選会
学校対抗	(県大会出場)				〈男子〉 三段跳
シングルス	塚原 備亮				7位 宮本 卓朗
	(県大会出場)				・東播ジュニア
		1年男子	400m	優勝	藤田 拓
・国体東播地区予選			800m	2位	浅田 真吾
シングルス	秋田、佐々木、坂下		110m H	優勝	上田 将吾
	(県大会出場)		4×100m	2位	岡村・辰巳
					稲岡・上田
・全日本卓球選手権大会県予選		2年男子	3000m S C	3位	日坂 充宏
シングルス	秋田 大地		4×100m	優勝	栗田・瀬戸
	(県大会出場)				藤枝・藤原
・秋季東播総合体育大会					
学校対抗	(県大会出場)		走高跳	2位	瀬戸 範彦
ダブルス	佐々木・坂下		走幅跳	3位	藤永 亮平
	秋田・境		三段跳	優勝	藤永 亮平
	(以上県大会出場)			2位	瀬戸 範彦
		1年女子	やり投	3位	橋本 夏実
●女子卓球部		2年女子	1500m	優勝	大西 聡美
・総体東播予選			100m H	優勝	谷口 依里
学校対抗	(県大会出場)				・県ジュニア陸上
ダブルス	重宗 佳子	1年男子	110m H	優勝	上田 将吾
	菅野 絢子				(近畿大会出場)
	(県大会出場)	2年女子	3000m	2位	大西 聡美
・国体東播地区予選					(近畿大会出場)
シングルス	永安・福田				・東播高等学校総合体育大会
	(県大会出場)	〈男子〉	男子総合	2位	
・秋季東播総合体育大会			3000m S C	優勝	平岡幸一郎
ダブルス	永安・福田	〈女子〉	1500m	優勝	大西 聡美
	(県大会出場)		3000m	優勝	大西 聡美
シングルス	永安				・近畿高校ジュニア陸上
	(県大会出場)	1年男子	110m H	2位	上田 将吾
●男子バスケットボール部		2年女子	3000m	7位	大西 聡美
・兵庫県高等学校新人バスケットボール選抜優勝大会					・東播駅伝大会
東播予選	(県大会出場)	〈男子〉		4位	(県大会出場)
●女子バスケットボール部					・県駅伝大会
・兵庫県高等学校新人バスケットボール選抜優勝大会		〈男子〉		13位	
東播予選	ベスト8				●男子バドミントン部
	(県大会出場)				・総体東播予選
●陸上競技部					団体
・東播大会					3位
〈男子〉	800m	3位	石井 芳宏		ダブルス
	三段跳	3位	宮本 卓朗		2位
	1500m	2位	大西 聡美		3位
〈女子〉					4位
					穴田・西村
					竹内と・竹内は
					松田・大西

			(以上県大会出場)
	シングルス	4位 穴田 智史	
		5位 松田 亮太	
			(以上県大会出場)
・県総体	団体	3位	
	ダブルス	ベスト16 松田・大西	
・東播地区新人大会			
	ダブルス	3位 松田・大西	
		4位 竹内 <sup>と</sup> ・竹内 <sup>は</sup>	
			(以上県大会出場)
	シングルス	8位 松田 亮太	
		8位 大西 貴也	
			(以上県大会出場)
・東播総体	団体	準優勝 (県大会出場)	
・県新人大会	団体	準優勝	
	ダブルス	ベスト12 松田・大西	
			(近畿大会出場)
	シングルス	ベスト12 松田 亮太	
			(近畿大会出場)
・東播地区冬季大会			
	シングルス	3位 松田 亮太	
●女子バドミントン部			
・総体東播予選			
	団体	3位 (県大会出場)	
	シングルス	ベスト8 磯口 友希	
			(県大会出場)
・新人大会東播地区大会			
	ダブルス	2位 九十九・塚本	
		3位 藤本・平野	
		8位 川染・山口	
			(以上県大会出場)
	シングルス	3位 平野 菜穂	
		8位 塚本 恵巳	
		8位 山口 希望	
		10位 川染 優衣	
			(以上県大会出場)
・東播総体	団体	優勝 (県大会出場)	
・県新人大会			
	団体	5位	
	ダブルス	ベスト16 九十九・塚本	
・東播地区冬季大会			
	シングルス	4位 藤本 恵	
●水泳部			
・県高校総体			
	男子200m個人対レー	7位 藤波 好寿	
			(近畿大会出場)

・東播体育大会

男子200m個人対レー	1位 藤波 好寿
男子200m背泳ぎ	2位 藤波 好寿

文化部

●演劇部

・兵庫県高等学校演劇研究会東播支部大会

演劇部門	優秀賞
創作脚本部門	最優秀賞

●書道部

・兵庫県高等学校総合文化祭

近畿高等学校推薦賞	砂川 航一
	(近畿総合文化祭へ出品)

・日本学書展

特選	金丸 亜矢
特選	川村 一代

●合唱部

・兵庫県高等学校総合文化祭 奨励賞

●吹奏楽部

・兵庫県吹奏楽コンクール東播地区大会

A部門	金賞 (県大会出場)
B部門	金賞

・兵庫県吹奏楽コンクール

A部門	銀賞
-----	----

・兵庫県アンサンブルコンテスト東播地区大会

フルート4重奏	金賞
クラリネット8重奏	金賞
サクソフォーン6重奏	金賞(以上県大会出場)

・兵庫県アンサンブルコンテスト

フルート4重奏	銀賞
クラリネット8重奏	金賞
サクソフォーン6重奏	銀賞

●放送部

・県大会第4地区予選

アナウンス部門	佳作 藤原 美幸
---------	----------

・兵庫県高等学校総合文化祭予選

アナウンス部門	藤原 美幸
朗読部門	山田茉衣子
	(以上県大会出場)

# 育友会・PTA小史

昭和22年4月 父母と先生の会結成。主として旅費補助を行った。当時の記録によると、谷沢教諭明石出張旅費43円、会員香料50円等がある。

昭和23年7月19日 東西両校への交流再編成のため父母の会は解消。加古川東高校育友会編成、総会を開き、会則決定、役員選出。会長中川寅次郎、会費月額150円。

昭和24年5月11日 会長中川寅次郎、藤原留治教諭の尽力により、昭和24年～33年の10年間、東高名物となった大阪文楽座をまねいた。桐竹紋十郎、豊竹若太夫、野沢喜右衛門等、人間国宝となり、いずれも亡くなられた方々が来演、空前の盛況であった。収益は各科、特に家庭科の備品の充実にあてた。

昭和24年10月28日 開校25周年記念祝典を行った。総費用196,258円。記念音楽会に笹田和子（ソプラノ）、伊達三郎（チェロ）、神沢哲郎（ピアノ）来演。スクールくじ、50万円、本校に割当て依頼あり、完全に消化した。

昭和25年5月 会長 平郡 清

昭和26年6月 会長 平郡 清

昭和27年5月 会長 竹中光治

育友会費150円、生徒会費80円、図書費35円、体保費10円、学習費25円、新聞費10円、同窓会費20円、計330円。

昭和28年5月 会長 竹中光治

昭和29年5月 会長 竹中光治

11月 体育後援会発足、会費月額30円。

昭和30年5月 会長 竹中光治

昭和31年5月 会長 大西為助

球技場にあたる部分の校地拡張のため、新入会員より施設充実費1,500円徴収。

昭和32年5月 会長 大西為助

昭和33年5月 会長 大西為助

施設充実費新入会員より2,500円、育友会費月額200円。

昭和34年5月 会長 大西為助

運動場拡張決定 校地3,000坪。

昭和35年5月 会長 大西為助

昭和36年5月 会長 木村 泰

会費200円、学習費40円、図書費50円、体保費10円、体育後援会費30円、施設充実費、新入会員より

1,500円、校舎改善費、新入会員より1,000円。

昭和37年5月 会長 木村 泰

昭和38年5月 会長 中崎邦夫

昭和39年5月 会長 中崎邦夫

開校40周年記念式典、記念誌発行等、総費637,625円。

昭和40年5月 会長 中崎邦夫

昭和41年5月 会長 中崎邦夫

昭和42年5月 会長 酒見真暁

校地東側の土地買収を進める事に決定。

昭和43年5月 会長 酒見真暁

学校設備充実資金徴収を廃止する。

昭和44年5月 会長 丸山重夫

会費月額300円、生徒会費150円、野外活動費50円、育友会入会費2,000円、クラブ活動費30円。

昭和45年3月 父兄負担の軽減について全県的な運動が起こり、同時に大学紛争が高校にも拡がる様相をみせてきた。

昭和45年5月 会長 松野雄次

昭和46年4月 会長 稲田 勇

公費負担に当たる分を切り捨てることにより、会費月額100円とし、図書費、学習費、クラブ活動費、入会金、設備充実費、野外活動費等一切廃止した46年度事業として、会員名簿、進路の手引の発行を育友会に移管、地区懇談会、芸術鑑賞会を行った。地区懇談会は、開催地19地区、出席者は全会員の80%に達した。東側の校地買収が4年がかりで終わる。

昭和47年4月 会長 田中繁雄

同窓会館建設にあたり、清流会と共に活動した。

昭和48年4月 会長 大村武雄

会費月額150円に値上げ。

昭和49年4月 会長 竹内 弘

6月 創立50周年記念式典挙行 記念講演

「世界の中の日本の青年」関西学院大学教授田中国夫氏

道場開き 清流館2階の格技場、

慰霊祭 平野“龍泉寺”で旧職員、

卒業生の遺族多数参列。

昭和50年4月 会長 前島 博

会費月額3,000円とする。

昭和51年4月 会長 前島 博

- 9月 水害被災会員を見舞う。
- 昭和52年4月 会長 坪内 敬
- 昭和53年4月 会長 増井 力
- 昭和54年4月 会長 大西迅平
- 5月 育友会功労者表彰
- 昭和55年4月 会長 増井 力
- 9月 座右銘発行
- 9月 県立山崎高校育友会と協議会
- 10月 講演会「青年期の心理」神戸大学教  
授 関 岫 一氏
- 昭和56年4月 会長 籠谷幸夫
- 5月 育友会功労者表彰
- 7月 育友会報創刊号発行
- 11月 研修旅行（閑谷学校他）
- 12月 講演会「心とからだ」加古川市民病  
院長 赤沢淳平氏
- 昭和57年1月 育友会報2号発行
- 4月 会長 釜谷研造 育友会規約一部改  
正
- 5月 育友会功労者表彰
- 7月 育友会報3号発行
- 10月 講演会「体力づくりの基礎」神鋼病  
院 松本越生氏
- 11月 研修旅行（白鹿酒造、民族学博物館）
- 昭和58年2月 育友会報4号発行
- 4月 会長 西海郁雄
- 5月 育友会功労者表彰
- 7月 育友会報5号発行
- 8月 前育友会会長釜谷研造、高等学校P  
T A活動振興貢献者として文部大臣  
表彰を受ける。
- 11月 研修旅行（法隆寺、新薬師寺）
- 12月 講演会「60年入試の対策」河合塾  
丹羽健夫氏
- 昭和59年2月 育友会報6号発行
- 5月 会長 釜谷研造
- 6月 創立60周年記念式典挙  
行  
記念彫塑 東村正久氏  
記念講演 稲井好廣氏  
記念誌発行
- 7月 育友会報7号発行
- 11月 研修旅行（田崎真珠、松下記念館）
- 昭和60年2月 育友会報8号発行
- 5月 会長 釜谷研造
- 7月 育友会報9号発行
- 11月 研修旅行（宇治平等院、万福寺方面）
- 昭和61年2月 育友会報10号発行
- 5月 会長 杉原延享
- 7月 育友会報11号発行
- 7月 県立加古川東高校育友会OB会「東  
友会」発足
- 10月 研修旅行（キューピーマヨネーズ  
立杭焼）
- 昭和62年2月 育友会報12号発行
- 5月 会長 西川隆雄
- 7月 育友会報13号発行
- 10月 研修旅行（瀬戸大橋、竹久夢二郷土  
美術館）
- 昭和63年2月 育友会報14号発行
- 5月 会長 十倉茂明
- 6月 研修旅行（ホロンピア'88）
- 7月 育友会報15号発行
- 平成元年2月 育友会報16号発行
- 5月 会長 山崎光夫
- 7月 育友会報17号発行
- 10月 研修旅行（石山寺、琵琶湖博物館）
- 平成2年2月 育友会報18号発行
- 5月 会長 今津秀人
- 7月 育友会報19号発行
- 9月 同和教育講演会 田中蔚氏
- 10月 研修旅行（大学見学、ルミナス神戸、  
須磨水族園）
- 平成3年2月 育友会報20号発行
- 5月 会長 今津秀人
- 7月 育友会報21号発行
- 10月 研修旅行（友禅会館、立命館大学、  
金閣寺、北野天満宮）
- 平成4年2月 育友会報22号発行
- 5月 会長 原 享也
- 7月 登校指導 育友会本部役員、生徒指  
導委員会、先生
- 7月 育友会報23号発行
- 9月 登校指導
- 11月 研修旅行（RSKバラ園、高松最上

	稲荷、吉備津神社、岡山大学)		育友会報32号発行
12月	登校指導	5月	会長 北条雅紀
平成5年2月	登校指導		進路講演会 学習研究社 釜田収年氏
2月	育友会報24号発行	7月	育友会報33号発行
5月	会長 大庫俊介	9月	登校指導
7月	登校指導	10月	研修親睦旅行(神戸大学、大阪城、大阪ドーム)
7月	育友会報25号発行		進路講演会 名古屋工業大学 山本幸司氏
	「安全な登下校」啓蒙文発行		
10月	研修旅行(天の橋立、宮津エネルギー研究所)	11月	登校指導
平成6年2月	育友会報26号発行	平成10年2月	学校保健委員会
5月	会長 大庫俊介		育友会報34号発行
	進路講演会 釜田収年氏	5月	会長 小林泰造
6月	創立70周年記念式典挙行		進路講演会 コロンビア学院 平郡修氏
	モニュメント「曙光(円環の門)」	7月	育友会報35号発行
	中川猛氏	9月	登校指導
	記念講演会 魚住武司氏		研修親睦旅行(神戸商船大学、大鳴門橋記念館、福良港)
	記念誌発行	10月	進路講演会 大阪大学 松浦成昭氏
7月	育友会報27号発行	11月	登校指導
10月	研修旅行(関西学院大学、関西国際空港)	平成11年2月	学校保健委員会
	進路講演会 福武書店 篠崎真孝氏		育友会報36号発行
12月	登校指導	5月	会長 金川裕
平成7年2月	育友会報28号発行		進路講演会 旺文社 大塚憲一氏
5月	会長 多田勝義	7月	育友会報37号発行
	進路講演会 若杉忠男氏	9月	登校指導
7月	育友会報29号発行		研修親睦旅行(岡山大学、倉敷河畔散策、岡山サッポロワイナリー)
9月	登校指導	10月	進路講演会 国立極地研究所 森本真司氏
10月	研修旅行(関西大学、ミルフィード乗船)		
	進路講演会	11月	登校指導
12月	学校保健委員会	平成12年2月	学校保健委員会
平成8年2月	育友会報30号発行		育友会報38号発行
5月	会長 藤原 崇	5月	会長 北面和則
	進路講演会 河合塾 日比野勝氏		進路講演会 駿台予備学校 屋木達信氏
7月	育友会報31号発行	7月	育友会報39号発行
9月	登校指導	9月	登校指導
10月	研修親睦旅行(同志社大学、太秦映画村、キリンビール)		研修親睦旅行(立命館大学草津キャンパス、石山寺、滋賀県立淡水博物館)
	進路講演会		
11月	登校指導		
平成9年2月	学校保健委員会		

- |          |   |          |   |
|----------|---|----------|---|
|          | 館)  | 平成16年 1月 | 学校評議員会 P T C S 会議                       |
| 10月      | 進路講演会 A M神戸パーソナリ<br>ティー 谷五郎氏  | 2月       | 学校保健委員会<br>P T A 会報 「From East」46号発行    |
| 11月      | 登校指導  | 5月       | P T A 会長 田中和幸<br>進路講演会 駿台予備学校 吉田知<br>史氏 |
| 平成13年 2月 | 学校保健委員会<br>育友会報40号発行  | 6月       | 登校指導                                    |
| 5月       | 会長 宮宅勇二<br>進路講演会 ベネッセ 百々缶夫氏   | 7月       | 学校評議員会 P T C S 会議                       |
| 7月       | 育友会報41号発行   | 9月       | P T A 会報 「From East」47号発行               |
| 9月       | 登校指導<br>研修親睦旅行 (関西学院大学三田<br>キャンパス、宝塚市立手塚治虫記念<br>館、県立人と自然の博物館)       | 10月      | 創立80周年記念式典挙行                            |
| 10月      | 進路講演会 アシックス 三村仁司<br>氏   |          |   |
| 11月      | 登校指導  |          |   |
| 平成14年 2年 | 学校保健委員会<br>育友会報42号発行  |          |   |
| 5月       | 総会にて P T A に改称<br>P T A 会長 樋口裕昭<br>進路講演会 駿台予備学校 屋木達<br>信氏           |          |   |
| 7月       | 登校指導  |          |   |
| 9月       | P T A 会報 「From East」43号発行   |          |   |
| 10月      | 研修親睦旅行 (同志社大学、京都大<br>学、銀閣寺、哲学の道)<br>人権講演会 大阪府立大学 朴一氏                |          |   |
| 11月      | 登校指導  |          |   |
| 12月      | 加古川東校 P T C S 会議  |          |   |
| 平成15年 2月 | 学校保健委員会<br>P T A 会報 「From East」44号発行                                |          |   |
| 5月       | P T A 会長 松尾一久<br>P T A 会費が15年度より6,000円/<br>年となる。<br>進路講演会 河合塾 土居一郎氏 |          |   |
| 6月       | 登校指導  |          |   |
| 7月       | 学校評議員会 P T C S 会議   |          |   |
| 9月       | P T A 会報 「From East」45号発行   |          |   |
| 10月      | 研修親睦旅行 (神戸大学、ルミナス<br>神戸、六甲ガーデンテラス)<br>人権講演会 岡崎勢子氏                   |          |   |
| 11月      | 登校指導  |          |   |

# 清流会略史

昭和4年3月4日 第1回卒業生によって兵庫県立加古川中学校同窓会則を制定。

昭和4年8月第1日曜日 同窓会第1回総会を旧加古川中学校講堂で開催。当時の岩村寅之助校長を会長、三浦林平教頭を副会長として同窓会が発足した。

当日は第1回卒業生のうち約50名が出席し、他に2回生は5年生として在学中であったが、4年修了で旧制高校に進まれた槽谷正一氏が出席された。広い講堂に50数名の出席者でラムネとアンパンが出されたガラんとしたものであったという。

当時の同窓会費は在校中に月額10銭を授業料とともに納入。4年終了で上級学校に進学した準卒業生には、1年分1円20銭を追加徴収したそうである。

以来、母校内に同窓会事務所を置き、代々の校長・教頭が同窓会長・副会長となり、第1回卒業生の長谷川氏等や母校職員となっている同窓生が世話役となって運営された。昭和22年に初めて中1回の田中逸次氏が卒業生として会長となったのである。

なお会員相互の連絡機関として、母校校友会誌の末尾に卒業生名簿を附し会員通信等を掲載していたが、昭和11年より会員数1,000名を超えたのを機会に校友会誌から離れて同窓会誌として独立し、同窓会員相互の連絡親睦に大いに役割を果たしたのである。

その後太平洋戦争の激化につれて用紙不足となり、昭和16年に姿を消したまま終戦を迎えることとなった。

昭和6年 同窓会よりラッパ鼓隊の用具275円拠出。

昭和9年4月 創立10周年記念。御真影奉安殿建設のため同窓会より2,000円拠出。第1回卒業生花井秀次氏より校旗掲揚柱寄贈。

昭和16年頃 同窓会会計も戦時色を帯びて特別時局資金会計を設置し、同窓生の戦死者の供花料・香料・弔問費等を計上している。また同窓戦死者の慰霊祭を実施し、講堂に肖像を掲げる。

同窓会より母校永年勤続者に感謝状・記念品を贈る。

昭和22年頃 同窓会役員会で戦後の新時代にふさわしい同窓会ということになり、会則が変更され従

来の母校校長の会長制度を廃止、同窓生の中から会長が選出されることになった。また同窓会名も新しく清流会の名称が採用されることとなった。

昭和22年8月 田中逸次氏、会長に就任。

昭和23年4月 兵庫県立加古川高等女学校と折半交流。

昭和24年6月 創立25周年、中13回神沢哲郎氏講演。

昭和24年8月 小林茂氏、会長に就任。

昭和26年8月 北村明雄氏、会長に就任。

昭和28年8月 松本亮太郎氏、会長に就任。

昭和30年8月 酒見真暁氏、会長に就任。

昭和32年8月 沢田貞雄氏、会長に就任。

昭和34年8月 穴田等氏、会長に就任。

昭和36年8月 藤本寅二氏、会長に就任。

昭和39年6月 創立40周年、中15回田中国夫氏講演。母校へピアノ寄贈。

昭和44年8月 米谷修二氏、会長に就任

昭和46年8月 穴田等氏、会長に就任。

昭和49年6月 創立50周年記念、中15回田中国夫氏講演。

清流館完成。

昭和58年8月 長谷川末吉氏、会長に就任。

穴田等氏、名誉会長となる。

昭和59年6月 創立60周年記念、中1回稲井好広氏講演。記念彫塑「道標」中5回東村正久氏制作。

昭和62年8月 年会費徴収開始。

清流紙を全卒業生に送付。

昭和63年8月 総会会場を加古川プラザホテルへ。

総会「深めよう清流の絆を」

宮永豊司氏（高21回）講演。

アトラクションとして福引が登場。

平成元年1月 新年懇親会会場を加古川プラザホテルへ。

8月 総会「より強い清流の絆を」

広瀬敏郎氏（高18回）シャンソンコンサート。

会員美術小品展開催。

平成2年7月 創立65周年記念会員名簿発刊。

8月 総会「出会い、語らい清流の絆を」

吉田貞雄氏（高11回）講演。

平成3年2月 会員総数2万人を突破。2月末現在、

- 20,297名。
- 8月 総会「いい仲間、いい語らい清流の絆を」  
藤村匡人氏（高35回）、誉田由美子氏（高35回）、八百川敏幸氏（高36回）ジョイントコンサート。
- 平成4年8月 総会「久遠の光に輝く清流を」  
加古川フィルハーモニー〔青山哲也氏（高30回）、野村秀彦氏（高32回）、木戸真氏（高34回）、藤原勝博氏（高32回）他〕ミニコンサート。
- 平成5年8月 総会「清き流れいまここに」  
役員改選案を承認。  
姫田真佐久氏（中6回）講演。
- 平成6年6月 創立70周年記念式典、祝賀会。  
記念講演魚住武司氏（高9回）。  
記念彫塑「曙光円環の門」中川猛氏（高21回）制作。
- 8月 総会「羽ばたいて70年きらめく曙光」  
合唱団「東雲」演奏。
- 平成7年7月 創立70周年記念会員名簿発刊。
- 8月 総会「呼び起こそう！明日への清流」  
神吉賢一氏（高10回）講演。
- 平成8年8月 総会「若あゆ清流に遡り語り合う！」  
楠田修司氏（高13回）講演。
- 平成9年8月 総会。  
松本幸三氏（高12回）テノール公演。
- 平成10年8月 総会「会えば青春！清流の仲間」  
荻内勝之氏（高14回）講演。
- 平成11年8月 総会。  
旭堂南海〈内海浩明〉氏（高35回）  
講談。  
陸上競技部OBの「清流陸友会」発足。
- 平成12年7月 創立75周年記念会員名簿発行。
- 8月 総会。  
住田裕子氏（高22回）講演。
- 平成13年8月 総会「出会えば青春清流の仲間」  
清流竹の調、松風コーラス公演。  
札幌支部発足。
- 平成14年2月 第1回清流会新入会員と同窓会役員との懇談会開催。
- 8月 総会。  
北野泰成氏（高13回）講演。
- 9月 清流ゴルフ会第100回記念大会開催。
- 平成15年8月 総会「心ふるわす仲間、語らいの清流」  
富田猛志氏（高34回）他によるサックス公演。
- 平成16年8月 総会「年輪80年清流の出会い」  
谷五郎氏（高24回）講演。
- 10月 創立80周年記念式典、祝賀会。  
記念講演杉尾秀哉氏（高28回）。  
記念事業校旗新調、旧制中学校旗復元、会員美術展開催。
- 平成17年3月 創立80周年記念誌発行。

# 歴代校長



初代  
瓜生兵吉  
大正13年～15年



2代  
藤井慶乗  
大正15年～昭和4年



3代  
岩村寅之助  
昭和4年～9年



4代  
中井修一  
昭和9年～15年



5代  
松本従之  
昭和15年～21年



6代  
青山勇  
昭和21年～22年



7代  
亀岡寛治  
昭和22年～26年



8代  
清水敬治  
昭和26年～31年



9代  
川本猪三郎  
昭和31年～33年



10代  
井内喜久次  
昭和33年～38年



11代  
柴垣武夫  
昭和38年～41年



12代  
西村勇  
昭和41年～43年



13代  
山本教憲  
昭和43年～46年



14代  
嶋田幸雄  
昭和46年～49年



15代  
岩寄宗次郎  
昭和49年～51年



16代  
藤本晴保  
昭和51年～58年

KAKOGAWA HIGASHI  
High School  
80th Anniversary



17代  
竹 一 干 城  
昭和58年～61年



18代  
福 島 浩 之  
昭和61年～平成元年



19代  
田 野 勝 彦  
平成元年～3年



20代  
磯 重 美  
平成3年～6年



21代  
竹 内 暉 雄  
平成6年～7年



22代  
衣 川 清 馬  
平成7年～9年



23代  
岩 村 巖  
平成9年～12年



24代  
田 口 京 平  
平成12年～15年



25代  
中 野 直 行  
平成15年



26代  
田 寺 和 徳  
平成15年～



# 歴代生徒会役員

第1回(昭和23年)	永井 万介・高田 千春・佐藤由紀子	第30回(昭和51年)	前田 義弘・松岡 新・前野 充司
第2回(昭和24年)	荻野 直義・橋本 淳・前田 達子	第31回(昭和52年)	鈴木 利信・沼田 勝彦・織辺 貴士
第3回(昭和24年)	橋本 淳・岩井 一枝	第32回(昭和53年)	栗田 貴也・山本 真一・中西 俊朗
第4回(昭和25年)	高久 広雄・三浦 利子	第33回(昭和54年)	上山 実之・金平 孝司・新浜 大平
第5回(昭和26年)	竹内 正俊・中村 洋美	第34回(昭和55年)	井上 信一・梶本 昌彦・宮本 優子
第6回(昭和27年)	山室幸子・田中信明・坂田雅文・小柴文子	第35回(昭和56年)	小島 光博・福元 裕二・古沢 律子
第7回(昭和28年)	中川 潔・橋本喜久男・高久 文子	第36回(昭和57年)	穴田 卓司・木谷 英文・藤原英次郎
第8回(昭和29年)	前田 正・坂口 功・西島 文子	第37回(昭和58年)	森本 真司・今井 正臣・山本 智子
第9回(昭和30年)	田中 敏夫・三木 寿生・喜多 一美	第38回(昭和59年)	三好 太郎・青木 文恵・綿谷 淳
第10回(昭和31年)	高久 重剛・山本 皓二・井沢 艶子	第39回(昭和60年)	野村 真紀・梶原 慶・長永 育子
第11回(昭和32年)	大杉 光謙・糟谷 正彦・山本 純子	第40回(昭和61年)	榊原 一磨・中谷 康孝・嶋崎 浩二
第12回(昭和33年)	平郡 寧洋・宮田美津子・福原 暉子	第41回(昭和62年)	田中 美妃・田原 大輔・岡野 健治
第13回(昭和34年)	北浦 孝雄・曾爾 彊・喜多扶佐子	第42回(昭和63年)	生田 聡・今井甲二郎・三崎 史子
第14回(昭和35年)	小原 武・平本 勝章・井上 貴子	第43回(平成元年)	小山 直人・寺内美由紀・佐々木大祐
第15回(昭和36年)	河井 隆博・三浦 武・中作 文子	第44回(平成2年)	三枝 剛・岡本 直弘・田中さおり
第16回(昭和37年)	沢田 猛・橋 新子・遠藤 順子	第45回(平成3年)	前田 晴子・大西 達人・塩田 修
第17回(昭和38年)	五十嵐裕治・三宅 英璋・佃 隆子	第46回(平成4年)	木下 直俊・吉田 智幸・杉谷 美佳
第18回(昭和39年)	坂田 月代・入江 隆彦・神吉 和子	第47回(平成5年)	大上 岳彦・渡部 智寛・近衛 秀栄
第19回(昭和40年)	糟谷 豊・宮永 光一・上月 昭信	第48回(平成6年)	新富 圭史・澤江亜希子・松尾 恵女
第20回(昭和41年)	曾根 善子・前川 信博・足立 光平	第49回(平成7年)	平 若奈・恒木健太郎・河野 知子
第21回(昭和42年)	志野木武夫・吉政 孝明・藤本 和平	第50回(平成8年)	福田 寛也・川田 祐也・服部 美希
第22回(昭和43年)	樽井由紀夫・木沢 誠名・東村 泰美	第51回(平成9年)	中道麻由子・岸田 憲・橋本 雅史
第23回(昭和44年)	畑 稚成・中田哲也・山本峰久・荒井 恵	第52回(平成10年)	増田 寛子・恒松あゆみ・藤本 正伸
第24回(昭和45年)	矢野 宗司・田城 一也・浜野 守雄	第53回(平成11年)	中山 智裕・中井 彬人・山本奈穂子
第25回(昭和46年)	福田 薫・田頭 秀雄・井口 佳夫	第54回(平成12年)	山根 原野・阿邊山康太・竹田 理恵
第26回(昭和47年)	崎村 真・滝川 裕・福田 一夫	第55回(平成13年)	中井 佑二・今出 亮一・新田 祐輔
第27回(昭和48年)	山本 行秀・中島 克紀・前田ふさゑ	第56回(平成14年)	吉賀 美緒・津越 遼平・平海 裕子
第28回(昭和49年)	森本 幸吉・磯野 仁志・望月 美孝	第57回(平成15年)	中川 祐・吹田 航一・吉川 景子
第29回(昭和50年)	大崎 靖史・今井 和夫・城 伸幸	第58回(平成16年)	幾原 亜季・井筒谷昭平・鈴木 瑞穂

(注) 年度及び氏名は任命された時のもの

# 平成16年度本校職員一覧

氏名	校務分掌	氏名	校務分掌	氏名	校務分掌
田寺和徳	校長	合田美香人	教務	松本篤子	進路
広岡俊二	教頭	上月通歳	総務・80周年	松本英三	2年6組
小池英隆	事務長	小林裕明	2年主任	真鍋芳嗣	1年副主任
芦谷進	3年主任	澁田優子	総務	真野育三	総務
池田優	2年4組	高松正明	80周年	三嶋文子	3年1組
諫山勝之	進路	竹内均	1年9組	水田政嘉	2年5組
井出清	進路	多鹿美信	図書	満本さおり	保健
伊藤邦一	総務	田中紀之	2年副主任	村尾雅幸	2年2組
伊藤千恵子	2年8組	田中盛雄	3年3組	森郁二	生徒指導
稲岡寿美子	図書	辻浩文	1年2組	守谷生也	3年6組
魚井和彦	教務	土居勲	3年2組	山本武	保健・80周年
魚住和晃	1年8組	名村美保	生徒指導	山本真弘	1年1組
大江佐智子	1年7組	新阜裕士	1年3組	横田公平	保健
梶村敏	進路	西澤秀樹	2年9組	Vanessa Vallejo	A L T
柏木真紀	1年5組	野島孝一	3年10組	加藤健司	事務
糟谷仁志	3年副主任	野村秀彦	2年1組	岸口智子	事務
桂文明	1年6組	萩原美登里	2年3組	森下裕子	事務
鴨川なおみ	総務	春名正章	3年5組	藤元麻里	事務
河岡稔和	生徒指導	檜皮万里子	保健	石田久子	校務
川勝和哉	人権教育	深澤景吾	生徒指導	田之上智子	校務
川田良一	人権教育	藤井寿雄	教務	藤井勝文	校務
木澤直子	3年7組	藤本善生	1年4組	田浦彩子	校務
岸部健司	3年4組	古田博和	人権教育	井上凱央	校務
木村真一	3年8組	前川満之	教務	上内福雄	校務
清川和人	3年9組	松浦文佳	2年7組		
楠本信治	1年主任	松尾あす香	教務		

# 卒業生進路状況

年度	男 女	進学						就職	その他 (予備校等)	計
		4年制大学			短期大学		専修 各種 準大学			
		国立	公立	私立	国公立	私立				
平成 6 年度	男	95	21	32	0	0	3	0	95	246
	女	64	23	83	5	9	1	2	42	229
	計	159	44	115	5	9	4	2	137	475
平成 7 年度	男	94	26	50	0	0	2	0	105	277
	女	64	23	67	3	4	6	0	33	200
	計	158	49	117	3	4	8	0	138	477
平成 8 年度	男	116	33	44	0	0	1	0	79	273
	女	78	24	59	2	0	0	0	41	204
	計	194	57	103	2	0	1	0	120	477
平成 9 年度	男	117	24	34	0	0	2	0	58	235
	女	58	33	64	3	1	0	0	38	197
	計	175	57	98	3	1	2	0	96	432
平成 10 年度	男	94	22	33	0	0	2	0	60	211
	女	60	32	47	5	2	6	0	31	183
	計	154	54	80	5	2	8	0	91	394
平成 11 年度	男	94	17	45	0	0	4	1	71	232
	女	59	17	48	3	0	2	0	34	163
	計	153	34	93	3	0	6	1	105	395
平成 12 年度	男	87	19	23	0	0	0	0	74	203
	女	50	22	58	2	2	9	0	49	192
	計	137	41	81	2	2	9	0	123	395
平成 13 年度	男	56	25	23	1	0	5	1	83	194
	女	58	27	61	3	0	4	0	43	196
	計	114	52	84	4	0	9	1	126	390
平成 14 年度	男	58	20	24	0	0	2	0	88	192
	女	43	25	62	2	4	6	0	57	199
	計	101	45	86	2	4	8	0	145	391
平成 15 年度	男	67	29	32	0	0	0	1	69	198
	女	54	31	58	1	1	7	1	44	197
	計	121	60	90	1	1	7	2	113	395

# 校章・校訓・校歌・応援歌について

## 校章

旧制加古川中学校の校章については記録はなく、その由来は不明である。

加古川東高校の校章は、高2回生の堀田昌男氏の案を採用した。その間の事情について、50周年記念誌に龍見譲氏が次のように記している。

新制高等学校発足の時に中学校全生徒から校章を公募し、堀田昌男君の作品二種が選ばれたのである。(彼はその後、交流により加古川西高校に行った。そうして彼の作品が現在の加古川東高等学校の校章となり、一方が加古川西高等学校の校章となったのである。)彼は加古川東高等学校の校章について、「これは、久遠の過去から我が郷土をはぐくみ永遠の未来までつづく加古川の清き流れの上に立つ我が母校と、その母校の永遠の発展を希い、そこを巣立つ若人がわが故郷をこよなく愛し、そのもつ力をふるさとにそそぐ事を希う私の祈りです。」と語った。

## 校訓

旧制加古川中学校当時の校訓は「質実剛健」「自治創造」であった。もちろん男子だけの学校であり、おりから戦時色がだんだん濃くなりつつあった時代の風潮として、二つのうち「質実剛健」が実質的なスローガンとして重んじられていたらしい。次に50周年記念誌より高松一禎氏の文章を引用する。

「質実剛健」これは、男子だけの中学校当時にはふさわしいことばで、あらゆる学校行事の精神がこれで貫かれていたと思われる。すなわち服装においても——制服の下に着る肌着は、夏も冬も前開きの詰襟木綿のシャツ1枚で、メリヤスシャツの重ね着も許されなかったし——防寒具といっちは軍手だけ、遠足、行軍の弁当は梅干し入りの大きなにぎりめしを、ノリかトロロコブで巻いたものを2個と指定、等々。これらによって不拔の忍耐力を養おうという趣旨からであろう。

この後、新制高校の時代となり、男女共学制となったのを機に、「明朗親和」が採択され、「自治創造・明朗親和」を生徒綱領に掲げることになり、今日に至っている。

## 校歌

旧制加古川中学校の校歌は二つあり、初期の「光れる潮よ霞める島よ」は歌人・書家・国文学者として有名な尾上柴舟(尾上八郎)氏の作詩、作曲者は不明。つづいて制定された「流れてつきぬ加古の川」は矢作糸蔵氏作詩、加藤忠男氏作曲である。前の校歌を改めた理由について、作詞者の矢作糸蔵氏は「前のものは、あまりにも浪漫的に過ぎて弱々しいから」と語ったそうである。矢作氏は当時の国語漢文の教師、また加藤氏は数学の教師だが、音楽に造詣が深く吹奏楽の顧問でもあった。歌詞の内容が軍国調であるのは、当時の時代状況を反映したものである。

加古川東高等学校の校歌「いざ見よ、行く手輝く日の柱」(富田碎花氏作詩、須藤五郎氏作曲)は、昭和24年秋、母校創立25周年記念式典当日に発表されているが、次にその間の事情について、50周年記念誌より高松一禎氏の文章を引用する。

(詩は)生徒のものを何とか生かそうと思ったが、取り上げるものはなかった。高橋先生(本校職員)の作品に「光は常に東より」の一行だけを付け加えることにした。高橋きさの先生の作詩としてもらってもけっこうだからということであった。

次に作曲であるが、富田先生の内意を伺ってみたところその場で須藤五郎先生を推せんして下さったので翌10月6日(昭和24年)大阪府豊中市蛸ヶ池の先生のお宅を訪問、お願い申し上げたところ、「いいですね、すばらしい曲ができそうです。出来上がりを楽しみにはりきって作曲してみましょう。」と快く承諾して下さい胸の重荷を下ろしたわけでした。

今回の80周年では、記録媒体としてCD-ROMを作成することになったため、校歌、応援歌等も音の形で残すことが可能となった。そこで、これを機に、国内外で活躍していた花坂響氏にピアノと吹奏楽の伴奏譜の編曲を依頼して、別掲のものが完成した。

## 応援歌

昭和29年7月、加古川東高等学校応援歌が作られ文化祭で発表された。

第1応援歌「それ清流に」は当時の校長であった清水敬治氏作詩、共に中学3回卒業生の山本禎一、浅原弥平、両氏の共同作曲である。また第2応援歌「日丘の山に日は映えて」は当時生徒であった西島三恵氏の作詩、土井政子教諭を中心とする本校音楽部の作曲である。

## 旧制加古川中学校校歌 (初期の校歌)



ひかれるうしおよ かすめるしまよ におえるへいやよくろめるまつよ



いにしへ ゆかしき みかしほはり ま



くにのしゅう しめても たつわがこう しゃ

旧制加古川中学校校歌

(初期の校歌)

尾上 八郎 作

- 一、光れる潮よ霞める島よ  
匂へる平野よ黒める松よ  
いにしへゆかしきみかしほ播磨  
国の秀しめても立つわが校舎
- 二、心をあはせてわが師のもとに  
集ひて日毎に学ぶは何ぞ  
全き人としとくなり出でて  
祖国と君とに尽さんそれぞ
- 三、浮きたる世上の慣を退け  
一つの誠を確かに守り  
加古の大川行く水絶えず  
朝夕つとめむいざいざ友よ

## 旧制加古川中学校校歌



1. ながれて 一つきぬ かこのかわ



ときわに 一すめる はりまなだ



やまと たけるのみこあれし



あーとを とどむる いなみのの



ちはわが こーうの たつところ



つーどう ほうすう はっぴやく にん

旧制加古川中学校校歌

矢作 彥蔵 作詞  
加藤 忠男 作曲

- 一、流れてつきぬ加古の川  
常磐に澄める播磨灘  
日本武尊の皇子生れし  
遺跡をとむる印南野の  
地は吾が校の立つところ  
つどう 鵬雛八百人

- 二、自然の靈氣身に於いて  
久遠の生命創造らんと  
自治の大旗ふりかざし  
質実剛健ゆるぎなく  
精進む吾が伴 大丈夫の  
崇高く遠達けきその希望

- 三、建国ここに三千年  
宇内にきほふ列強と  
皇道宣布の大理想  
正義の翼々と  
大和雄叫び高らかに  
共に果さんわが使命

それ清流に（応援歌）

$\text{♩} = 100$

それ せいりゅう に かげ やど し - やちよ  
う をと - も にねり しわ ざ - こ -  
こ にしれん のと き - いた - る - かこ  
が わひ - が しか て ひが し - かに  
か てかこ が わひ が - しこ う -  
かこ が わ ひ が し かに ひが し -

それ清流に（応援歌）

清水 敬治 作詞

山本 鎮一 作曲

野鳥を友にわりしわざ  
ここに試練のとき至る

加古川東 勝て東

勝て勝て 加古川東高  
加古川東 勝て東

二、ああ杜行の朝明けに  
ほまれの旆旗色添えて  
金鳥は映ゆる日岡山  
(以下くり返し)

三、いま強豪とめぐり合い  
闘魂たぎる印南野に  
嵐は叫び雲は飛ぶ  
(以下くり返し)

四、ああ夕空にとどろける  
陣鼓の響栄光は  
やがて上らん刀田の月  
(以下くり返し)

応 援 歌

行進曲風に *mf*

ひおかのやまに ひははえて つちかうちから  
いくじゅうねん れ きしは かがやくせ  
ん - ばい の あせにそめたる  
このわざを いまこそためさん  
ひがしこ う フレフレフ  
レフレ かこがわひがし

応 援 歌

西島 三恵 作詞  
本校音楽部 作曲

一、日丘の山に陽は映えて  
つちかう力 幾十年  
歴史は輝く 先輩の  
汗に染めたる このわざを  
今こそためさん 東校  
フレフレフレフレ

加古川 東

二、刀田のいらかに月さして  
たがいに誓う 若人の  
四季に鍛えし この闘志  
火玉と燃やせ 一筋に  
戦いぬかん 東校  
フレフレフレフレ

加古川 東

三、昔を今に 変わらざる  
流れは清き 加古川の  
水にはぐくむ 若人よ  
気高く燃やせ この意気を  
今こそ示さん 東校  
フレフレフレフレ

加古川 東

# 所蔵資料について

(清流会事務局で確認されているもの)

整理番号	資料名	形式	管理場所・寄稿者・寄贈者・保管者
1	「創立80周年記念式典・祝典ビデオ」	VDS・DVD	清流会事務局
2	「創立80周年記念CD」記念誌・校歌等収録	CD(データ・音楽)	清流会事務局
3	「創立80周年記念美術展作品集」(CD記録)	CD・DVD	清流会事務局
4	「創立80周年記念新聞全面広告」	新聞紙面	清流会事務局
5	記録「勤労動員の中学時代」	CD収録	大森和夫(中17)
6	記録「恩師寸描 中学18回同窓会」(平成12年)	手書資料 CD(PDF)	清流会事務局・尼子宗二(中18)
7	記録「中学18回同窓会」(平成13・15年度)	手書小冊子 CD(PDF)	清流会事務局・尼子宗二(中18)
8	記録「由井先生来信纏め」高校3回同窓会通信「燦三会往来」	冊子 CD収録	畑谷芋一(高3)
9	記録「男女共学黎明のころ」	CD収録	齊藤茂子(高3)
10	「創立10周年記念誌」(昭和9年)	冊子・DVD(PDF)	清流会事務局・井上義則(中16)
11	「創立40周年記念誌」(昭和39年)	冊子・DVD(PDF)	清流会事務局
12	「創立50周年記念誌」(昭和49年)	冊子・DVD(PDF)	清流会事務局
13	「創立60周年記念誌」(昭和59年)	冊子	清流会事務局
14	「創立70周年記念誌」(平成6年)	冊子	清流会事務局
15	「創立70周年記念新聞全面広告」	新聞紙面	清流会事務局
16	「卒業アルバム」中学1・3回	冊子	校長室
17	「卒業アルバム」高校1～6・8～57回	冊子	校長室
18	清流会「会誌」第4～9号(昭和5～12年)	冊子	清流会事務局・井上義則(中16)
19	清流会「会誌」創立10周年記念号(昭和9年)	冊子	清流会事務局・井上義則(中16)
20	清流会「会員名簿」(昭和8年)	冊子	清流会事務局・井上義則(中16)
21	清流会「会員名簿」(昭和24年)	冊子	清流会事務局・西澤嘉彦(中18)
22	中学校校友会「会誌」第2号～13号(昭和3～15年)	DVD(PDF)マイクロフィルム	清流会事務局
23	中学校同窓会「会誌」第7号～第13号(昭和11～17年)	DVD(PDF)マイクロフィルム	清流会事務局
24	「清流」50周年記念特別号(昭和49年)	冊子	清流会事務局・十倉茂明(高9)
25	「清流」「清流新聞」第1～32号(昭和23～26年)	DVD(PDF)マイクロフィルム	清流会事務局・畑谷芋一(高3)
26	「清流新聞」第3～153号(欠版あり)(昭和23～48年)	DVD(PDF)マイクロフィルム	清流会事務局
27	「清流新聞」創立30周年記念号(昭和29年)	新聞復刻版	清流会事務局・中谷克彦(高8)
28	報国團「團誌」14号(昭和16年)	冊子	清流会事務局・西澤嘉彦(中18)
29	報国團「團誌」15号(昭和18年)	冊子	清流会事務局・西澤嘉彦(中18)
30	教育勅語・軍人勅諭(一部分)	コピー	清流会事務局・西澤嘉彦(中18)
31	中学校入学許可書	実物	清流会事務局・北野泰成(中13)
32	中学生徒証(昭和18年)	実物	清流会事務局・佃 孝英(中18)
33	加古川中学校報国隊腕章(昭和19年)	実物	清流会事務局・佃 孝英(中18)
34	写真(木造校舎解体時)	写真集	清流会事務局
35	「いいたい放題」(昭和32年)	冊子	清流会事務局・十倉茂明(高9)
36	「めるへん」第21～25号(昭和30～34年)	冊子	清流会事務局・十倉茂明(高9)
37	「ナイル」第4号(昭和32年)	冊子	清流会事務局・十倉茂明(高9)
38	「めるへん」「ナイル」各号	冊子	雑誌部・地理歴史考古学研究室
39	特集記事「学校人脈」神戸新聞社編	コピー・切り抜き	図書館
40	特集記事「高校人国記」朝日新聞社編(平成9年)	コピー	清流会事務局
41	60周年記念誌 原稿・写真・記念行事記録写真	原稿・写真等	清流会事務局
42	70周年記念誌 原稿・写真・記念行事記録写真	原稿・写真等	清流会事務局

この他にも多くの方々から貴重な写真や資料を提供していただきました。それらはDVDにして大切に保存しております。

# CD-ROM所収のデータについて

本CD-ROMはエクストラCD-ROMです。オーディオ・データとパソコン用のデータの二種類があります。オーディオ・データについては、CDプレイヤーで再生ができます。

## 《オーディオトラック部分》

track 1～2 加古川東高等学校校歌

作詞 富田 碎花 作曲 須藤 五郎 編曲 花坂 響

track 1 吹奏楽・ピアノ・合唱によるフルバージョン

track 2 ピアノ・合唱によるバージョン

指揮 花坂 響 (track 1)

演奏 加古川東高等学校吹奏楽部 (詳細は巻末に掲載) (track 1)

合唱 加古川東高等学校合唱部・生徒会執行部 (詳細は巻末に掲載) (track 1, 2)

ピアノ 黒岩 史 (加古川東高等学校合唱部) (track 1)

松浦 基悦 (track 2)

track 3 旧制加古川中学校校歌 (初期のもの) 作 尾上八郎

track 4 旧制加古川中学校校歌 (中期以降のもの) 作詞 矢作糸蔵 作曲 加藤忠男

track 5 応援歌 (それ清流に) 作詞 清水敬治 作曲 山本禎一・浅原弥平

track 6 応援歌 (日岡の山に) 作詞 西島三恵 作曲 本校音楽部

ピアノ 富田万里子 (track 3～6)

Recording engineer 伊東克彦

Recording assistant 上村康輔 金本有加 坂本有紀 堀田亜美子 池田太郎 伊東由衣 谷川涼介

Recording coordinates

学校法人 大阪音楽学園 キャットミュージックカレッジ専門学校

MUSIC OFFICE MARIKO

## 《パソコン用データ部分》

以下のファイルに分けています。校歌・応援歌以外はすべてPDFファイルになっています。

Adobe Reader (旧 Acrobat Reader) 等でお読みください。

Adobe Readerは本CD-ROMに取められていますのでインストールしてお使いください。

- CD-ROM所収のデータについて
- 校歌・応援歌 [MP3 データ]
- 創立80周年記念誌
- 平成16年度 兵庫県立加古川東高等学校 学校要覧
- 文章による資料 (敬称略)
  - ・記録「勤労働員の中学時代」(大森和夫 (中17))
  - ・記録「恩師寸描 中学18回同窓会」(平成12年) (尼子宗二 (中18) 提供)
  - ・記録「中学18回同窓会」(平成13・15年) (尼子宗二 (中18) 提供)
  - ・記録「由井先生来信纏め」高校3 回生同窓会通信より (畑谷芋一 (高3) 提供)
  - ・記録「男女共学黎明のころ」(斉藤茂子 (高3))
- 創立80周年記念美術展出品作品
- 創立80周年記念式典の様子
- 創立70周年記念誌

【システム動作推奨環境】 Windows XP/2000以上が搭載されたパソコン

## 《校歌新編曲のレコーディングの関係生徒・職員》

### 【生徒会執行部】

高58回 井筒谷 昭平 石見 岳人 柏木 僚 川畑 光平 北口 久将  
桑村 真理 籠谷 健吾 鈴木 瑞穂 竹田 有希 中山 まどか  
長谷川 貴一 堀内 正子 山本 雄太

### 【合唱部】

高58回 永 恵 愛季子 岩谷 陽子 (生徒会執行部) 平 群 陽子  
北川 雄一郎 (生徒会執行部)  
高59回 志原 彩未 田中 友梨 宮本 明日香 黒岩 史：ピアノ演奏

### 【吹奏楽部】

高58回 梅本 沙矢 大矢 理恵 許斐 千裕 藤谷 大輔 平郡 由香里  
松浦 祥悟 山上 真菜 岸 奈緒美 櫻井 紅実 志水 瞳  
中山 陽子 原 冴佳 北条 綾 森下 文音 泉 陽子  
小山 希望 坂田 拓也 西川 久美子 長谷川 祐紀 藤谷 有美  
本安 貴登 三宅 純子 本岡 慧子 齊藤 有紀 白田 吉昭  
西川 慎哉 三嶋 咲穂 村岡 千紘 森脇 ななえ 安藤 文菜  
石井 愛弓 記村 ゆき 濱田 裕美子 村上 由貴 佐野 茉里奈  
山田 麻惟子  
高59回 籠谷 真奈 川端 史子 関 恵 本岡 真理子 春名 美沙  
神吉 理沙 後藤 彩 西村 未帆 丸山 裕之 山本 真弓  
黒田 聡子 中田 有紀 石川 祐実 上田 悠 橋本 かなめ  
藤原理 恵 山内 貴美子 荻野 公美子 竹内 玄信 福田 吉晃  
古谷 優季 菊池 美帆 栃下 恵理 本岡 寛子 貝田 龍太  
高松 大 綿谷 亮  
【指 導】(五十音順)  
魚井 和彦 川勝 和哉 小林 裕明 名村 美保 野村 秀彦  
深澤 景吾 松尾 あす香

## あとがきにかえて

一口に「八十年」と言いますが、「八十島」<sup>やそしま</sup>「八十国」<sup>やそくに</sup>など多くの古語が示すとおり、「八十」は数の多いことを示す語でした。末広がり<sup>やひろがり</sup>の語として、また稀なる長命を讃えるために「傘寿」<sup>かさじゅ</sup>として祝ってきたことも言うまでもありません。

この小誌を作るにあたり、旧制中学校から新制高等学校へと二万六千名の同窓生が、川の流れのごとく受け継がれてきた八十年間の歩みの輝きに、改めて思いをいたすことになり、貴重な機会となりました。

今回は写真をふんだんに入れ、八十年の歴史を視覚的に感じとれるような体裁にいたしました。また、CD-ROMを添付することで、音声とともに大容量の資料を載せることができました。本校の歴史を多角的にとらえていただければ幸いです。

写真については、「写真の双葉」の山田和成（高16回）、山田育郎（高19回）両氏にお世話になりました。また、多くの卒業生の方から貴重な写真を送っていただきましたが、すべてをお載せすることができませんでしたのが心残りです。さらに、小野高速印刷の湯川祥史郎氏をはじめとするスタッフの方々には、ひとかたならぬお世話になりました。心より厚くお礼申し上げます。

### ■ 編集委員 ■

委員長 十倉 茂明  
副委員長 宮永 達・上田仁美  
創立80周年記念事業委員長 高松 正明  
校内委員（五十音順） 魚井 和彦・大江佐智子・清川 和人  
小林 裕明・名村 美保・野村 秀彦  
春名 正章  
編集協力 湯川祥史郎  
表紙題字 上月 通歳（本校職員）

口絵の航空写真は平成17年1月13日撮影

---

発行日 平成17年3月1日  
発行 兵庫県立加古川東高等学校 創立80周年記念事業実行委員会  
〒675-0039 加古川市加古川町栗津232-2  
TEL 0794-24-2726 FAX 0794-24-5777  
URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/~kakohigashi-hs/>  
編集 創立80周年記念誌編集委員会  
印刷・製本 小野高速印刷株式会社  
〒670-0933 姫路市平野町62番地  
TEL 0792-81-0008 FAX 0792-23-3523  
URL <http://www.ohp.co.jp>

---